

北山春景 (養生・灰屋分館) 山中 茂

世界の山旅

辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

大阪支店ニューゼaland特別企画 日帰りで楽しむ山旅! 特別企画 マックバックで多く! ニューゼalandトレッキング インドシナ最高峰と2つの世界遺産を訪問

| | | |
|---|--|--|
| 北島の名峰ルアペ山頂と トンガリ国立公園ハイキング 7日間 <small>日程</small> 大阪 <small>料金</small> ●3/22発.....¥428,000 | ミルフォード・トラックと マウントクック 10日間 <small>日程</small> 大阪・東京 <small>料金</small> ●3/31発.....¥598,000 | ベトナム最高峰ファンシーパン山頂と アンコールワット遺跡群 12日間 <small>日程</small> 大阪 <small>料金</small> ●3/23発.....¥398,000 |
|---|--|--|

東チベットを回り、世界最高峰を走る西蔵鉄道に乗り 南アフリカのハイキングを満喫! 日本から最も手近な4,000m峰を登る

| | | |
|---|---|---|
| ナムチャバルクと聖なる湖・ 東ヒマラヤ大周遊と青蔵鉄道 10日間 <small>日程</small> 大阪・名古屋・福岡・東京 <small>料金</small> ●3/19発.....¥480,000 <small>料金</small> ●4/9発.....¥516,000 <small>料金</small> ●4/23発.....¥528,000 | 南アフリカ・テーブルマウンテン 縦走と喜望峯、ビクトリアの滝 9日間 <small>日程</small> 大阪・名古屋・福岡・東京 <small>料金</small> ●3/15発.....¥586,000 <small>料金</small> ●4/12発.....¥580,000 | マレーシア最高峰 Mt.キナバル山頂 6日間 <small>日程</small> 大阪・東京 <small>料金</small> ●4/12発.....¥188,000 <small>料金</small> ●4/29発.....¥238,000 <small>料金</small> ●5/17●6/7発.....¥204,000 |
|---|---|---|

世界第3位の高峰を望む静かな山旅 車とハイキングでめぐるガンジス河の源流 エベレスト山群をまたいだ中の展望地クンボチェ

| | | |
|---|---|---|
| シッキムヒマラヤ・カンチェンジュンガ トレッキングとダーズリン 11日間 <small>日程</small> 大阪・東京 <small>料金</small> ●4/2●4/23発.....¥426,000 | ナンダデビ展望山上のホテルと 世界最美の山 9日間 <small>日程</small> 大阪・東京 <small>料金</small> ●4/26発.....¥366,000 <small>料金</small> ●5/10発.....¥288,000 | エベレスト・パノラマ・ トレッキング 13日間 <small>日程</small> 大阪・名古屋・福岡・東京 <small>料金</small> ●3/4●3/18●3/25●4/8発.....¥360,000 <small>料金</small> ●4/27発.....¥372,000 |
|---|---|---|

アンナプルナとダウラギリの巨峰群を眺める周遊コース 快道なロッジに滞在し、7,000~8,000m峰を登ってから寝る 特別企画 コールドワーフ 山頂でビールを飲む

| | | |
|---|---|---|
| アンナプルナ・ダウラギリ・ パノラマ・トレッキング 9日間 <small>日程</small> 大阪・名古屋・東京・福岡 <small>料金</small> ●3/16●4/11発.....¥288,000 <small>料金</small> ●3/21●3/23●3/30●4/4発.....¥298,000 | アイスフォール展望ロッジ滞在で 楽しむ絶景のダウラギリ、アンナプルナ山群と ニルギリ大炊屋 12日間 <small>日程</small> 大阪・東京 <small>料金</small> ●3/24●4/7発.....¥438,000 | ランタン・ヘリ・トレッキング 9日間 <small>日程</small> 大阪・東京 <small>料金</small> ●4/28発.....¥418,000 |
|---|---|---|

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>


アルパイン ツアー サービス 株式会社
国土交通大臣登録旅行業第490号/16第5旅行業協会正会員 日本山岳連盟
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
 (株)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でおリジナルツアーを企画してみませんか。
 山岳会、ハイキングクラブで企画
 ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
 キングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩き
 をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
 らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行ブ
 ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。



庭園の桜 (醍醐寺)

四月第二日曜日 豊太閤花見行列
 太閤の贅を尽くした醍醐の花見
 櫻色に染まる醍醐寺の観桜の宴
 彼岸桜 枝垂れ桜 山桜
 豪華絢爛さは秀吉好みか
 大振りの枝に満開の櫻が咲き乱れ
 櫻に覆われた部屋のような
 霊宝館の庭は匂い立つような宵櫻
 夜気を孕んだ涼やかな風が
 優しく一撫でして通り過ぎた
 梢はさわさわと葉擦れの歌を謳い
 たわわにしなる薄紅を散らす
 風に撫でられはらはらと舞う花卉
 天から降る雪華の如く優く
 観る者の心を捉えて離さない

参道の桜 (醍醐寺)

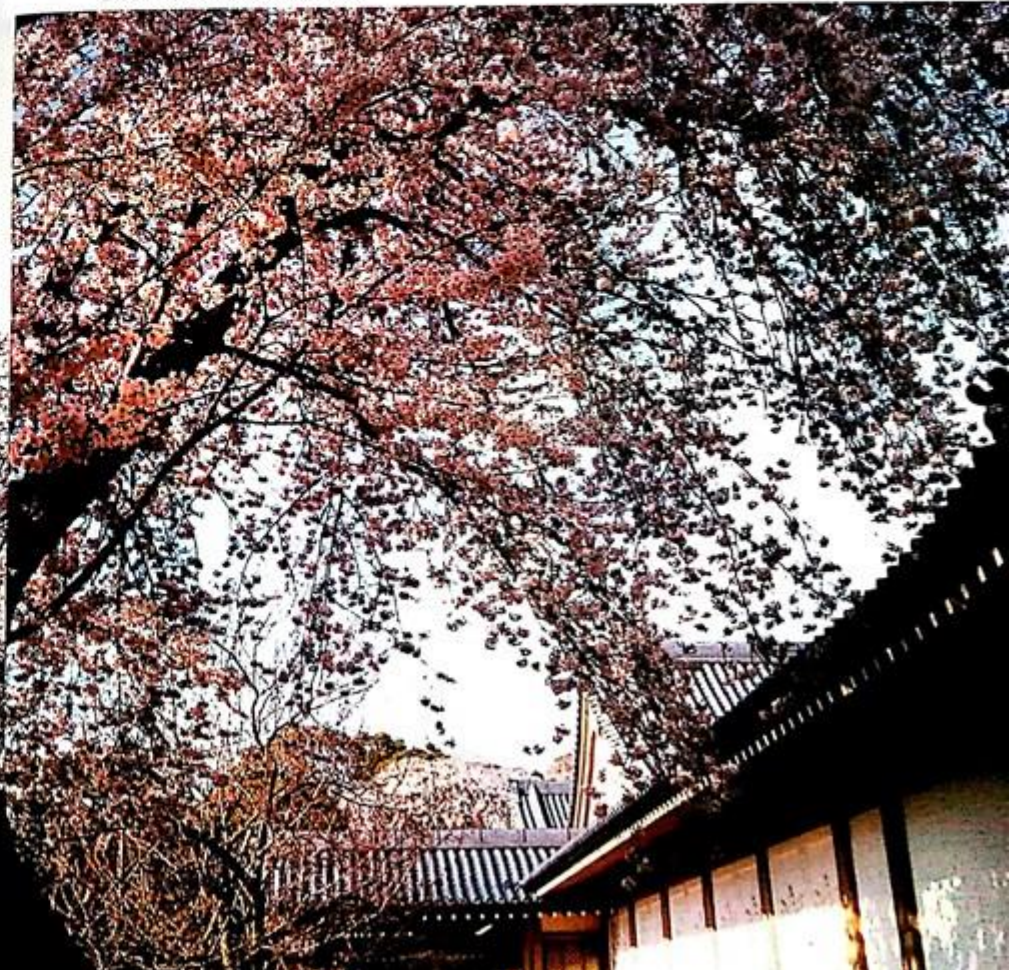


Photo essay

醍醐の桜

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

霊宝館のしだれ桜 (醍醐寺)





空に向かって

季節の



芽吹き

実景

美山・大野ダム (丹波)

陽春

撮影 武市通治



ダム湖の春

幸せ気分

日本の春

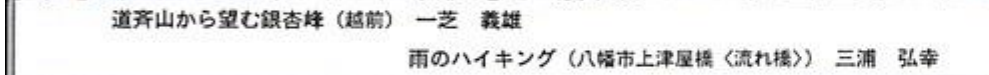




道齊山から望む銀杏峰（越前） 一芝 義雄



樹氷煌めく（八ヶ岳） 武田 誠司



雨のハイキング（八幡市上津屋橋〈流れ橋〉） 三浦 弘幸



湖北の春（海津大崎） 中川 光郎



春の雪原で -北ア・五竜アルプス平-

奥田 英一郎



白い山並を眺めながら—背後は信越の山々— (小遠見尾根・地藏の頭)



武田菱の雪型くつきりと(五竜岳)



滑降の合間

新伴が 関西の山

08年3・4月 隔巻 No.99

●目次

表紙：松田敏男「燕頭山の朝」(南アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1967年より山岳映画、山岳画の鑑賞家として活躍。(京都平安南院、南アルプス山小屋、東京キャラクター百貨、他)山の映画集「光る山」刊行(東京放送出版局)。京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア

醍醐の桜……………撮影 由井 収 文 松永 恵一
季節の実景(陽春)「美山・大野ダム」……………武市 通治 4 2
(口絵)山中 茂 武田誠司 中川光郎 一芝義雄 三浦弘幸 奥田英一郎
随想(山のエッセイ)
森を歩く……………葛見 守康 12 10
山での危険回避について……………森木 伸人

紀行

角田山と桶倉山(新潟)……………田中 明 14 18
皆子山(京都北山)……………木村 太郎 24 18
清水山から將軍塚へ(京都東山)……………森木 伸人
連載 標高による山の紹介シリーズ 39 △△99mの山
三峰岳・立烏帽子山・アサヨ峰・赤岳……………松田 敏男 28 30
木戸口橋からピーク1080(止良)……………小山 誠次
冬の御池岳奥ノ平(鈴鹿)……………長谷川 雅俊 35 30
滝波山(奥美濃)……………山田 明男 42 35
連載 韓国登山シリーズ ②
白雲台(韓国)……………吉見 英樹 45 42
連載 三角点を訪ねて ⑤
旧坂内村広瀬の山、湧谷山へ(奥美濃)……………磯部 純 49 45

●文学歴史探訪ハイイク

伊勢・外宮から内宮へ……………松永 恵一 58 54
●「山のレポート」山の地名を歩く⑨「保呂山」……………西尾 寿一
コースガイド
①湯舟山(小嵐岳)・小倉富士(京都丹波)……………長泉 清司 64 62
②鳥ノ嶺屋山から龍門岳へ(宇陀)……………磯部 純
③霊仙ヶ岳と法貴谷(丹波)……………柴田 昭彦 68 64

せせらぎ……………73
新ハイサービステーション……………77
新ハイ関西山行計画……………83
新ハイ関西山行報告……………94
入会の案内・新入会員紹介……………103
編集後記・広告案内……………104

巻頭言

安全に登山するための鉄則はあるのだろうか？ 突発的自然災害による遭難は別にしても、滑落・転倒・道迷いなど、自己責任の遭難は回避したい。山中を無事に歩くには、まず体力が第一、柔軟な身体と強靱な脚力はどうしても必要。次は本人の性格で、これは難しい。迷わず焦らずゆっくり落ち着いて、慎重に行動する余裕がなければならぬ。だからと言って細かいことに気を遣い過ぎ、神経質で引っ込み思案では、山を自由に歩けない。時には周辺の地形やルートを読んでの思い切った決断、そして信念に基づく大胆な行動も必要である。山が険しくなればなるほど闘争心が湧き、それに挑戦する意欲も必要だろう。

要するに、場面に応じ、冷静な思考と大胆な行動の両面を発揮しなければならぬ。この二面性を、一流の登山家は持っていると言えよう。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



克

森を歩く

鷺見 守康

森林インストラクターという資格制度がある。
 森林インストラクターとは「森林を利用する一般の者に對して、森林や林業に関する知識を与え、森林の案内や森林内での野外活動の指導を行う者」で、環境保全活動・環境教育推進法の規定により、環境大臣と農林水産大臣に登録し、社団法人全国森林レクリエーション協会が実施する資格試験に合格した者に称号として与えられている。いわば国家資格に準じるもので、自然観察分野では唯一の法制度による資格と言えるだろう。名称独占の国家資格を付与

する試験には難関のものが多く、この資格試験もその例にもれず、平成3年の制度発足以来、合格率は二割前後で推移している。

この資格試験を受けるため、一昨年、昨年と大阪まで出かけた。試験会場は全国に六ヶ所あるが、東海地方に会場は用意されておらず、一番近いのが大阪だった。

一昨年は試験を少しなめてかかったところがあり、当然、ものの見事に跳ね返された。姿勢を正した昨年は、二次の面接・実技試験に東京まで出かけることとなった。

私がこの資格にこだわったのは、リタイア後の第二の人生の過ごし方がなかなか見えなかったからだ。大袈裟に言えば、生き方を貫くモチベーションがほしかったのだろう

と思う。
 40歳から山を歩き始めて20年経った。自然観察から出発した山歩きも、そのスタイルはいっしょく変化していた。

山はピークハントの爽快さや冒険的な魅惑に満ちている。その上に百名山踏破とか、1等三角点完登とかの目標を持てば、登山は実に楽しいに違いない。

けれど、同時に山は森林に覆われた豊かな自然の場でもある。山の自然に関心が薄くては、「ピークを目指して山を見ず」ということになりはしないか、という懸念がぬぐえなかった。

「初心に還るべきでは」という想いは、60歳の定年を数年後に控えた頃から強くなった。どこか情性に流れている自分の山行スタイルに決着を



克

随想 (山のエッセイ)

つける必要があったのだ。
 今、私の中では「山を歩く」から「森を歩く」に変化した。山をピークとか冒険の場と見るのではなく、山を森として見ていきたいと思うのだ。

わが国は、国土面積の約67%を森林が占める「森の国」である。そして、山岳の特色はそのような緑豊かな森林に覆われているところにある。わが国の山岳に比べてはるかに高いヒマラヤやヨーロッパアルプス、あるいはカナディアンロッキーなどは、日本の山には無い岩壁と氷河の絶景をもち、写真を見ても息を呑むような迫力である。

けれど、それらの世界の山に比較しても日本の山の美しさは比類なきものと言われて

いるのだ。
 緑豊かな森林と溪谷を特色とする日本の山は、自然の多様性に満ちているからだという。そんな自然の多様性に富んだ山岳の森をていねいに訪ねてみたいと思う。

緑豊かな森林は、近年、その効用についても注目されている。
 今世紀の人類的な課題として地球温暖化対策が叫ばれている。温暖化の原因は、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加であり、ことに二酸化炭素の排出量は飛び抜けて大きい。

光合成の際に大気中の二酸化炭素を吸収する森林は、その土壌も含めると、大気中の総炭素量の二倍以上を保持し

ており、それ故、その機能に関心が集まっている。

内閣府の「森林と生活に関する世論調査」でも、国有林に期待する働きとして「二酸化炭素を吸収することにより地球温暖化防止に貢献する働き」という回答がもっとも高く53%に上ったという。

このような森林の環境保全効果は、大規模で複雑な森林生態系の正常な活動に基づいており、今、森林の生命活動への理解がとて重要なことだと考えている。

森を歩き、多様性に富んだわが国の自然を楽しみながら、多くの人達と森林生態系を見守っていきいたいと思っている。



克



克

随想 (山のエッセイ)

山での危険回避について

藪木 伸人

2007年、三重県内の山でも何件かの遭難が報じられた。その中には私が通ったことのある道も含まれていた。特別な技術や豊富な経験を必要とする場所ではなく、いわゆる一般登山道であった。

言うまでもなく山では実にさまざまな危険が想定される。準備万端と思っても運悪く遭遇する可能性のある危険は枚挙に遑がない。これらのことは分類し項目立てて記すとよいのだろうが、本格的な登山経験の乏しい私の手には余るし、類書も多く出版されているので、ここでは私の思

いつくまに書き連ねる。

まず、野生生物による危険がある。熊・猪・野犬・蜂・雀蜂・ダニ類などが挙げられる。幸い私は今のところ被害に遭っていないが、蜂や雀蜂はよく見かけるので、近づかないように気をつけたい。知人で、目にダニが入って病院に行ったという事例もある。やぶ漕ぎの際は要注意だ。熊も近年、生息域が変化してきているようで、かつてはいいと言われていた山域でも気は抜けない。

次に、天候の変化。私は雨や雪が予想される日は山に行かない。仕事やメンバーの都合で、その日しか行けないという場合も無理はしない。特に悪天候での単独行はしない。気象に関しては、このほか、

も気をつける状況だが、気をつけているはずの場面で、なぜ事故は起こるのだろうか。

それには、疲れや焦りといった自らの心身の要因が絡んでいるかもしれない。私も、早く上りたい、あるいは下りたいと思うことがよくあるが、このような焦りは危険に直結しているのだと肝に銘じておかねばなるまい。

さまざまなアクシデントに遭遇したときは、なおさら冷静さを失わないようにしたいものである。例えば、身に付けている物の紛失や破損(サックを落とす、眼鏡のレンズを割る、靴底が外れるなど)。そして、道迷いも常に起こり得る。数多いテープやあいまいな標識によるミスリード、事前にわからなかった地形の変化(倒木、山ヌケ、植生変化による

トレースの消失など)、読図の誤りも道迷いに直結する。

「地図読み山行」は、本会でも実施されていて、有意義なことと思う。テレビで知ったが、私の地元である松阪の山岳会では、道迷いの体験をして正しいルートに戻るといいう訓練もされているようである。高度変化、飲食・飲酒による体調不良、増水、雪崩、火の不始末、猟期における流れ弾など、危険因子はまだまだある。

万全の備えをしたつもりでも、絶対安全ということはない。自分の至らない点をもう一度顧みつつ、次の山行に臨みたいと思う。

濃霧・強風・落雷(それに伴う山林火災)などが危険因子だ。山で雷鳴を聞いたら慎重な判断が必要である。「まだ遠い」と思うのは誤りで、雷雲の下では、いつでもどこでも

落雷の危険があるようだ。意図せぬ場所での日没を迎えた場合も危険につながる。季節や行程の長さに応じてヘッドランプ・防寒具・非常食などを携帯していかないとんでもない事態になりかねない。

三つ目に、山での体調不良およびけがある。急病という危険性は、誰にも避けようがないが、熱中症・食中毒など自己管理でほぼ防げるものもある。そして、山岳遭難の際、最もよく聞かれるのが、転倒や滑落、落石による負傷である。急斜面、岩場、沢の渡渉、道の凍結などは、誰で

春植物たちとまどろむ

角田山と樋曾山

新潟

田中 明

「越後の隠れた花咲く名山」のキャッチコピーが目飛び込んできた。

早春のこの時季、越後といえは角田山と弥彦山が知られているようだが、観光地化の進む弥彦山より他に適当な山はないかと探し、スプリングエフェメラル、花の妖精たちとまどろむこととした。その中でも山野草の女王と言われ人気の高いカタクリやキクザキイチゲが大群生の、マイナーな樋曾山をあえて選んだ。

今回は「ムーンライトながら」で大垣駅を発ち、スマイレの種類が多いことで名の知れる高尾山でひと遊びした後、

「ムーンライトえちご」で新潟入りのプラン。体力勝負との注意書きが効いたのか、参加者8名とややさびしかったが、花巡りとしては少人数にこしたことはない。

まず、高尾山の花巡りについて略記してみよう（詳細は本誌87号28ページ）。好天のもと、高尾山をたっぷり楽しみ、とりどりの山野草に心ときめかせた。

まずチツボスマイレ・オオタチツボスマイレ・アカフタチツボスマイレ・ナガバノスマイレサイシン・エイザンスミレ・アオイスマイレ・オトメスマイレ・オカス

ウ・ウラシマソウ・エゾエンゴサクなどの珍しい種類が、さらに群生しているともなれば、さすがに大興奮冷めやらぬ状態が続いた。

このような花風景で高尾山の1日を遊んだ後、花好き8名が2日目に新潟へ乗り込んだ。到着した巻駅では、高尾山での花巡りで十分満足したのか、すっかりとムーンライト内で熟睡できたようで、これから始まる越後の花旅の期待に、早朝だというのに明るい大きな声での会話がはずんでいる。

角田山では桜尾根コースをたどり、オオミスミソウに出会いたいといと、早朝

6時半から歩き出した。

ところが、たしかに大群生していたが、早朝ではオオミスミソウやカタクリの開花はややさびしく、白、ピンク、青、紫など、花色にバリエーションがあるオオミスミソウの超満開の風景には出会えなかった。

ミスミソウの、和名の三角草は三裂した葉先が尖ることに由来したもので、葉先がやや丸みを帯びるものがスハマソウと呼ばれている。これらは本州、九州の太平洋側にも見られ、オオミスミソウは佐渡島、角田山、弥彦山など日本海側で見られるようだ。

オオミスミソウとカタクリ



ミレ・シハイスミレ・ヒナスミレ、最後はお目当てのタカオスミレなど、各種のスマイレ類を大いに楽しんだ。

ニリンソウ・ヤマリソウ・ハシリドコロ・ミヤマキケマンなど、多数の見慣れた花々にはメンバー達もほとんど関心を示さないが、ハナネコノメ・ヨゴレコノメ・ミミガタテンナンショ

オオミスミソウ・ミスミソウ・スママソウは雪解け間もない春先に咲くことから、一般に雪割草の名で園芸好きな人には馴染みぶかい。植物的にはユキワリソウは、北アルプス朝日岳の登山道などでも出会えるサクラソウ科の弱々しい可憐な種である。このことは思いのほか知られていないようだ。

角田山の花園の主役たちはオオミスミソウ・カタクリ・キクザキイチゲだが、華やかな舞台を飾る脇役たちも数え切れない。

なかでも東北から北陸方面、日本海側で咲くという、ナガハシスマイレ・コシノカンアオイ・ミチノクエンゴサク・ナニワズなど、越後ならではの地方固有種が舞台を一層華やかにしてくれた。花好き達はこれらの脇役たちのチェックもきっちりし、アジシながらこれまでの興奮のルツボと化したのである。

これだけではなく、ウグイスカグラ・スマイレサイシン・オウレンなども見飽きるほどであった。ずっと続いてきた花園を3時間もの





コシノカンアオイ

んびり歩き、角田山はここがピークかとも思えないほどに広い芝生の頂上。花疲れをとうとうと大休止したが、東京など、あちこちからの遠方組みが引きも切らない。このような混雑を避けて平日を設定したにもかかわらずである。中高年はどなたも元気。

下山道は樋曾山登山を考慮に入れ、五ヶ峠コースを進むこととした。道はまったくのハイキングコースでよく踏まれ、しっかりとした道標も立てられ、危険な箇所も見当たらない。



コシノコバイモ

天国のような花園ですが横になるまではいかなかったが、腰を下ろして至福の語らいが延々と続いてしまった。

「京都西山でカタクリを見るのが楽しみだったが、これからはもうあんな少しのカタクリなんかを見に行こうという気がしなくなったね」などと、賢

こちらにも桜尾根コースと同じ種の花々があちこちに群生しており、相変わらずカメラタイムが延々と続くのであった。

そうこうしていると中間ほどの東屋で誰からともなく、「ここらでどう？」と輪になって花酔い気分でお昼が始まった。「カタクリもこれだけ多いときれいだね、いいね」と感動の言葉が聞こえ、笑顔が並ぶのである。「でもね、まだ樋曾山を歩くんでしょう？ 楽しみだね、どんなお花が見られるのでしょうか。あっコシノコバイモはまだ見てないね、ほんとに見られるの、リーダーさん」と催促めいた会話が続く。誰もが欲深い心の持ち主である。

五ヶ峠まで2時間半の花のプロムナードが続き、みんなは飽きない花巡りにこれでもかと、うつつを抜かしたのである。

小休後、樋曾山を目指そうと踏跡をたどる。こちらのコースはさすがにマインナーな山のように角田山とは違い、人はめっきり少なくなった。

沢な言葉も出るほどだ。

純白で大ぶりのキクザキイチゲの群れ咲く風景にもすばらしいものがあった。すべてが白色のために華やかさやや欠けるが、どうしてどうして直径約3〜4cmはあろうかというほど大きなお花が風に揺られながら、平な樹林下から斜面にまで広い広い一帯を占領しているさまは、筆舌に尽くしがたい。

もちろんオオミスミソウも多いが、この種はさすがに角田山に軍配が上がりそう。

引き返す森の小道のなかで一株だけキバナアマナを見つけてもらい、さらなる感動が得られた。

最後にみんなが期待していた小さな姿のコシノコバイモを見つけていっせいに歓声を上げ、我先にとカメラの競争となった。

これだけ人の心を捉えて離さない魅力を持った山野草たちを、多くの山歩きの野草ファンに見てもらい、この花々が荒らされずにいつまでも光り輝いて咲き誇ってくれることを願うばかりで

稜線にのるとあたりの様子が一変する。落葉樹の自然林の林床には温度も上がって開花が促され、カタクリで一面が赤く染まっている。白く咲き誇るのはキクザキイチゲ、さらに色とりどりの花色のオオミスミソウの大群生地が、所狭しと繰り広げられている。

いずれにしてもこれだけ多くのお花たちが、枯葉が覆い尽くす地面を割るようにして咲く姿に、心が震えるほどの感動を覚える。

しかし、樋曾山はピストンのため、とりあえずピークへ向かおうと普通に歩いて1時間で3等三角点の立つ樋曾山らしき所へやってきた。山名札は一つも無い。山というより峠のような頂上で、名が売れるまでにはもう少し時が必要のようだ。

帰りの夜行バスのため、時間はありすぎるほどある。そのためにうんざりするほどの休憩だ。復路でも花々をあちこちで観察し、終いには「ちょっとこのお花畑でお昼寝しない？」という始末である。

ある。

お花好きなあなたも一度は角田山と樋曾山のお花たちと出合いのときを持ちませんか。

(平成18年4月5日〜8日歩く)

▲参考タイム▼

〈6日〉JR新宿駅23・09発(ムーンライトえちご)

〈7日〉JR新潟駅4・51〜5・01(電車) 巻駅5・43(朝食) 6・20

(タクシ) 桜尾根登山口6・35〜角

田山9・30〜10・00(東屋)10・30(昼

食) 11・15〜五ヶ峠12・25〜30(樋曾

山) 13・35〜14・10(五ヶ峠) 16・00〜30

(タクシ) じよんのび館15・00(入

浴・夕食) 20・30(タクシ) 巻駅20・

35〜21・00(電車) 新潟駅21・50〜22・

05(深夜バス)

〈8日〉京都駅6・00(解放)

△地形図▼

2万5千Ⅱ角田山・弥彦

友情を確かめた山

皆子山

木村 太郎

京都北山

全国的にお天気は晴れのマーク、観天望氣を気にかける必要もなく、雨具の要らない日に、信田さんと皆子山を目指した。近畿百名山と関西百名山を併せての未踏の一座、私の目標を完結させるために、友は同行してくれると言う。

吹田を朝5時出発、大津の葛川坂下町平バス停の空地に車を止める。6時20分に身支度を整えて歩き出す。安曇川沿いの名残の桜を眺め、鎖のゲートを抜けて林道を進む。

私は去年の秋から今春まで山歩きを休んでいた。信田さんとの山歩きは久

しぶりなので話が尽きない。話に夢中になりすぎ、寺谷の出口を通り過ぎていた。私と友はこの日、寺谷を登り皆子谷をくだる計画であった。

安曇川に架けられた寺谷出合の木橋を見過ごしたのは、2人の共同責任、お互いに文句は言えない。引き返すのも時間が惜しい気がして、皆子谷から登ることにした。

真新しい安曇川起点の石標を埋めた地点で林道が途絶え、川岸に下りる。小さな木標が川向こうに皆子谷を指している。川を渡らねばならないが水流が多い。山靴のまままで徒渉をすれば、

尾根道の急坂が待ち構えている。すぐに山道は左に振られて湾曲する。百井川を高捲いた道であることを納得しているうちに、皆子谷と百井町ヒノコを結ぶ道標に合流した。

いよいよ谷通行になり左岸から右岸へ、再び左岸側へと徒渉を繰り返す。風あるいは雪、照る日曇る日そして雨の日、自然界の絶妙のハーモニーがつくりだす山の水が流れとなり、清冽な水しぶきを飛ばしている。傾道を塞ぐ大岩を乗り越えるとき、傾

斜が急で滑りそうになる。水流が増して水没した小石の上でぐらつくときもある。どんな場面に遭遇しても、この日は信頼できる相棒がそばにいるので安心できる。

想像していたよりワイルドな感じがする谷は、要所にロープが張られている。支流が合わる地点には道標が立ち、谷本流を外さないように気配りしている。人が高い皆子山へのルートなのだと感心する。

十二の花物語をまとめた、辻邦生の



皆子山山頂



靴の中が水浸しになりそうだ。山靴と靴下を脱いで、スポンをまくりあげ素足で向こう岸に渡る。川の水は足が痛くなるほどの冷たさ、春たけなわというのに真冬並みの水温に感じた。大急ぎで足を拭いて、山靴の紐を締めた。

幅広い川を離れ皆子谷に入るはずが、

短編集に「花のレクイエム」がある。一つ一つの季節の花に、人々の運命を象徴する役割を与えている。たとえば4月の花はライラック、モンブランの山々が白く輝くレマン湖のほとりで、難民少女が希望のしるしにしていた。しかしながらこの場所、皆子山の4月の花は一つに絞り切れない。群れを

皆子谷 (信田恵介撮影)





皆子山へ急ぐ (信田恵介撮影)

皆子山の山頂には、皆子山の名前が溢れている。名が知れた人気峰らしく、二十枚を上回る山名板と登頂記念板が吊るされている。京都府下の最高峰「大原の里10名山」とか、山の存在感を誇示した文字も目についた。

三省堂の「日本山名辞典」によれば、

皆子山の項目に、霞ヶ嶽とか下立山の別名も記載されている。その名の出典についての知識が無い私にはわからない。皆子山の名が今西錦司命名ということ、自分の娘に同じ名を付けたと



皆子谷に行く (信田恵介撮影)

される巷説で知り得ていたことだが。若葉の装いが近づくミズナラの木々、白い花を飾りつけたタムシバなどの雑木類がササ原を占め、京都府側の展望は良くない。滋賀県側は切り払われており、武奈ヶ岳から蓬萊山にかけての稜線が間近に眺められる。

近畿百と関西百名山の登頂は、私が新ハイ関西に入会(96年12月)してからの記録である。先輩の後ろを歩いた山、友と共に歩いた山、独りで歩いた山、数々の山が思いだされ、胸がいっぱいになる。

缶ビールで乾杯し、ささやかな祝宴を山上で開く。友は運転するのでビールに口をつけない。1時間ほど占拠していた山に、単独行の男性が登ってきた。その登山者に山の眺めを譲り、挨拶を交して下山にかかる。

足尾谷・ツボクリ谷に未練を残し、車に帰るため寺谷をくだる。寺谷ルートは沢道と捲き道がある。本誌「京都北山を歩く・エリア別徹底研究」(93号51ページ)で読んだ、村田智俊の記

なしているニリンソウ、さりげなく咲くミヤマカタバミ、惹きつける色合いのタツナミソウ、星のかげらのヤマルリソウ。辻邦生がもしも題材にしたならば、どの花の物語を書いただろうか。

百井川出合から歩いて1時間足らずでひと息入れる。ひときわ目立つ大木にテープを巻きつけた場所まで入り込む。谷を背にして尾根にかかる道が見え、稜線に取り付く地点かと友に問いかける。地図を広げた友は、源頭まで谷をつめるはずと答えを返す。

友の言葉どおりに、

急峻部を高捲いた道は谷とよりを戻す。だんだんに谷は細くなり、清冽な水流が影をひそめる。真つ青の空が頭上を占め、水の青より主役の座を奪う。兩岸に山が迫り、山間にササ原が広がる。谷が二股になる地点でもないのに、道標があり怪訝に感じる。すぐの場所にササ原を切り開いた尾根道があり、谷筋から直角にのびている。谷道のゆるい登りが急斜面の登りに変わり、ふくらはぎが悲鳴を上げはじめる。

ほどなく稜線に出て、寺谷からの捲き道に出合い、私と友は皆子山のゴールへ急ぐ。道の真ん中で一本の倒木がきれいにアーチ状に曲がっている。その木を凱旋門のように潜り抜け、9時15分に山頂に到達した。

皆子山(971・5M)登頂を証拠づける3等三角点にタッチする。友は無言のままに手を差しのべ、その手を私は握り返した。皆子山は、友情を確かめた山になった。京都北山の最高地で、雲一つない青空までが祝福をしてくれていた。

事が参考にできる。寺谷の捲き道は、「イバラの多い草やぶの道」と読者に助言している。

今西錦司はヤブこぎを「ジャンジャン」と言っていたという。今西流のジャンジャンは、体調万全でない今の私にはきつい。村田智俊おすすめの一般的な寺谷の沢道を選んだ。寺谷を示した小さな木標を見つけて、植林帯の急坂をロープにすがり下降した。

大岩を通過して、沢道に出ると傾斜がゆるくなる。岩上に夫婦連れがいた。こちらから挨拶したら、煙草のライターを持っていないか聞いてきた。私たちは煙草を吸わないと返事した。山に楽しみに来たのに、嗜好品を楽しめない人を気の毒に思いつつ別れた。

バス便で入山してきた何組かのグループとすれちがう。下山するだけの私と友に、やさしい気持ちでいられる道が続く。私は「こちらの谷は、花が咲いていないね」と、友に感じたことを告げた。

私のことばが誤りだったかのように、

2008年度カタログ受付中 2月下旬発送開始!

見ごたえたっぷり国内・海外の山旅と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登頂ツアーまで幅広い商品を揃えています。見るだけで楽しいオールカラーで154ページのボリュームです。そして、これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。無料でお届けしますのでお気軽にご請求ください。



総合カタログ



山歩き教室

お電話
おはがき
FAX・HP
にて!

**送料・本体無料
ご請求ください!**

アミューストラベル(株)は山旅と自然観察専門の旅行会社です。東京を本社に札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄に営業所を持ち、皆様にサポートさせていただきます。大阪支店には高山病対策として低酸素室を設置し、日本山岳ガイド協会のガイド資格者3名が社員として常時勤務しております。安全、安心を第一にツアーを運営していますので是非一度カタログをご請求下さい。

**大好きな山の中で働いてみませんか!
山岳添乗員・山岳ガイド募集**

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: antosa@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

吹田市山岳連盟の雪山教室で、05年2月の皆子山に参加した。その時この場所が遅い昼飯になった。山岳連盟のスタッフが交代でラッセルしたが、雪に阻まれ時間切れで途中撤退し、その日は山頂を踏めなかった。

05年2月に勤め先を退社、自由時間を手に入れた。思い立ち近畿百と関西百名山の登頂達成を目指した。その年に登り残りの21座を踏み、残りを2座にした。06年夏に池木屋山を踏み終え、秋にフィナーレの皆子山を踏むつもりだったが、背骨を傷めるドジを踏んだ

がために、この日まで日延べになった。谷源頭の細い流れが広まり、溪谷が奥行きを見せはじめる。雑木林の輝きに魅せられ、友は若葉の列にカメラを向ける。流れが下辺に遠のく谷斜面に、ヤマシヤクヤクが集まり身を寄せていた。世俗雑談集に「立てば芍薬」と讃える花は白い番を付けていた。

写真好きの友なので、昔のヤマシヤクヤクを撮ると思っていた。花撮影しなかった友は、もう少し下りた地点で成熟した花が咲いていると思っただけ。下では目当ての花に出会えず、花の女神は気まぐれである。

戦前のガイド書、森本次男の「京都北山と丹波高原」に、「此の山へ登った人は少ない。此の山は登路がなく当然藪をくぐらなければならない」と、皆子山を紹介している。

ヤブまろげになり道なき尾根を歩かない限り、皆子山へは谷をつめなければ到達できない。秘境とまでは言われないが、私は遠い山のように感じていた。北は峰床山、南は天ヶ森、西は花背の

群れているニリンソウに、友はカメラを向けた。皆子谷と同じように、寺谷にもさまざまな花が咲いている。色とりどりの花は、深山の蝶や虫に芳醇な香りを贈っている。

沢道と捲き道とが合流した地点からすぐで、造林公社営林地の赤さびた立て看板がある広場に着く。1時間ほど下りてきたので休息を入れる。この場所には、忘れられない雪の季節の思い出がある。

森に囲まれている。どこかの尾根に立ち入らない限り、孤高を誇る皆子山の姿を隠し見ることができない。

大切に踏まないでいた、あこがれを密かに寄せた皆子山。いまでは京都北山を愛好する人々により、ポピュラーな山となり日々登られている。ひとりひとりに、それぞれの皆子山の思い出が生まれている。

私にとっての皆子山は、近畿百と関西百名山の登頂に終止符を打ち、友情を確かめた山として、忘れられない1座になったことは間違いない。

(平成19年4月29日歩く)

△コースタイム▽
平バス停(55分) 百井川出合(55分)
谷を高捲く地点(30分) 尾根道の取付(15分) 皆子山(55分) 造林公社の立て看板(30分) 安曇川出合(30分) 平バス停

△地形図▽2万5千1:1花背

紅葉の行楽シーズンに訪ねた

清水山から將軍塚へ

藪木伸人

京都東山

2007年は、8月から11月の4ヶ月間に四度も京都を歩いた。うち二回は仕事で訪れたのだが、あとの二回は行楽だった。

最後に訪ねたのは11月下旬。そろそろ紅葉も見頃かと、東山方面に出かけた。

10時半頃着いた京都駅前（鳥丸口）バスのりばには、バス待ちの長い列が出来ていた。あまりの人数に臨時便増発の配慮も追いつかず、20分並んでバスに乗り、さらに40分かかってようやく五条坂バス停に降り立った（混んでいなければ15分らしい）。

清水寺への坂道も、上る人下る人、人また人で埋まり、寺にたどり着くのがひと苦労だった。奥の院でほとほと息つき、京都一周トレイル登り口に近づくにつれて人影も少なくなった。

トレイルは、迷うことのないよく踏まれた道だった。清水寺境内から背後にこんもりと見えていた山頂では、トレイルから少し東にそれた林のなかに清水山の3等三角点立っている。

展望は無いが、街中の喧噪とは別天地の林内をトレイルに忠実にくだって行くと、石標と「森の小路→山頂公園」「將軍塚方面」の標識があり、その先

將軍塚展望台より比叡方向



清水山3等三角点にて



で車道に出た。
小さな池の脇から、照葉樹林の樹冠を見上げつつ再び登り始める。右手に見えてきた大きな石碑は山県有朋顕彰碑。水道施設やヘリポートを経て東山山頂公園に着いた。この時期でも駐車

場には車はまばらだったので、開放感を味わうことができた。

売店は閉まっていたが、自販機でコアとコーンスープを買い、展望台へ。清水山より30分程低いが、こちらは京都市街がよく見えた。「東山山頂」と

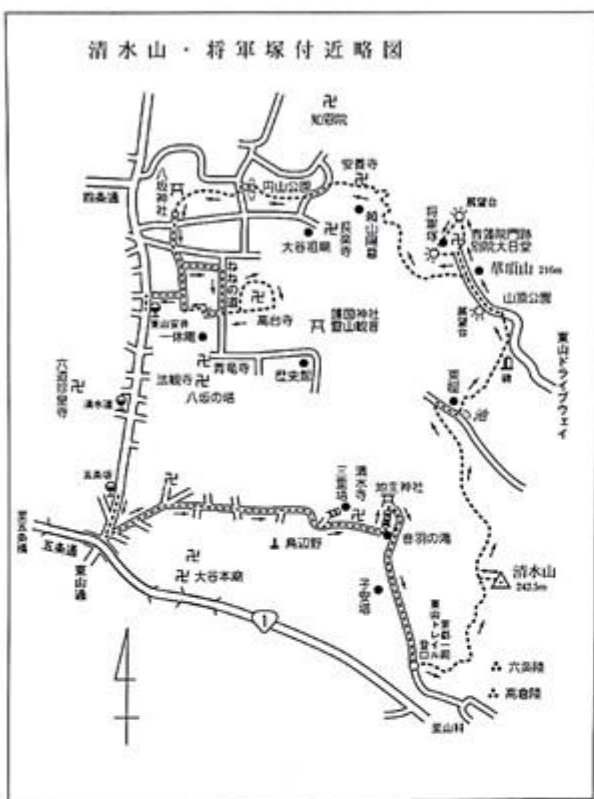
名付けられている。この頂は、華頂山（別名知恩院山）という山名のようにだ。鶯が気持ち良さそうに古都の空を舞い上がり舞い下りしている。

車道の先に、山門と美しい紅葉が見えていたので行ってみると、そこが青蓮院門跡別院大日堂だった。本尊は、石造の胎藏界大日如来（平安期）である。事前に本で読んだように、將軍塚はこの寺の庭園内にあった。

その昔、恒武帝が平安京鎮護のため、高さ2・5尺の土の武将像に武装を施し埋めさせたというものだ。以後、都に安事起こらんとするとき、塚が鳴動して青天かき曇り、また、夜空に兵馬の駆ける音がしたと伝わる。

入園料500円×2人分を払い中に入ると、境内の紅葉はまさに見頃で、山上の枯山水というのもめずらしかつた。三つの願いを叶えるといわれる大王松も偉容を誇っている。

北の展望台からは、東山三十六峰の筆頭ともいえる大比叡が高く望まれ、如意ヶ岳、五山送り火の「法」の字や、





抜ける小路も風情があっという間だ。バス停にはすでに7、8人の列が出来ていた。渋滞の中をスローモーションのように迫ってくるバスの停車に合わせて乗り込むと、私たち2人まで収容するのがやっとで、乗降口の段に立つての発車だった。

降りる者がいなくて、当然次の客は乗れない。「前にお詰めください」と言う、運転手の必死の叫びに応えて、少しずつバス前方に移動を試みながら京都駅への遠い道のりをたどる。途中何ヶ所かの停留所では、乗れずに待っているたくさんの人達をそのままにして、停まらずに通過していった。

車率150%のバスを横目に、すたすたと追い越して行く。山を歩くことのやさよりも、行き帰りのバス内での気疲れのほうが、余程こたえた1日となった。しかし、京都盆地を見下ろす山々にはまだまだ登っ



山頂公園展望台より大日堂境内の紅葉

鴨川、京都御所、二条城、幾多の堂宇が確認できた。將軍塚の横には驚くほど大きな展望台が建てられ、こちらからも京都市街と背後の西山連峰がよく見えた。延元年間には新田義貞がここに陣を構え、足利尊氏軍を破ったという。千年の古都をいつまでも眺めていた

開山堂東の臥龍池、西の假月池を中心として展開されている庭園は、小堀遠州の作で、国の史跡・名勝に指定されており、方丈から眺めると、今日歩

いとこではあったが、もうずいぶん昼を回っていたので寺を辞し、急かさされるように円山公園への道をくだる。再び入波の中に戻ってきた。

公園内の店で遅い昼食(京の秋野菜カレシ)をとった後、最後の目的地、鷲峰山高台寺に向かう。正式名称は高台寺聖禪寺という臨済宗建仁寺派の寺で、秀吉没後、妻のねね(法名高台院湖月尼)が開創したものである(1606年)。

当時は家康の財政的援助により壯麗を極めた堂宇の多くが、度々の火災によって失われたというが、現存する開山堂、霊屋、傘亭、時雨亭など、国指定重要文化財は興味深い造りであり、内部の彫刻や蒔絵も、桃山美術の粋を今に伝えている(入山料は600円、ねねの道を挟んで向かいにある京美術館と共通)。

まだまだ辺りを散策したいところだったが、帰りの混雑を考え、最寄りの東山安井バス停に向かった。町家の間を

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3811・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

てみたい。田舎人の私達は京都に足を運ぶと、どうしても神社巡り、史跡観光がしたくなる。わざわざ出かけるなら神社にも山にもと欲張ってしまうのだが、日帰りで歩けるコースは限られてくるのが惜しいところである。

東山エリアでは、瓜生山・北白川山と詩仙堂、神明山と日向大神宮、稲荷山と伏見稲荷大社などが、平易なコースとして設定できそうである。今度は、三大祭の時期や行楽シーズンを避けて訪れてみようと思う。

(平成19年11月24日歩く)

▲コースタイム▼

- 五条坂バス停 (30分) 清水寺奥の院 (10分) 京都一周トレイル東山登山口 (20分) 清水山三角点 (15分) 林道出合 (10分) 東山山頂公園 (10分) 大日堂内將軍塚 (20分) 円山公園 (15分) 高台寺 (10分) 東山安井バス停

△地形図▽

2万5千Ⅱ京都東南部・京都東北部

新ハイ関西99号
標高△△99mの山

三峰岳 (2999m) 南アルプス
立烏帽子山 (1299m) 中国山地
アサヨ峰 (2799m) 南アルプス
赤岳 (2899m) 八ヶ岳

三峰岳

三峰岳は、山体の大きな間ノ岳の一部に過ぎないように見えるほどの小さな突起である。しかし南アルプスを山脈の集まりとして概観すれば、北岳から間ノ岳を経て農鳥岳、策ヶ岳へと続く山脈と、仙丈ヶ岳から三峰岳へと続く塩見岳、荒川岳、赤石岳へと続く山脈があって、それら二つの大きな山脈が三峰岳と間ノ岳で繋がっていて、たいへん重要な位置にある山ということになる。

外観上、間ノ岳から独立した山とは考え難いが、1990年の夏に登った三回目の山行では、熊ノ平から三峰岳に登って野呂川越へくだった。間ノ岳は間近だったが、そちらへは行かずに山脈の通りに歩いてみた。それは白峰三山を西側から至近距離で眺めるコースである。三峰岳への登りでは塩見岳の朝日を受けたバットレスが鋭い風貌で望まれ、また西農鳥岳の頭をもたげたという表現がびつたりと山容に新鮮な感動を覚えた。三峰岳に登り着いて突然望む至近の北岳にもいたく感動した。(平成2年8月7日歩く)

立烏帽子山

2003年5月の連休は、ブナの純林で有名な広島と島根の県境にある比婆連峰に登った。山の会の田邊さんが計画を立て、三宅さんと西山さんの4人で行った。

よく晴れた日だった。5月の連休だというのに雪が残っているのには驚いた。比良山系より緯度は低く、標高は1000m程度高いたけなのに、北国の表情を少し感じて極めて新鮮だった。ブナの若葉は細やかに黄緑色に輝いていて、林床は雪解けすくすくのふんわりとした湿潤な感触が優しかった。オオカメノキの白い花の固まりが清冽な美しさで光っていたのも印象的だった。

そんな比婆連峰の最高峰が立烏帽子山だ。立烏帽子山への登山道は、それ

までの湿潤な雰囲気とは一変して乾燥したササが混じる初夏の山の貌をしていた。(平成15年5月3日歩く)

△コースタイム▽
六ノ原(3時間30分) 比婆山(1時間30分) 立烏帽子山(1時間30分) 六ノ原



比婆山のブナ林

アサヨ峰

南アルプスの中で最も展望に優れた山のひとつがアサヨ峰だろう。甲斐駒ヶ岳、北岳、仙丈ヶ岳がそれぞれの個性を際立たせて望める山だ。早川尾根は大半が樹林帯なので登山者が少なく静かな山行が楽しめる。前後の小屋なりテント場に続けて泊まれば、展望のすばらしいアサヨ峰の山頂を目的とした山行を組むことができるだろう。

私はアサヨ峰には五回登っている。そのうちの三回は天候に恵まれ六枚の絵を描いた。甲斐駒ヶ岳、北岳、仙丈ヶ岳、それぞれ二枚ずつ、夏と秋に描いた。花崗岩の山肌が実に堂々としていて天候によっては悪魔的な表情も見える甲斐駒ヶ岳、背筋をびんとのぼして瀟々とした品格を湛える北岳、きわめて優美だけれどキリッと引き締まった美しさの仙丈ヶ岳を熱い思いで見つめて描いた。

△コースタイム▽

赤岳

八ヶ岳の主だった山は積雪期に初めて登る山が多かったが、赤岳もそうしてみようと3月末に出かけた。一般的な赤岳鉱泉から地蔵尾根の往復である。しかし残雪期にもかかわらず、地蔵尾根の一角で雪のナイフエッジに遭遇した。ほんの2分程だが、引き返そうかと思っただけでまごごしていた時、後から登って来られた御夫妻のザイルで確保していただき、山頂で絵を描いている間も下山にそなえて待ってもらったという、サポート無しでは登れなかった山である。(平成5年3月26日歩く)

△コースタイム▽
赤岳鉱泉(4時間) 赤岳(2時間40分) 赤岳鉱泉

△地図▽昭文社「八ヶ岳」

木戸口橋からピーク1080

比良

小山 誠次

今回は前号の続編である。前回、登高開始後10分で「間伐展示林」の看板のある所に到達し、道がそこで二つに分岐して、一見まっすぐの道をたどりたくなると報告した。そこで、今回はその分岐点でまっすぐ進んでみたという気分を実行に移すことにした。平成19年5月27日は前日夕方の天気予報では、近畿地方全域で晴れ、降水確率は京都府南部、滋賀県北部・南部で午前10%・午後0%、京都府北部では午前・午後共に10%であった。滋賀県北部の最高/最低気温は22/16度だが、問題は黄砂である。昨日程ではな

いが、本日も引き続き飛ぶとの迷惑な予報である。なお、今朝方の滋賀県北部の降水確率は午前0%・午後10%となっていた。

7時45分出町柳発朽木学校行きの京都バスは、定刻に増便を伴って発車した。空模様は全天に巻雲と薄い巻層雲が占めている。実は列に並ぶとき、筆者は偶々吉條孝次氏のすぐ後ろに並んだ。氏は本誌の山行によく参加され、それが契機で顔見知りとなっていた。走行中も隣に座っているいろと話しながら、車窓からミズキとジャケツイバラの花を教えてもらった。氏は平

(写真1) ニゴ谷に架かる朽ちかけた橋



で下車されたが、山行でもまた一緒に歩きたいものである。

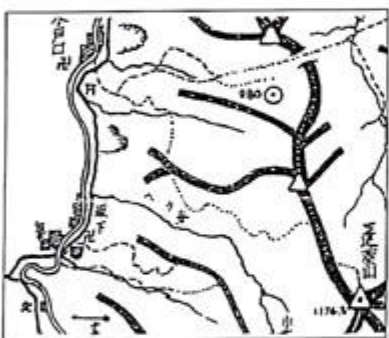
さて、8時45分木戸口に到着した。4月7日に続いての下車である。4分間南方に歩いて取付口に達し、ここで準備を整えてから8時53分に出発した。さすがに前回から2ヶ月近く経過していると、取付口辺りは草が繁茂し、

一見したところ道がわかりにくい、歩き出すとすぐに古道然とした山道になる。そして、9分後に例の「間伐展示林」の看板の所やって来た。

本日は角倉太郎著「比良登山図」(昭和17年「比良展望」付録)(図一)によって、ここからまっすぐに向かう山道をたどることにする。ただし、同氏

著「比良連嶺」(昭和16年再版)には「それから少し登った処で、道は二つに岐れる。右の方は地図の点線通り谷を二つ越えて蓬萊山へ向ふものであるが、殆んど廃道となつてゐる。」とあるので、どこまでたどれるかは何とも言えない。「比良登山図」では、本誌94号「長池から蓬萊山」で經由したピーク1080から蓬萊山への尾根途中にたどり着くことになっている。

「間伐展示林」から5分後、ニゴ谷を跨ぐ朽ちかけた橋を渡った(写真1)。



(図1)「比良登山図」より一部抜粋

ここで様子を窺うと、どうも「比良登山図」での渡溪地点よりもだいぶ下流のようだ。しかし、幸いなことに、その後の山道は一部崩壊しながらもニゴ谷左岸に沿っているの、そのまま対岸を気にしながら上流に向かう。

9時43分、対岸も行き詰まった地形となった。標高540m。左岸も崩壊箇所に入ったので、これからは「比良登山図」にいう山腹をトラバースするべく、西斜面を選びながら南方に向けて歩く。すると、しばらくして左手上方に稜線を確認したので、そこでたどり着こうと足の向きを変えた。

10時3分、標高630mで、山腹途中のちよつとした平である。そこには先程見失った古道跡が残っている。「やった!」と叫びこそしなかったが、ひとまず安心した。しかも、陥没した山道をたどると、杉の植林と自然林との境界上に続いている。ますます間違いないと確信した。

しかし、10時18分標高700mに達した場所で、また道が消失してしまっ



(写真3) 尖った山頂を呈する蓬萊山

年8月20日には、ここから蓬萊山と打見山の山上構造物がよく望見できたが、本日は打見山のみ見通しがいい。昼食中、名も知らない二羽の小鳥が2分程横に立ってかけていたストックに飛んできて、しばし珍しそうに観察した後でまたどこかに飛び去っていった。カメラに収められなかったのが残念である。そういえば、本日は近くで三回も鹿が飛び跳ねていく姿を見かけたが、一回



(写真2) いいアングルの皆子山眺望

ている。このまま山腹をトラバースし難い地形なので、また難題が生じた。道に迷ったのでも見失ったのでもなく、道が無いのだ。一考した後、先程と同様に左手上方の稜線に向かうこととする。

斜面を直登あるいはジグザグ登高し
ていて、フッと振り向くと、右手後方

がガラッと開けていて皆子山の眺望がすばらしい(写真2)。標高830mである。一般的に皆子山は比良山系から眺望しうるものの、なかなかいいショットを得られないが、これだけでも本日の収穫である。本誌85号で報告したツボクリ谷東方尾根もよくわかる。

ところで、どうも先程の稜線への転向は、「比良登山図」にいう山腹をトラバースする山道と決別したことが決定的となった。ならば、改めて地図を熟読して、向後の方針いかに検討せざるを得なくなった。

当初の目的は、ピーク1080mから蓬萊山に到る尾根上に達した後、ピーク1080mに到ることだったので、ここからルートは異なってもピーク1080mを直接踏破することに変更した。ならば話は早い。ここから地図上での最適ルートを選択する。

11時ちょうど、標高950mに達した。見れば足下に009の石柱が埋設してある。さらに、北東方向には狭い尾根が続いている。歩き出すと間もな

もシャッター・チャンスがなかったのは重々残念である。

ところで、昼食中に漢詩創作の構想がふと浮かんだ。本日のここまでの山行詩情を詠んでみようという思念が強くなった。しかし、押韻・平仄を踏んでの実際の詩作りは、漢和辞典と首っ引きでないことでも仕上がらないので、構想だけにして後は帰宅後の作業としよう。

昼食中、今朝方からの巻雲は不変だが、巻層雲がほとんどわからなくなった反面、高積雲が南東に流れている。午前中から北西の風が強かったが、稜線に立つと一層強く感じる。汗はかいてもあまり暑く感じない。

さて、昼食休憩をちょうど1時間とったので、いよいよ下山する。当初から直接蓬萊山に向かうつもりはなかったもので、ここから北東に進路を定めることにした。コンパスを磁北45度に合わせ下山開始である。しばらく疎らなササやぶを漕ぐと、何と踏跡らしき形状を発見した。意図しない方向の踏跡

く直射日光のもとでの背の低い草地となった。ここからは蓬萊山が絶景である(写真3)。「長池から蓬萊山」での最後の艱苦のササやぶもよくわかる。この方向から眺めれば、蓬萊山の山頂が尖っているように見えるのも新鮮な印象を抱いた。

一方、背の低い草地をとくと凝視すれば、部分的に踏跡らしき形状も窺える。どこで踏跡と合流したのか不明だが、踏跡は筆者の意図する方向と合致する。間もなくピーク1080mのつもりと新緑に覆われた山容が目に入ってきた。どうもこのピークはどこから眺めても全体像はあまり変わらないようだ。

11時30分、ピーク1080mから蓬萊山への尾根途上に達した。初めてここに来ていたら、状況判断に困ったかもしれないが、以前の記憶が助けとなった。後は疎らなクマザサのやぶを漕いで、5分後に北方のピーク1080mに到達した。

少し早いですが、昼食タイムとする。昨

に騙されることもときにあるので、コンパス通り歩いていると、やはり踏跡と同方向である。そして、13分後に巡視路と出合った。

ここはオオカメ谷とジャガ谷との間の尾根で、ジャガ谷まで歩いて5分間の距離だった。何と先程までの踏跡は巡視路からピーク1080mへの最捷徑ということになる。

ジャガ谷近くの湧水を腹一杯飲用して、13時8分、汁飲所に到着した。キャンプ場への道を歩いていると、道端に紅・赤紫・白・淡ピンク色のクリンソウが今更々盛りで咲き誇っている。キャンプ場の休憩所で8分間休憩をとった。13時20分、これからの予定は未定であったが、ふと小女郎峠道を下山したくなったので、まず蓬萊山山頂まで登り一方の道をたどる。世平には家族連れやグループの人が多くなか、エッチラオッチラ歩いて、ようやく23分後に蓬萊山に到着した。5月3日以来である。

「長池から蓬萊山」のときは、ピー

ク1080から蓬萊山到着までは1時間13分を要したが、本日は1時間8分でここまでやって来た。むしろ、いかに蓬萊山直下のクマザサのやぶが激甚だったかを物語っている。

蓬萊山山頂で20分間程、芝生の上で寝転んで寛いだ後、小女郎峠に向けて出発した。やはり黄砂のために、琵琶湖大橋と比叡山がはるかかなたに眺げである。縦走路からは部分的に金毘羅ガレが見えるが、何とも厳しいガレ場だ。とても登攀は無理だ。一方、今の時期は山道に沿ってのサラサドウダンやベニドウダンが見頃だ。吉條氏もこれを楽しんではずである。

14時19分、小女郎峠に到着し、2分後に峠道をくだる。直後の下山路は、また以前と形状がちょっと変わっている。どうも絶えず少しずつ崩壊しているようだ。11分後に七本杉を通過し、さらに13分後には福谷川本流を渡って、しばらくくだると支流を跨ぐこととなる。この辺りではオオイタヤマメイゲツの若葉がよく落下している。

15時5分、道と沢とが交錯したちょっと複雑な場所を通過するとすぐ薬師滝である。4分後にアスファルト道に出て、後は琵琶湖に向かって直進するだけである。15時48分、JR蓬萊駅に到着した。

本日は当初から廃道をも念頭においてた登高だったが、残念ながらやはり途中で道が消失していた。ならばどうするかと、臨機応変の選択がうまく奏効したケースだった。一方、皆子山と蓬萊山の予期しないアングルからの眺望は、本日の山行に彩りを添えるものであった。

最後に七言絶句を一首。「比良」が和泉であらう。

拙作

孤塔探踏比良峰

蒼嶺蒼蕪林蔽濃

先氏戀為登行路

経年崩朽葛辿隈

(意)

一人ストックを突き、比良峰に探り踏み入る。青々とした天空と草木、木々

大失敗山行 其の二(誰か僕を木和田尾に連れてって!)

冬の御池岳奥ノ平

鈴鹿

長谷川 雅 俊

1年振りに、木和田尾から御池岳へ行くことにする。昨年は雪が多かったこともあり、坂本谷出合まで例年の倍の4時間以上もかかってしまった。そのうえ、パウダースノーのラッセルに疲れ果て10時58分、白船峠手前でついにダウン……。ションボリと引き返したのだが、おまけに下山路を間違え、冷川谷280㍍地点にほぼ北に下りている谷に入ってしまった。

そのリベンジというわけではないが、能もなく再挑戦することにした。

本来は、1週間前の1月21日に予定していたのだが、事情があって急ぎよ

中止。悔しい思いをしたのだが、後でネットを検索してみると樹氷も無く、奥ノ平は登山者の足跡だらけ、正直、行かなくてよかったと負け惜しみを口にしていたのであった。

今日(27日)土曜日、名古屋は昼から雨が降ってきた。三重県や滋賀県の天気をチェックすると、やはりあまり良くないようである。ということ、山は雪の可能性が高い。うまくいけば、新雪がテールランドの足跡を消し去ってくれているだろう、との思いで出かけることに決定。21時24分、自宅を出発。木和田尾登山口である山口の浄水

の藪は濃い。角倉氏は苦勞して勝れた登山図を作られた。しかし、年を経て崩れ朽ちている。何処に足跡を辿ろうか。(平成19年5月27日歩く)

A コースタイム

木戸口バス停(4分) 取付口(9分) 間伐展示林の分岐点(5分) ニゴ谷に架かる橋(28分) 標高540㍍(14分) 古道跡再発見(12分) 古道消失(13分) 皆子山眺望良好(25分) 009の石柱(30分) ピーク1080から蓬萊山への尾根途上(5分) ピーク1080(13分) 巡視路出合(5分) ジャガ谷出合(12分) 汁谷道(4分) 汁谷キャンプ場(23分) 蓬萊山(17分) 小女郎峠(11分) 七本杉(13分) 福谷川渡溪(21分) 薬師滝(4分) アスファルト道(38分) JR蓬萊駅

△地図▽

角倉太郎「比良登山図」

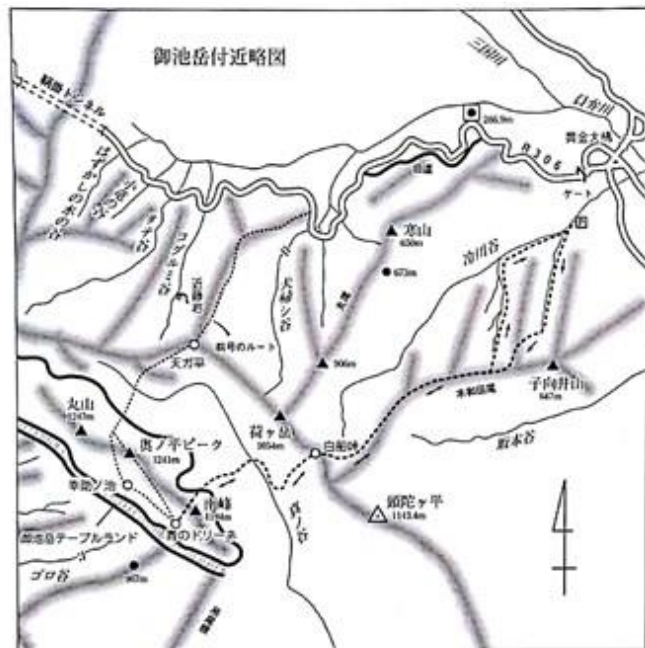
昭文社「比良山系」

朝日射す青のドリーネ



場に22時39分到着、すぐに仮眠する。深夜1時起床、荷物をチェックすると、何と輪カンジキのバンドが無い!。前回使用した後で外れたのだろうか……。まあ、今回は雪が少ないので、カンジキは無くとも何とかなるであろうと車に置いておく。

1時41分、高度計を230㍍に設定



に出会う。幅は1層もない位であったが、明らかに登山道だとわかったのでホッとす。それからは緊張もほぐれてノンビリと歩いていたのだが、高度

600層で雪がようやく見られ、640層では全面雪に覆われて白銀の世界となり、登山道もわからなくなってしまった。

暗闇のなかで登山道を忠実にトレースしようなどということは、どだい無理な話なのだが、所どころ足跡が残っているので、周りに注意を払いながら進む。子向井山の北側鉋印をトラバースしながら登っているのだと思われる。

3時05分、高度640層において木和

田尾の尾根芯にのる。ここからしばらくは、二重山稜になっている所である。あとはまっすぐに尾根芯をたどるだけなので、目をつむっていても大丈夫！（そんなわけないか……）。

750層までは260度へ直登するだけなので、気楽に登って行く。踏跡もそこかしこにあるが、尾根芯の右手に袖道のようなものが見受けられたのでそれをたどって行くと、たしかに周りの木に赤ペンキでマーキングがしてあった。丸尾尾根にも、尾根芯の北側に同じような袖道があるが、登山道と違い、必ず尾根芯を外して斜面を通っているようである。

ふと気づくと、かなり下側を歩いていたので、尾根芯まで登り返すのが大変であった。戻ってみると、やはり足跡だらけ、時々膝まで滑って体力を消耗するので、カンジキが無いことを後悔する。

3時44分、高度825層で送電鉄塔の下に到着。たしかこの鉄塔は800層よりも低かったと思ったが、気圧の

して、ヘッドライトを点けて出発。空を見上げると、月は半月で星も見えない。周囲には雪のかけらもなく、昨年はこのまで車乗り入れることができなかったのがウソのようだ。

この木和田尾根は、取り付き部分が暗闇のなかでは迷いやすく、けっこう難しいので、いつもは尾根芯までの斜面を適当に登っているのだが、今回はできるだけ登山道を忠実にたどってみることにする。

左手植林帯、右手は冷川谷右岸の林道の間を高度を稼ぎながら登って行く。しばらくして道なりに左に曲がるように進むと、小さな谷に入り、三方が垂直の岩に囲まれて行き止まりとなる。最初の頃はこだけで30分位あたりを彷徨ったものである。今回は無難に手前で右折して、谷の左岸に取り付く。谷沿いに植林のなかをどんどん高度を上げて行くと、谷底との差が20層程になる所もあるので、暗闇のなかでは転落に気をつけねばならない。

1時59分、高度350層で谷芯と同

じ高さになり、歩きやすい所を選んで右岸、左岸、谷中とたどって行くが、次第に谷が荒れてきて難渋するようになってきた。空を見上げると、樹間越しに北斗七星が見えたが、あとは何もわからない。昨年はそのまま直登して子向井山へ登ったのだが、今回は左岸尾根をトラバースして登山道をトレースしようとして、高度がまだ低いとは思っていたのだが、暗くてよくわからなかったので試してみた。やはり、トラバースするには早過ぎたようで、水音が聞こえだしたと思ったら、小さな谷に出合ってしまった。いままら戻るのも大儀なのでそのままその谷を登り始めると、両岸から倒木が折り重なるようになってきてとても歩けたものではない。乗り越えるのに体力を消耗するだけなので、右岸尾根に取り付くことにする。

最初は急斜面で、灌木につかまらながらズルズル滑ったりしていたが、だんだんと歩きやすくなり、高度510層で疎林のなだらかな尾根となる。

2時44分、高度525層で平坦な道

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのA&Eザックです。

☆26☆☆

- ・カラー ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー・ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
- ・重量 820g
- ・素材 ナイロンU・リップ
- ・価格 ￥18,500

イモック山遊行くらぶ

春夏秋冬、季節を気にせず、里山・低山・名山を訪ねます。お気軽に御参加下さい。

詳細はお問合せ下さい。

イモック山遊行くらぶ

〒653-0029 神戸市東灘区日高町3丁目1番10号 カナノビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

営業時間 10:00~20:00 日曜日不定休

関係で高度計に誤差が生じているのかも知れない。振り返ると、夜景がとても美しかったので、写真を撮ることにする。ザックを下ろし、三脚にカメラをセットして夜景を撮るが、なかなかきれいに撮れない。半月前に遠足尾根から撮った時は、きれいに撮れたのに……、家に帰ったらGPSデータをチェックしてみよう。

4時19分、高度9100mで坂本谷出合、ここもたしか8500m位だったと思うが、天気が悪くなってきたのであろうか？

ここから白船峠までの冷川谷源頭部は、山腹をひたすらトラバースするだけなのであるが、夜で周りの景色がわからないので、峠まで正確にたどり着けるかどうか心配である。昨年はここでもう明るかったのだが、大雪で足跡もなく、ガスっていて景色も見えず、また、雪崩の恐怖におののき、途中から県道線まで直登して、白船峠手前で時間切れで、引き返してしまった。所どころ足跡が残っているので、そ

くなくて来た。この斜面でザックを下ろして電池を入れ替えるのも危険なので、LEDだけで歩くことにする。

5時04分、白船峠(1008m)に到着。高度計は10500mであったが修正せず、ここで電池を交換する。電池に充電と書き込んであったので、4ヶ月程使用したことになる。もう10時間あまり食事をしていないので、チョコパンを二個食べる。5時20分出発、



青のドリーネとウサギの足跡？

れをたどるが、消えてしまうと適当に歩いて行く。途中で何度も立ち止まって周りをチェックし、新たな足跡を見つけては修正する。やはり無意識のうちに高度を上げ過ぎるようである。まあ、これもラッセル泥棒であるから、あまりはめられた行為ではないけれども、峠への登り口がわからずにまっすぐ行っちゃって、丸尾尾根にぶつかっちゃったら大変だし、暗闇のなかというところでお許しください……。

小生はたいして朝早くから歩き出すので、ヘッドライトは毎回使っている。そこで自分なりにいろいろ使ってみて、現在は国産のN社のクセノン球を使用したランプを使っている。このランプの気に入っている点は、重量が100gほど軽量なのとリチウム電池なので電池の持ちが非常に良く、特に冬の寒さに非常に強い(アルカリやマンガンはすぐにダメになる)。二重焦点で前方だけでなく、足元も照らすので、やぶ山ではとても使いやすいことである。あと、あまり明るくないというのもよい。明

真ノ谷へは、まっすぐ下りるだけなので気楽である。15分程で下りて、そのまま真ノ谷を上流へテント場辺りまで行くことにする。そのほうが、1241mピークと1194mピークの間の鞍部にたどり着けるので楽である。

5時53分、それらしき雪囲気の中に合ったので、奥ノ平へ斜面を直登する。ここから奥ノ平までの高度差は300m余なので、時間にすれば無雪期で約1時間。唯一の問題は小生の根性の無さだけである、トホホ……。

6時18分、空が明るくなりかけてきた。高度計をチェックすると、9800mであったが、少し振りに機械式の高度計をチェックしてみると9000mであった。6時41分、10335mで突然地中からドク、ドク、ドクと地鳴りが聞こえてきた。少し肝を冷やしたが、その後は何も起こらなかった。しばらくして鳥の鳴き声が聞こえ始めた。7時05分、10990mにて二度目の食事にパン二個とレーズンを食べる。

8時05分、高度12255mで奥ノ平

る過ぎると、周りの景色がわかりづらいのでやぶ山では返って危険である。以前、ベールのハロゲンライトを使用したことがあったが、明る過ぎて周りが真っ暗になって使いづらかった、こういうランプは垂直の岩壁をクライミングする時には、ルート探しに便利かもしれないが。

今回はもう一つ、最近流行の白色LEDランプを試しに持ってきた。LED一個のものは三種類使ったことがあるのだが、いまいち好きになれなかった。今日持ってきたのは、何とLEDが十個も付いて、ボディがアルミ削り出しのものである。さすがに明るいので、照射面が均一で雪の表面が見やすく、かすかな足跡を見つけるにもとてもよかった。いつも使用しているクセノンランプは照射面にムラがあり、足跡を見分けることが困難であった。やはり状況に応じての使い分けが必要かもしれない。

そろそろトラバースから登りにさしかかろうとする頃にヘッドライトが暗の1194mピークの北西鞍部によくやくたどり着いた。地形図で確かめると1175m位の所で、ちょうど目指していた場所であった。空は、雲間に青空が見えるという感じで、眼前に朝日に輝く青のドリーネが横たわっている。

早速写真を撮り始める。露出補正しながら三カッずつ撮っていくが、樹氷はまだ真っ白ではなく、中の枝の色が透けて見え、何となく茶色っぽく見えるが、こんなに暖かくてはいたしかなないかな？

テールランドの雪面も昨日のわずかな積雪のお陰できれいである。が……何と青のドリーネの南西側に足跡があるではないか！こんなに朝早くに小生よりも先にやってきた登山者がいるなんて信じられない。テント泊でもしたのだからか？と、ドリーネの右手から迂回しながら近付くと、ウサギ(たぶん)の足跡であった。うーん、こればかりはどうしようもない。ぐるっとドリーネを反時計周りに廻

りながら、写真を撮り続ける。朝日の斜光による影が写真にメリハリをつけて、チョットいい感じ。1時間程経つと、急に曇ってきてガスがかかりだした。コンパスを下山方向の90度に合わせながら、ガスに霞む奥ノ平の写真を撮り続ける。

9時11分、先ほど登って来た、1241mピークと1194mピーク間の鞍部から奥ノ谷へ下山する。ここで初めて高度計を1240mから1175mに修正する。

登りで二ヶ所程気づいたのだが、赤いテープのマーキングがあったので、外しちゃおうかなあ?と下りて行くのと、やはり新しい赤いビニールテープが枝に貼り付けてあった。10m程度の長さで、枝にグルリと巻きつけず、貼り付けてあるだけであつたので、引張ると簡単に外れたので下りながら回収していくと、五ヶ所にあつた。控え目な感じで付けてあつたので、まあ、しょうがないかとは思つたのだが、こんな所にマーキングする必然性はない

挟んで向こうの尾根で狐をしているようだ。撃たれてはかなわないので、コンパスと一緒に首にぶら下げているホイッスルを鳴らしながら、谷を下りにすることにする。

この谷も両側から谷芯に向けて、折り重なるように木が倒れてきている。鈴鹿の植林された谷にはこんな感じの所が多くて、雰囲気も似ているので、区別がつかない。

12時29分、高度390mにおいても窩跡があり、ゴミが散乱している。以前から気になってきたことなのだが、登山者のあまり入らない地域で、猟師や釣り人、柚人、電力関係の人達の捨てるゴミの多いことといったら……?何かならないものだろうか。

高度380mで谷に水が流れだし、左より谷が合流、333度から5度へ向かっていった。12時40分、345mで谷中で休憩、パンを二個食べる。しばらくして下りて行くが、谷は356度へ続いている。295mでも左より谷が合流、少しくだると冷川谷本流との

と思うのだけれど。

20分あまりで奥ノ谷に到着、お腹が空いてきたので食事とする。今回はカップラーメンを何年か振りに持ってきたのでコンロでお湯を沸かす。いつもは貧しくパンだけなので、温かいランチは本当においしかった!やはりこれからはもう少し食事に気をつけよう。

見上げると、眩しいほどの青空になってきたが、十分満足したので後悔なし。しかし、奥ノ平は小生の足跡だらけなので、これから登ってくる登山者の皆さん、ゴメンナサイ!

10時16分出発。10時47分白船峠、続いて冷川谷藤頭部をトラバースしてビツクリ……そこら中にマーキングが付けてある、暗闇のなかでは全く気づかなかったのだが、これほどとは……ここまでしなければ、山の中を歩けないとは、何と申してよいのやら、もちろんここは登山道なので、マーキングを外しません。

11時13分、坂本谷出合、今朝(夜中)夜景を撮った送電鉄塔を通り過ぎてか

出合が見えたのだが、そこに横たわる物を見てビツクリ!

え、ウツソ、ほんとうに……そこには山口浄水場へ水を送っている導水管があつたのだ。ということ、この谷は昨年迷って下りた谷だったのです……2年連続で……グスン……まあこんなもんです、わたくしは。

この導水管は直径が50cm位で上部に手摺が付いていて、橋の代りになっている。もっとも昨年は積雪が多くて、その手摺もほとんど隠れて見えなかったのだが。

13時01分、冷川谷の左岸に無事到着、登山届けのある所である。ここからはダンブカーも通れる広い道なので、ノンビリと歩いて行く。途中、コンクリートの橋を渡り、右岸に出る。しばらくして、丸尾尾根登山口である堰堤の所に来てまたまたビツクリ。まるで場末のキャバレーのように、アーチ状にマーキングがヒラヒラとひらめいているのである。うーん、何でこうなるの?近頃の登山者はこういうケバイのお

ら、アイゼンを外す。

ここからは、昨年、気がついた知らない谷に下りてしまっていたので、気をつけて歩く。そこら中に登山者や猟師?の足跡が錯綜しているので注意深く進む(ここだけのナイショ話ですが、最近は何回迷って、まともに登山道で木和田尾を下りたことがないのです。トホホ……)。

で、細心の注意を払って下りているつもりだったが、ふと我に返ると、足跡が無い、マーキングも無い!……ガーン、またやっちゃった。とりあえずコンパスの指し示す14度へまっすぐ下りて行く、登山道のある谷ではなく尾根を……

12時04分、窩跡があり、柚道が尾根をトラバースしている。窩跡の中には、散弾銃の弾の空箱や食物のゴミが散乱している。まだ新しく、今年のもののようなのである。とりあえず柚道をトレースして行くと、人の話し声や犬の吠え声が聞こえ、鉄砲を撃つ音も聞こえるではないか。どうも前方に見える谷を

好きなのかしらん……もっとも今までは、控え目過ぎて小生もよく通り過ぎてしまったのだが。ここからの広い林道の一本道も浄水場までマーキングだらけである。昨年の7月30日に来た時には無かつたのに、半年のうちにこの変わりようである。どうやらこのマーキングを取り付けた人達は、日本人の本来持っている恥じらいを、山のどこかに捨ててきたようである。

(平成19年1月28日歩く)

▲参考タイム▼

木和田尾登山口1・41―送電鉄塔の下
3・44―坂本谷出合4・19―白船峠5・
04―真ノ谷5・35―奥ノ平8・05―青
のドリ―ネ8・16―P1194の北西
鞍部9・11―真ノ谷9・34―白船峠10・
47―坂本谷出合11・13―冷川谷出合13・
01―木和田尾登山口13・19
△地形図V2万5千II篠立

山行記録

滝波山

山田明男

奥美濃

岐阜・福井の県境近くの滝波山には登山道も無く、奥深い山なのでなかなか行けない。「岐阜百山」になっただけで記録は多くあるが、残雪期のもが多い。秋の記録を見ると、滝波谷から入っているものが多い。

私も「岐阜百山」を指しているので無積雪期の10月に挑戦した。私のいつものやることは、まず地形図を確認することである。滝波谷の林道を最後まで行き、谷をつめて行くルート。滝波谷の途中から入る林道に入って、滝波山から南にのびる尾根を登るルート。もう一つは尾根の西の谷「海ノ溝谷」

の林道をつめて、神社の上から尾根を登るルート。これら三つが行けそうだと思います。

本番前の日曜日に下見で滝波谷に入ってみるが林道の具合が良くなく、入っている人も少なく谷全体が暗い感じであった。登りにくそうであったので、海ノ溝谷に廻った。

林道入口に進入禁止と書かれた看板があって、車を置いて歩いて進んだ。当日は、奥の神社の祭りで多くの人が車で行った。谷は広く明るい谷だ。トラックの人に「乗って行かないか」と言われたが、新しい注連縄が載っ

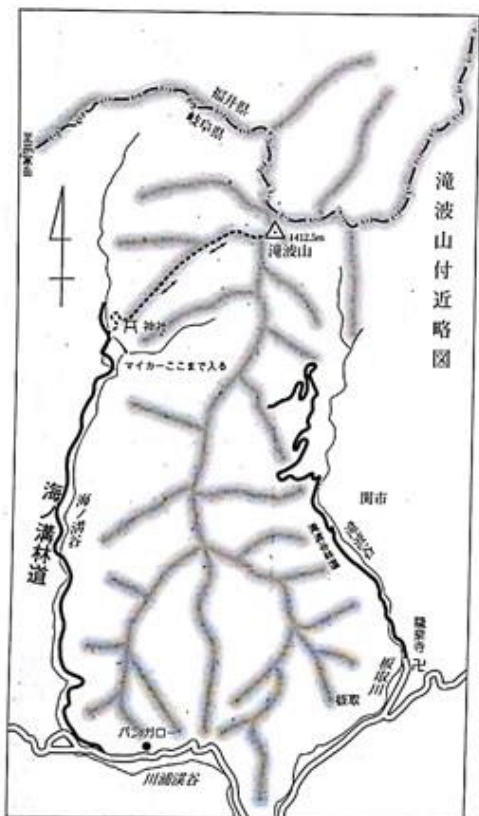
ていたので辞退した。

1時間30分で神社の下に到着。神社へ向かう道はまだ切り開かれてからそう時間は経っていないようだ。昔の道は谷沿いであり、福井県方面に道形は残っているが、崩れていて車は通れない。民宿のご主人の話によれば、昔は福井県にまで道が通じていたそうだ。

11時頃から祭りが始まるようだが、神社は帰りに立ち寄ることにして、10

時半から上に向かう。伐採した木を下ろした道が上に向かっていたので少したどると、ニガイチゴの木とタラ・カラスザンショなどの棘の生えた木が、道を所どころ覆っていた。棘の木を避けて上に向かい、やっとのことで林に取り付くことができた。

傾斜はきつくて登るのに時間がかかると、30分くらい登れば少しゆるんだ。やぶはさほどでもないが、歩きやすい



手前のピークより滝波山山頂



奥ノ権現社殿



所は少なく、12時を回る所でお昼にした。山頂へは標高差で300m程度残っているが、お腹が空いては登れない。食べ終わったらすぐに出発。上に行くときササが出てきた。ササはネマガリタケと呼ばれる太いもので、竹みみたいな太いものもある。1時間程で尾根のピークに出たが、三角点が無い。

地図を確認すれば、右手に見える二つ先のピークが山頂だったので、山頂に向かう。平らな吊り尾根を行くが、木々は積雪で寝たものが多いので歩きにくい。

山頂に着くも三角点が見当たらず、少し探すと見つかった。南の見晴らしのある場所であり、3等だった。関山岳会の札といっしょに三角点を写して帰途につく。山頂は県境から少し離れていてここは岐阜の山だが、平家岳は福井にある。

尾根は広いので、下山には気をつけなくて元の場所には戻れない。歩きやすい尾根と覚しき場所をくぐったので、北に外れているのはわかっていった。

由良川源流 芦生原生林生物誌

新刊

渡辺弘之著 A5判並製 二一〇〇円
京都の秘境・芦生の森に成育する動物・昆虫・植物などを、四十有余年にわたり観察・調査・研究してきた著者が、貴重な写真をまじえ現況を紹介、原生林の保全と保護を訴える。芦生研究林元林長による待望のガイドブック。

三訂 奥美濃

高木泰夫著 四六判並製 一八九〇円
樹林の旅が楽しめる奥美濃七〇山のガイド。写真と地図を多数掲載。春は尾根の残雪を踏んで頂上へ。新緑で萌える頃は花咲く道を、夏は魚影を追って深谷をつめ、秋は燃える樹林の中の古い峠道を迎える。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161

食事をした場所を通らずにくだったか

らはっきりしたが、どの程度北に外れたかはわからなかった。しかし、あまり外れてはいないはずで、神社の北の尾根芯の少し北を下りたようだ。

途中、帽子を落として拾った場所にスズメバチの巣があり右手を刺されたが、多くの蜂は騒がなかったし、他の人は巣に気がつき避けて通ったので犠牲は私のみで済んだ。蜂の巣は25センチ程で、多くの蜂を見た。手の腫れは1日だけで引き、長引かなくてよかった。

林道に出る前に今度は蛇が出て、蛇が苦手の人が大声を上げたからびっくりした。神社と駐車した所の中間の林道に出て、下までまた長い林道を休ま

ずに歩き、車に戻った。

1週間後の例会本番では車で林道に入り、3時間短縮して往復ができた。登りはほとんど同じルートで歩き、登りに少し赤札を付けたので同じルートで戻れた。紅葉はきれいで、この谷は赤が多いのが特徴だが、黄色のシロモジも目立った。

神社までゆっくり歩くだけでも良いコースだろう。多くの人にこの素晴らしい紅葉を見て欲しいと思う。
(平成19年10月28日・11月4日歩く)

△コースタイム▽10月下見時
海ノ溝林道入口(1時間30分) 神社下(30分) 神社(2時間45分) 尾根ピーク(30分) 三角点ピーク(2時間) 神社(1時間30分) 林道入口
△地形図▽2万5千円門原

補足・養老町の高木泰夫氏の著書『改定奥美濃―ヤブ山登山のすすめ―』(平成5年発行)によれば、P67に「以前は海ノ溝谷からもルートは有ったが、奥にあった権現さんを下に降ろしてしまったので、今日では滝波谷(鳥口谷)をつめる以外にはない。」とあるが、奥の権現さんはまだ谷の奥にあって、地元の人によりお祭りも行われている。神社まで車で入ることも可能で(神社下にゲートあり)、こちらから行くのが滝波谷よりも登りやすいのではと実感している。

連載 韓国登山シリーズ ②

白雲台(ソウル)

ヨシミスポーツ

吉見英樹

韓国

私が20年前、韓国で初めて登った山である。大阪で在日の方が多く住む山野や東成には「白雲台」という名の焼き肉屋・韓国食堂が多くある。自店の屋号にするほどすばらしい山で、韓国の象徴的な山でもある。韓国でベスト3に入る人気の山だろう。

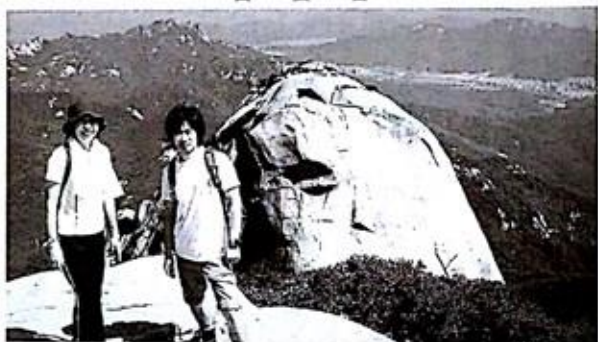
ソウル北漢山国立公園にある一つの

峰であるが、街から望むひときわ目立つその雄姿は、見る者をこの山に誘うに十分な迫力をもっている。

らでも見ることができ、一度見たら、たいがいの人はその存在に圧倒され、登りたくなるだろう。私も初めてソウルに行き、タクシーから見たとき、「あっ、あれは何であろう?」と思ったほど。それ以来、出張の都度できる限り時間をとり、いろいろなコースから行くようになった。今まで何回登ったことか、もう数えることさへ無理に

なつた。それほどに魅力があり、多彩なルートがある。初心者向きから超ハイグレイドクライミング者向きまで、技術や趣向に合わせて選ぶことができる。

白雲台



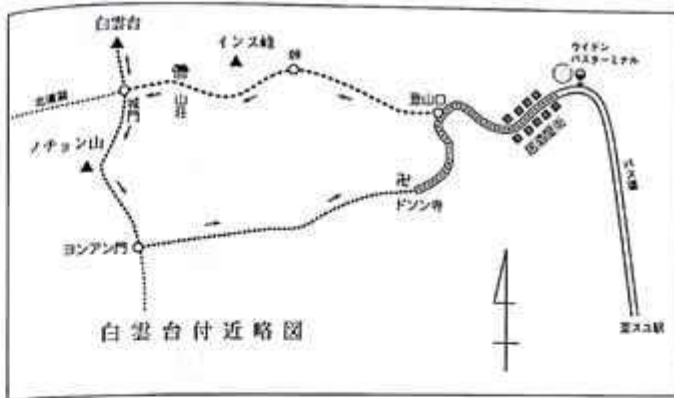
交通アクセス
登山口によって異なるが、都心部のソウル市庁前からおおむね1時間で登山口へ着ける。思い立ったらすぐに行ける、大阪の生駒山のようにとても便利な山なのである。

山容

標高何百級の砲弾型巨岩峰で遠くか

ウイドンコース

コースは無数にあり、なかでも一番ポピュラーなウイドンコースを紹介しよう。



地下鉄をソウル北のステーションで降り、タクシーで「ウイドンバスターミナルまで行ってください」と言えばよい。タクシーで約15分くらい。

もちろん、ステーションから路線バスが頻りにあるが、日本人にはどのバスがどこへ行くのか？ 探し当てるのが難しいだろう。

ウイドンバスターミナルに到着してから、登山口まではドンソン寺行きの乗合無料バスを使えば楽である。

乗合バスを降りた所が登山口で、入山料を払い入山する。始めは林間の気持ちのよいなだらかな登りを50分。途中、休憩所、お寺、溪流などを通り過ぎ、峠に出る。ここに来ると白雲台横に立つインス峰の巨岩峰が目前に現れ、その圧倒的な迫力・存在感に唖然として見上げるだろう。

ここが最初のポイントで、記念写真を撮るなどしばらくは景色を楽しもう。道を左にとり、インス峰の左側を捲くと、今までの低山歩き風の道がアルパイン風に一変する。巨岩に付けられ

た足場に足をねじ込んで取り付いて登る。ワイヤー・鉄階段、足場を頼りに高度を稼いで登って行く。扶られた岩の足場は無数の人が歩いたことを証明している。

このように書くと、滅茶苦茶に危険そうに思えるが、雨の日以外は全く安全に登ることができるので、心配は不要。

あたりは岩また岩、覆い被さるような岩を見物しながら40分。最後の急斜面を上がると山荘(休憩用)が現れる。山荘はきれいに整備され、前に机や椅子があり、皆ここで休憩する。弁当を広げたりお茶を飲んだり、木漏れ日の下で気持ちのよい時間が過ごせる。付近にはキツツキ・リスも多くいて、食事をとっているとリスが遊びにきたり、韓国らしさが満喫できる。

一部の登山者は、ここで濁酒を呑むようだ。私も友人に無理矢理(ほんとは!)勧められ、何回か呑んでいる。けっこうな量を呑んでもあまり酔うという感じがしないので、そんなに神経

質になることはないのだが、日本ではこんな岩山で酒を呑むことはまずないだろう。文化の違いを感じるのだが、酔い過ぎるとこれ以上歩けないので、ここがその日の最高地点になる。

おおらかで良いでしょうか？ 私もこの韓国登山のアウトなどところが大好きだ。

さあ出発。あと30分程岩場を頑張り、と城門に到着する。ここは反対側ブツカンドンへの峠になっている。

韓国の城は日本のような平野の城ではなく、山城になっている。わかりやすく言えば万里の長城のミニ版、見た目は万里の長城とほぼ同じなので、やはり陸続きの大陸文化だと痛感する。元は北からの外敵侵略から漢城を護る目的でつくられたものである。

この城門から上が白雲台登山の核心部。クライマックスを飾るにふさわしいスリリングで高度感抜群の岩場歩き、文字通り頂上へ急勾配が一直線だ。ワイヤーを握り、溝に靴を突っ込みグイグイ上がって行く。

強者はワイヤーに頼らず、フリーハンドで45度を超える岩場をスイスイと上がって行くが、見ているほうが怖い。落ちたりせんやろか？ ドキドキである。

昔友人と登ったとき「これでトラブルは無いのか」と聞くと、「たびたびあるらしい」とのこと……。山岳レスキューはフリーハンドでの登山を禁止しているが、気の強い韓国登山者はあまり言うことを聞かないらしい。

私もこれは理解できる。この国では恐ろしいほど慎重な人間ほど市民権が薄いようである。危ないことを平然とやっているのを見て男と認められるのである。私も10年前頃一度やってみたが、落ちれば100%天国行き。恐がりやの私はそれ以来遠慮している。

アタッテ痛い靴の巾広げします

靴の幅を調整するだけで1〜3cmです!!

YOSHIMI SPORTS

JR天王寺駅 北出口徒歩5分 徒歩通ってすぐ。

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/

TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:50~PM8:00(日曜は7:00まで) ●毎週木曜日定休



白雲台にて

岩峰、蟻の戸渡りのような危険なコースなどが手にとるように見える。昼食は、少し下の広い岩場で楽しむのがいいだろう。

下山は城門まで来た道を戻る。ここでは上り優先など無い。ともかく互いに譲り合うのである。城門からは南の方へ道をとる。トラバース気味のコースとなり、これも岩歩きの連続。危なくはないのだが、ゴツゴツした岩場歩きの足腰がけっこう疲れる。

城門より50分。このトラバースを続けると、ヨンアン門に到着。楼閣があり、コースのポイントになっている。

コースは城壁沿いにドンドンと続くが、足腰も疲れているのでここで下山路をとることにしよう。

これからはのんびりとしたコースで木立のなかをホイホイと歩き、50分でドソン寺の屋根が見えてくる。この頃には足腰がガタガタ。

ドソン寺は有名で、お堂にはバクチョンヒ大統領・チョンドハン大統領の額がある。毎日多くの参拝者が訪れ、受

験シーズンなどはものすごい人々が参拝するそうである。

信者さんの熱心なお参り風景(床に額をこすりつけ、また立ち上がる方法、これを延々と繰り返す)を見物した後、寺から少しくだるとウイドンの登山口に戻り、登山終了である。さっそく売店に寄り、メクチュ(ビール)で喉を潤す。帰路は無料のシャトルバスもあるが、バス道を歩くのを勧めする。なぜなら、ここから韓国登山スタイルの総仕上げ、反省会で居酒屋通りへ乗り込むからである。

海苔巻き、ソルロンタン屋、鶏肉屋など好きな所へ行こう。呑みっぷり食べっぷりを見てみると、ここは韓国だと改めて実感するだろう。

▲コースタイム▼

登山口(50分) 峠(40分) 山荘(30分) 城門(30分) 白雲台頂上(20分) 城門(50分) ヨンアン城門(50分) ドソン寺登山口(50分) ウイドンバスターミナル

連載

三角点を訪ねて ⑤1

旧坂内村広瀬の山、湧谷山へ

奥美濃

磯部 純

本来なら、大兄の新ハイ4月例会で登る山は五蛇池山であった。この年は例年になく雪が多く、湖北や美濃の山には、4月半ばになっても雪が残っている。果たして五蛇池山へ登れるのかどうかわからなかった。例会の4日前に大兄と2人で偵察に行くことにした。

大谷川林道奥の駐車場に車を置き、山頂まで登るつもりで出発する。歩き始めてすぐ、林道は崖崩れで寸断されたが、そこは崖横の急斜面を登り、上の林道へ出る。再び崖崩れに出合う。前年まで固定ザイルをつかんで渡れた

丁字山から湧谷山へ向かうブナ林の尾根



道と道を塞ぐ雪のため、1時間半歩いても、まだ三分の二ほどしか来ていない。この状況では大人気で歩くのは時間的にも無理で、そのうえ、雪深歩きに慣れていない人もいるかも知れない、スリッパでもしたら大変だと判断し、例会での五蛇池山を断念して引き返した。

代替え候補にあげていた山は湧谷山と西津波の二つ。まず始めに湧谷山へ行ってみる。この山は五蛇池山より600m程低いが、雪は山頂と北斜面にわずかに残っているのみで、雪の問題は全く無さそう。

以前はこの山へ登る道は無く、坂内の広瀬神社脇の竹やぶから取り付いて、道無き急斜面の尾根を登る人がほとんどだったが、最近スキー場からのルートで旧坂内村の手で開設したと聞いたので、その取付点、道の状況を見極め



湧谷山付近略図

たかったのである。スキー場をリフト降り場まで登り、周りを探すと南の尾根に踏跡が付いている。スキー場の上で腹ごしらえし、その道を登ってみる。急斜面に道はジグザグに切られていて、間違いない。丁字山へとこのびている。道が広瀬神社の尾根と合うのを確認してからくだり、例会では湧谷山へ登ることに決定した。もう一つの西津波は、次の例会に回すことにしたが、せっかくなので来たのだからと、西津波の北のピークである飯盛山まで偵察に登り、コースを確認した後、カタクリ、赤やピンクのミヤマカタバミ、ヒトリシズカの花を堪能してくだり、例会の下見山行を終えた。

例会当日、6時50分に京都組は三台の車で山科駅を出発する。先頭を走る私の車が名神に乗るとすぐ、熟年暴走族と言われている大兄の車が追い抜いて行ってしまふ。これは大変とスピードを上げて後を追うが、大兄の車は影も形も見えない。ドンドン走り、関ヶ原インターを出ると、そこで待っていた大兄の車にやっとならぬ。ここで待ち合わせていた関西方面から参加する五台の車が、一団となって旧坂内村役場へ向けて走り出す。

池田山の山麓を走ると、小島山の右手の山間に雪を被った小津権現山が見えてくる。掛斐川沿いを北へ走り、横山ダムを西へ渡って、天狗山の麓を廻り込むと、目の前に大きく湧谷山がそびえている。驚いたことに、4日前には南斜面に雪は全く無かったのに、今見ると、中腹から上は白く雪に覆われているではないか。雪は前夜に降ったようである。偵察をせずに五蛇池山を強行していたら、登れずに右往左往していたのは確実だった。

旧坂内村役場には集合時間前に到着

し、まず役場横の道の駅で出席をとる。山の変更を事前に連絡したにもかかわらず、27名が参加してくれた。役場前にいた人もいっしょにスキー場へ移動して、ここで改めて湧谷山への変更理由を説明する。

9時15分出発。スキー場を登って上部へ。ゲレンデ横にはフキノトウやツクシが顔を出している。スキー場の傾斜はあまりきつくないが、先頭の歩行が速く、息が切れてならない。それに遅れずについて登る人達の脚力にはただただ感心するばかり。フウフウ言いながら、やっとスキー場の上へ着いてほっとひと息。北方を振り返ると、雪を被った蕎麦粒山と小蕎麦粒が間近にそびえ立ち、黒津の西峰が右手上方に見える。

ここから左手の小尾根に付けられた道に取り付く。まず、シロモジの花の歓迎を受け、杉林の急斜面に切られた道を登って行く。道脇の茶色の落ち葉のなかにピンクのショウジョウバカマが可愛らしい。急斜面をジグザグに登っ

て行くとすぐに杉の林が切れ、雑木の疎林に変わる。雪が解けて間もない斜面にはユキザサの新芽が顔を出し、スミレやシシトビの花を開いている。花はタチツボスミレと似てはいるが、葉が出ていなくても、花が咲いているだけで区別できると、花知りの人が教えてくれた。上にはクロモジの花が今盛り。

急斜面の登りはきつくない、いつもなら汗もかかずに鼻歌交じりで登って行く和道の彼は額に汗をビッシリかいている。気がつく、和道の彼を先頭に4人が遅れている。それにしても、「今日はおかしい」「しんどい」とぼやくわりには、喋りは途切れることない。小さな尾根を合わすと斜面に雪が現れ、皆がアイゼンを着けている所をやっと追いつく。途端にアイゼンを着け終わった本隊は出発してしまふ、今度は6人が別のパーティになって登って行く。先頭の列ははるか上方で、小さく姿が見えているだけ。

狭瀬神社からの尾根に合うと、雪は益々多くなる。辺りはいつの間にかブナ、ナ、疎林に変わり、後方には蕎麦粒山・小蕎麦粒ばかりでなく、五蛇池山も姿を見せてくれ、その間には真っ白に雪を被った能登白山も徐々に姿を現してきて、すぐ近くには黒津の頂も見えている。何年か前に、大兄と和道の彼の一団が、積雪時に急峻な斜面を登り、黒津を踏んだと聞いているが、あんな所へ登ったとはとても信じられない。

斜面は急過ぎるほど急で、ジグザグに切られている道は雪で隠れてしまふ、先頭の登った踏跡は直線的に上へと続いている。陽は燦爛と輝き、雪面に反射する光が強く、サングラスをかけないと目が痛くなるほどだ。息が切れ、足が重くなってきたが、時々、左手に見えてきた金鷲岳、白倉の頭や貝月山を眺めたり、後ろの山々を見渡して、息を整え疲れを癒す。

11時10分、丁字山へ登り着く。我々の到着したのを確認すると、間もなく先頭は出発してしまふ。丁字山は、古い地図には山名を湧谷山と記載されていたそうだが、今西錦司先生が「主峰



丁字山から見た蕎麦粒山と五蛇池山

手前にある10111のピークを丁字山と言ひ、奥の1079・777を湧谷山と言ふ」と紹介してから国土地理院でもそれを認め、現在の山名になったと聞いている。

丁字山の山頂からは、東、南、西の三方の展望が望め、北方には小ピークの奥に真っ白な湧谷山が頭を出している。見上げると輝く太陽の回りに円い虹が出ており、天候の崩れる前兆を暗示している。遅れた6人が後を追って出発。少しくだつて登り返す。地形図で見ると、湧谷山手前のコブはそんなに

も急そうには読めないが、かなり急勾配を登らなくてはならない。コブから雪のベツタリ張り付いた急斜面を50分程登ると、湧谷山山頂。11時35分の登頂だった。これまで何回か鷺見さんの例会で湧谷山が取り上げられたが、頂上を踏めずに途中で引き返したと聞いているので、幸運としか言いようがないかった。

山頂では他の二組のパーティが食事中。我々のグループの先着した人達も雪面に腰を下ろし、360度広がる山々を眺めながら、すでに昼食にとりかかっている。西には横山岳が見え、手前に土蔵岳から点名「川上」の尾根が。奥には三國岳から北へのびる尾根が連なっているが、三周ヶ岳は尖り帽子状の高丸山に遮られて見ることができない。その右手に名前のわからない白い山々が連なり、北東には蕎麦粒山、小蕎麦粒、五蛇池山と三つが雁首を並べ、その間に真っ白な頂の能郷白山が見えている。手前には黒津、天狗山が横たわり、小津権現山も遠くに見える。南に

は貝月山、金糞岳が間近に横たわっている。その他多くの山名を大兄に教えてもらったが、本当のところ、頭に入っていないかった。上気ななか、このすばらしい大バノラマを眺め、しばし我を忘れる。

昼食の休憩は12時30分まで。早く食べ終わった人達は、大兄の解説で周囲に立ち並ぶ山々の名前を教えてもらったり、雪で白くなっている北下の台地までの散策を楽しんだり。また、三角



雪面から頭を出す湧谷山三角点

点病の何人かは山頂で雪を掘っての標石探し。私もその中に加わり雪を掘ったが、岩を三個見つけたところで諦めてそこを離れてしまう。しばらくして「あつたぞー」と言う声で戻ってみると、三個の岩の真ん中あたりに標石の頭が掘り出されていた。点名「湧谷」、標高1079・777で、3等三角点である。標石は東南を向いて、南から東へ30度振っている。一時は標石を見るのを諦めていたが、執念で掘った人がいて標石に会えて、何か得をしたような気がした。

12時30分、下山開始。さすがに下りは速く、丁字山まで15分でくだる。別の尾根を下りたいと言ふ人もいたが、個人山行ではないので登った道を忠実にくだる。スキー場の上部までくだり、そこで山女から主婦に戻った人達のためにツクシ摘みの時間をとる。スキー場の下りでは、キバナノアマナ、紅や白のミヤマカタバミの花を見た。そこから急いでくだり、全員がくだって来る間に、スキー場入口にある三角点を

確認する。標高285・67で、点名は「マメ棚」、4等三角点であった。

全員が揃ったのは14時。くだってきた山を振り返ると、朝、真っ白だった山腹や尾根の雪は消えてしまっている。すばらしい天候に恵まれ、この時期に雪山を楽しむことができたばかりでなく、三角点は雪の下と諦めていた標石にも出会え、幸運としか言いようがない。

ここで解散し、露天風呂へ行く人達と別れて、急いで帰らなくてはならない人、着替えを持ってきていなかった人を乗せた車は、道の駅で買い物をした後、一路、京都に向け車を走らせた。(平成18年4月22日歩く)

△コースタイム▽

遊ランド坂内スキー場(1時間) 丁字山(20分) 湧谷山(15分) 丁字山(50分) 遊ランド坂内スキー場

△地形図▽2万5千1美濃広瀬

伊勢・外宮から内宮へ

松永恵一

古市

伊勢参り大神宮にもちよつと寄り
全国津々浦々から胸躍らせて伊勢参
りに向かう。慶安三年(1650)、宝
永二年(1705)、明和八年(177
1)、文政十三年(1830)、慶長三
年(1627)の「おかげ参り」には、
半年間に約458万人の参詣者があ
たと伝える。西からの伊勢本街道、東
からの伊勢街道を歩いてきた人々は、
宮川の渡しを越えると御師が出迎え山
田の街へ。御師は祈禱を行い、宿泊・
案内の世話をする。万病に効く靈薬小
西萬金丹。豊受大神宮(外宮)は間近。
外宮と内宮の間は、天皇陛下の行幸

時の参拝路である御幸道路(御成街道)、
真珠王御木本幸吉が資金を提供した御
本道路等があるが、古くは尾部坂ま
たは間ノ山と呼ぶ道が参宮道。江戸の
吉原、京都の島原と並ぶ三大遊郭とし
て栄えた古市を通り、約5km離れた皇
大神宮(内宮)へ向かう。

最盛期の古市には七〇軒の遊郭に遊
女は千数百人。芝居小屋三を数えた。
備前屋・杉本屋・油屋は三大妓楼とし
て名を馳せた。牛車楼と号した備前屋
は古市屈指の大樓閣で、桜の間での伊
勢音頭総踊りが有名。舞台付の大広間
で唄い踊られた伊勢音頭は、全国津々
浦々に広がっていった。油屋で起こっ

神宮微古館



た殺傷事件は「伊勢音頭恋寝刃」とし
て今も演じられている。

江戸時代、庶民の夢だった伊勢参り。
古市は、一生に一度の思いを遂げた人々
が、参宮の無事の開放感を精進落とし
と称し楽しむ歓楽街で活気に満ち溢れ
ていた。その栄華を匂わずものは残っ
ていないが、妻入りの町並、旅館麻吉、
参宮街道の道標、古市参宮街道資料館
など、面影を垣間見ることが出来る。

伊勢音頭恋寝刃

寛政八年(1769)5月4日夜、
伊勢古市の油屋で宇治浦田の医師孫福
齋が恋の嫉妬に狂い、阿波の藍商人ら
3人を斬り殺し、6人を負傷させた事
件をもとに近松徳夏が描き、2ヶ月後
歌舞伎が大坂角の芝居で上演された。

舞台は、徳島藩家老今田九郎右衛門
が阿波の名刀青江下坂を捜すため、息
子の万次郎を伊勢に向かわせるところ
から始まる。万次郎は油屋の遊女お岸
に熱を上げ、苦勞して手に入れた名刀
まで質に入れる始末。手元の折紙(鑑
定書)も今田の失脚を企てる徳島岩次
に偽物とすり替えられ、御師の福岡貢
に助力を頼む。貢は手に入れた名刀を
万次郎に渡そうと油屋を訪れる。貢の
なじみの遊女お紺は、折紙を手に入れ
るため岩次に身を任せ愛想尽かしする
そうとは知らない貢は、満座の中で女
達に辱められたことに逆上し、岩次達
を次々と斬り捨てていく。駆けつけた
お紺と料理人喜助の働きで名刀と折紙
は無事、万次郎の元に戻る。

神宮の博物館

神宮微古館は、神宮崇敬の歴史と日
本文化を示す歴史と文化の総合博物館。
明治四二年(1909)にルネッサン
ス式鉄筋コンクリート平屋建で完成。
設計は赤坂の連資館や奈良・京都・東
京の国立博物館を手がけた片山東熊。
前庭の設計は宮内省の市川之雄。

昭和二〇年(1945)7月、戦火
で建物と収蔵品の大部分を焼失した。
昭和二八年、第五九回式年遷宮を記念
して復旧。建物外部の花崗煉瓦石積の
壁面はそのまま、二階建に改装された。
神宮農業館は、自然の産物がいかに
役立つかをテーマとする産業博物館。
皇祖天照大御神と、産業の守護神であ
る豊受大御神の神徳を広めることを目
的としている。神宮美術館創設のため
現在地に移転した。設計は微古館と同
じ片山東熊。平等院の鳳凰堂をイメー
ジする和洋折衷を取り入れている。微
古館と農業館は国の登録有形文化財。
神宮美術館は、平成五年(1993)
の第六一回式年遷宮を記念して創設。

猿田彦神社

本殿は二重破風の妻入造で「さだひ
こ造り」と称し、祝詞殿は寝殿造。ご
祭神は猿田彦大神。万事善い方へ「お
みちびき」の大神で、国初のみぎり天
孫をこの国土に御啓行になられた。

垂仁天皇の代に倭姫命が神宮鎮座
の地を求めて諸国を巡歴された時、大
神の御裔大田命が御先導され、五十
鈴川の川上一帯の霊地を御献上、伊勢
神宮創建に尽くされた。子孫は宇治土
公と称し、永く玉串大内人という特
殊な職掌に任ぜられ、永く神宮に奉仕
してきた。宮司の姓は宇治土公。
本殿に向かい合うように建つ佐禰女
神社は天宇受売命を祀る。天岩窟で
神楽をされた命は、猿田彦大神とも
に伊勢に來られ、猿女君の称号を受け
られた芸能の神。

拜殿正面中央に昔の神殿跡を印し、
方角を刻んだ八角の石柱がある。八角
は方位を意味する。本殿の堅魚木・欄
干、佐禰女神社神殿・大鳥居・手水舎
の柱など、すべて八角形となっている。



猿田彦神社

コース概観

「お伊勢参り」は上方落語の代表作『東の旅』（伊勢参宮神乃願）を生み出した。「お伊勢さん」というのはまことに陽気好きの神様で、道中酒は飲んでもかまわん、散財はし放題、みんな婦りに女郎買いをして帰ろうかという陽気な旅で……。大坂・玉造を出発した連中が緑り広げる滑稽道中に誘われて、外宮から内宮へ歩きに出かけてみた。

J・R・近鉄伊勢市駅下車。JR改札からまっすぐ南に歩くと外宮。表参道入口のすぐ側、勾玉池のほとりに豊川西福荷神社。その先、右手の路地を入ると国指定史跡豊宮崎文庫跡。蔵書は神宮文庫に移され門と築地塀が残る。塀越しに咲き誇るお屋根桜。神宮の萱屋根に芽吹いたものを移したという。御木本道路が右にカーブする手前に祖霊社がある。左折してすぐ右折。高架橋近鉄鳥羽線をくぐり、勢田川に架かる小田橋を渡る。

道はゆっくりと上り、間の山のきつい坂となる。「間の山お杉お玉」の石碑が立つ。三味線や胡弓をかき鳴らし、旅人に投銭を乞うことで有名だった芸人、お杉・お玉が愛嬌を振りまいていた。

坂を上りつめると両口屋が聳え立つ。壁にベンガラが鮮やかに残る。テニスコート前バス停を過ぎた右手に「備前屋跡」の標石が立つ。芝居小屋、妓楼、旅館、料理屋などが軒を並べ、精進落としての客を待ち受けていた。舞台付の

大広間で毎晩、伊勢音頭を唄い踊る声絶えなかった。明治から大正、昭和と進むにつれ妓楼は歯の抜けるように無くなり、戦災が根こそぎ焼き払った。大安旅館の女将井村かねさんの『伊勢古市こぼれ話』に残る話。「朝迄お遊になりまして朝お帰りになりますと、そのあとすぐに、びせん屋なり、杉本屋よりお係りの女中さんが、お女郎さんよりの手紙と相方の名前の入りましてお手拭をお一人お一人にお渡にまいりますのでございました。そのお手紙とお手拭を持たれてお国へ帰られますのでございました。それで始めてお伊勢参りをせられて、伊勢の古市にて男様一人前になって帰られましたと親御様にてはとても喜ばれるようのごことでございました。」

備前屋跡から少し歩くと右側に大林寺入口の道標。境内に「油屋騒動」の遊女お紺と孫福齋の比翼塚がある。備前屋と油屋の間にあったのがノ芝居小屋。上方役者たちの登竜門として古市での評判が大変重視された。

古市郵便局を左にくだると倭姫宮、微古館・農業館、式年遷宮記念神宮美術館、神宮文庫、旧福島みさき太夫邸門、皇學館大神道博物館などがある。近鉄鳥羽線の手前右手に「油屋跡」の標石。「旧古市遊廓の代表的妓楼……『伊勢音頭恋寝刃』の舞台で知られる」と記す。線路を跨ぐ。大安旅館の隣の豆腐六は評判のうどん屋だった。白い麵、黒いタレに葱がひとつまみ。

左側に芸道の守護神天細女命を祀る長峰神社。古市三座と呼ばれた芝居小屋の「奥の芝居」が麻吉旅館に入る曲がり角にあった。麻吉旅館は唯一昔



をしのぶ宿屋。アッと息を呑むような見事な懸崖造で国登録有形文化財。「創業は天明二年（1782）以前で、もとは花月楼と言う茶屋であった。明治時代には珍しい三層楼として、伊勢音頭の舞台を持ち、芸妓も常時30人程を抱えた奥下第一級の料理屋であった。現在四棟の中心建物があり、懸崖造で最上層まで六層階に及んでいる。」

「此おく つづらいし」「左 あさま 二見へちか道」の道標がある。

元の道に戻ると左側に栄松山寂照寺。徳川家康の孫千姫の菩提を弔うために建立した寺という。円山忠挙に学んだ画僧、月徳上人が住職を勤めた。伊勢道を跨ぐ手前左手に「伊勢市古市参宮街道資料館」がある。街道に沿って妻を向ける切妻妻入で、一階は格子造、軒には幕板が下がり、二階の妻の中央に出格子窓。外壁は「きざみ囲い」。神宮が、平入なので、妻入となった。

しめ縄は一年中玄閻に掛けられ、「蘇民将来子孫之門」「笑門」の木札。右手に下りて行くと桜木地蔵。大岡

忠相が伊勢・山田奉行所に赴任、この地蔵堂で出世を祈ったという。小坡美術館横の牛谷坂をくだる。御木本道路の手前右手に「宇治惣門跡」の碑が立つ。俗に黒門と呼ばれ、番屋がここにあった。左に開運の神様として信仰されている猿田彦神社がある。御幸道路を横切りおはらい町に入る。喧騒が聞こえてくると左に赤福本店、右におかけ横丁がある。町並を再現した御食事処・お土産屋や歴史館などが立ち並んでいる。到来の赤福餅や伊勢の春 正岡子規

コースタイム

伊勢市駅（5分）外宮（15分）小田橋（25分）古市（20分）猿田彦神社（15分）内宮（バス約10分）五十鈴川駅

費用

上本町駅→伊勢市駅 1750円

問い合わせ先

伊勢古市参宮街道資料館 1750円
0596 (22) 8410

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑧
「保呂羽山」
ホロツサン
西尾 寿一

東北の葉山はつやまの研究で知られる岩崎敏夫氏は、「本邦小祠の研究」のなかで「葉山にしても、葉山という神の名のみが葉山とは限らないことで、熊野岳の熊野が実は葉山であったり、羽黒がそれであったりする……」と述べられる通り、ここに取り上げる保呂羽山も他の山名や神の名を名乗っている場合があるのだろう。また、その逆も当然あり得よう。

それはおそらく明治初めに出された「神社合祀令」なるものの所業である。南方熊楠はこれに猛反対し、柳田国男など有力者に依頼して政府に働きかけている。この当時、三重県の例では、現在942社に対し減少社は実に5647社にのぼる。伊勢神宮が巨き過ぎ

ると一定の地域に集中していることがわかる。つまり、宮城県最北部の志津川町に二例あり、しかも雄雌の夫婦との扱ひであるのは注目される。さらに山麓の村に「上保呂毛・下保呂毛」があることだ。

筆者は両山に登っているが、前者は林道があり、山頂に秋田の保呂羽山と同じ祭神の社殿がある。志津川町の小学校の遠足に利用されるらしい。上・下保呂毛集落の老人に聞いたが、いずれの方向からの問いに満足な答えは得られなかった。また、雌保呂羽山との関係についても、「そんな山は知らない」と全く無視されている。もう保呂羽山を祭祀する時代は終わっていたのである。

雌保呂羽山のほうはさらに土地の人々から忘れられ、取り付く島もない状況だった。

志津川町の狭い地域に濃密に残る保呂羽の神は、おそらく志津川湾から入り陸奥の内陸部へ入り込んだと思われ、点々と跡をたどることができる。まず

て野の小祠はいずれかの社庭の一角に集約合祀されてしまった。
今日現存する神社に無数の小祠が寄り集まっているのはその結果で、庶民に近い神は捨てられたのだ。

東北には「合祀令」は行き届かなかつたとみえて、社格の低い(中央からみて)小祠がたくさん残っている。しかも祭神の第一位にして、天照・イザナギ・イザナミ・八幡と中央大和の神が鎮座しているのは、まぎれもなく時の政権の干渉支配によるものだった。本来祭祀されるべき神は末席にあつてよほど注意しないと見逃してしまうほどだ。

保呂羽山の神も同類で、中央神の影にかくれて容易に姿を見せてくれない。たとえ民間信仰であっても原初の形跡を追うことでしか実態を知り得ないのはどの分野でも同じことだ。

「日本山名辞典」(三省堂)には四例の保呂羽山が出ていたので参考とした。

峠を越え藤沢町に入り、東山町から平泉を経て、秋田へと移動した可能性が高い。

藤沢町の保呂羽山は雄大な裾野をもつ立派な山で山頂に社殿がある。三角点は遠慮がちに設けてある。南山麓には保呂羽の地名や興味深い村落がたくさんあって注意すべき所である。

続いて東山町の場合は、平泉に近く北上川の支流砂鉄川の南方にある。弓折山と丈鏡山の西である。すぐ南に「内館」があり白米城があった。この付近は古城だらけで戦いの激しかった時代があったのだろう。

東山町の名は平泉からみて北上川の右岸一帯に連なる山脈を「東山」と見立てた証拠で、京都と同じく完全な風水思想によっている。しかもこの東山には「大文字」の送り火さえあるのだ。平泉はいかに上方文化が入っていたか思い知らされる。

東山町松川の保呂羽山は入口に急な石段がありやぶがあるが、1500程度で頂の社である。近くの人に聞いたが、

- 一 保呂羽山(453㍎)
岩手県藤沢町
- 二 保呂羽山(本吉山・男保呂羽山・372㍎)
宮城県志津川町
- 三 保呂羽山(女保呂羽山・1329㍎)
左同
- 四 保呂羽山(保呂波山・438㍎)
秋田県大森町
- 五 保呂羽山(2000㍎)
岩手県東山町

このうち一〜四が辞典に出ており、最後の東山町の山は筆者が現地でも偶然出合ったもので、極めて地方的なものだ。この例でみても、保呂羽山のような地方的な山は冒頭のように他に名を変え、また時代に埋もれてしまった可能性が高く、今となっては調査は困難だ。

五例の保呂羽山を地図上に並べてみ

現代では登る人がいないと言う。この保呂羽山も祭神を中央から受け入れている。

さて、保呂羽山で一番有名なものが秋田大森町の山だ。「日本山嶽志」など山岳書に出てくる唯一の山である。資料の多いのもこの山でインターネットでも検索できる。社伝に創建は757年大友吉親が大和金峰山より蔵王権現を勧請し、大伴氏の末裔の大友家が別当を務めた。秋田藩佐竹氏が三國社を定め崇敬されたとある。

祭神は予想通りとはいえず煩雑を極める。およそ20神あるなかで「金山里古」がそれらしくもあるが、農耕神の性格もある。注目すべきは「霜月神楽」が行なわれることで「湯立」の行事まで東海地方のものとそっくり同じだ。おそらく特定の職業集団が運んだものだろう。さらに修験の山らしく岩場をもち鎖場もあって、現在も登山する人が多い。

しかし、同じ保呂羽山を名乗るにし

ては、前の四例とは全く違う山容である。山名研究者が「ホロバ」とは崖地であると判断するのはこの山の特徴からで、他の山は神奈備形の美しい姿なのをどのように解釈すべきか迷うに違いない。

山頂にある社の「波字志別」も不祥で主神不明だ。おおよそ、20神が狭い社殿にアパート暮らしをしているようで気の毒だが、これが政治的配慮というものらしい。

山名由来として有力なものにアイヌ語説がある。それは「ポロイワ（幌岩）」という概念である。北海道に同名が多いがその意味は、直訳では「大きい岩」となるが、意訳では「立派な尊敬されるべき所」、つまり神の座する岩または山岳、ということらしい。それなら思い当たることがある。ポロイワ・モイワが北海道にたくさんある。これはアイヌが祭礼を行ったり、会議などをする場所に当たる。大切にされるべき場所でもある。

ていたのであろう。それが時代と共に開拓者の北上によって農耕勢力の支配を受けて「山の神」と「田の神」の習合が生じたとみたい。

柳田国男の「山島民譚集」の「馬蹄石」には「羽後ノ平鹿郡ノ保呂羽神社ハ、東北地方ニ於テ威力ノ最モ盛ナル山ノ神ノ一ツナリ」とあり、明確に保呂羽山を「山ノ神」と扱っている。それは明らかに東海地方で盛んな神事「湯立」や「神楽歌」によるところであって、この社が始め「山の神」であったことを示している。それが黒馬・白馬に乗って神が出現するとか、岩に駒の蹄の跡があるとかの説が流布し、雨乞いの習合を果すのである。

在来の神の上に新興の勢力が乗りかかることを許す形でかろうじて最初の神の生存が許されてきたことを示している。そのことは保呂羽山に限らず、他の諸神も同様の道をたどったのである。祭神が多数並んでいる場合の序列は、まず末席の神が消されてしまった神の存在に留意しなければならない。

おそらくその説は正しいかも知れない。祭神などは後から来た者が持ち込んだ概念でしかあり得ない。秋田の保呂羽山のように20神もの祭神があること自体不自然なのだ。外来の神ではあるが「金山毘古」が救いである気がする。なぜなら志津川湾に上陸したのち鉾山開発を通じて内陸へと移動した形跡を感じるからだ。

保呂羽山の座す所、鉾山あり、で関係は濃厚であるが、しばしば鉾山神は農耕神に変身する。

地名学者の通説はアイヌ語を避け、大和語説を採用するが、ホラの低地に對して、崖地のホロを最適としている。しかし前述したように保呂羽山の五例中崖地は秋田大森町の一山で、他は美しいスロープをもつ神奈備の山である。現地を見ないで決定されることに違和感をもつ。

地元秋田仙北町の郷土誌研究家の「ぬめひろし」氏の「地名譚」（秋田文芸出版社刊）には注目される記述がある。

その意味からすれば「保呂羽」という言葉の詮索自体はあまり重要でなくなってしまうかも知れない。

縄文人でもアイヌ人でもかまわないが、最初の信仰形態を想定できるなら、そこには金峰山も、農耕神も鉾山神もおらず、ただ自然のなかの目立った山があるのみであった。

社殿が無くとも古代人にとって十分な聖なる場所であり得たのである。

保呂羽山の地名説で有力とされる「崖地」説のような平板で奥行きのない地名説に同意するくらいなら、筆者はあえてアイヌ語説を支持したいのである。

る。

「雄勝、平鹿、仙北、由利の境界点を表現する地名説は、古代人の信仰が組織されて、この地域に広まった時期であり、大和政治支配が郡を置いた頃、保呂羽山の地名を漢字で表記し、山頂の祭神はもともと社殿が無かったの建てて、その名も旧来の神の名をそのまま波字志別としたにすぎない」と述べ、さらに「ハウシはアイヌ語のパウシ（頭）で、ベツは川、あるいは水であるから、ホロハ山は川頭と解され、水の水源として山は神聖視された。その広場が祭場となり、人々の中心的存在の山となり、各地域の境界となった」（以下略）とある通り、新たなアイヌ語説として説得力をもっている。

先に大和から金峰山の藤王権現が保呂羽山へ持ち込まれたことを述べたが、五例の保呂羽山はいずれも同一歩調で時代を生きてきたことがわかる。

原初、保呂羽山はアイヌ語説のように山自体が神体山で神聖な区界にあり、建造物が何もない犯し難い存在感をもつ

山の本紹介 1月発行

「芦生の森に会いに行く」

草川啓三編・青山舎刊
A5判・96ページ
定価1500円（+税）

芦生の本として著者の3作目。芦生の森を歩いて感じたままの姿で撮った写真と、残された記憶から生み出された言葉を重ねた、フォト&エッセイとして構成してみました。写真は、撮るために森を歩いたのではなく、普通に歩いた一日の山行から得たもので、そんな登山者からの視線を記録した森の姿から、芦生の森を歩く喜びや楽しさを感じていただければと思っています。

（問い合わせ）

〒525-0066
草津市矢橋町1475
草川啓三まで
(TEL) 077(562)3227

(里山シリーズ43 上夜久野)

県境の静かな尾根

湯舟山(小風呂) 小倉富士

一般コース(★★★)

長宗 清司

J R山陰本線福知山駅から西北へ三つ目、上夜久野駅の東踏切からスタートする。爪先上がりの道を登り切ったあたりから夜久野高原である。道の駅「農匠の郷やくの」はここを右折する。道をそのまま直進して国道9号線を横断し、中小倉集落に向かう。

やがて、左手に柱状節理の美しい「玄武岩公園」に着く。ここは京都府自然二〇〇選(地名、地質)。夜久野町指定。京都府内唯一の火山、宝山(田倉山)が三十数万年前に噴火した際の溶岩が冷え固まって出来た火成岩の一種(玄武岩)の公園である。ここでは、

柱状節理のほか、その上面の平行節理、溶岩流表面の発泡状態が観察できる。

先ず最初に登る小風呂(湯舟山)へは、この公園前の橋を渡って南下、奥小倉集落に向かう。集落の外れ左側にある公民館横から山裾をめぐる林道に入り、左折して谷奥に向かう(途中、獣除けの金網扉を開閉通過する)。

幅広い林道はゆるやかな上りで、何度か山際の蛇行を繰り返して、やがて二股に着く。コースは左の東谷に入るが、100mほどで袖道に変わる。

勾配が厳しくなるあたりから道は雪や雨で流れ途絶えて直登を強いられるが、我慢して大岩の脇をすり抜けたり灌木帯をくぐると、尾根に出る。

湯舟山(小風呂)の三角点標石は松の木の下にあり、容易に確認できる。

この山頂は、名前が二つ(兵庫県湯舟山、京都府小風呂)ある(どうやら兵庫県側からだらとR427号線、遠阪峠からひと登りで到達できるから、京都側は裏からの上りで急峻なことが理解できる)。小倉富士へは、この兵庫・京都の府

途中にある「玄武岩公園」



県境の尾根を西から北へとぬう。尾根両側の足元には、古びた獣除けネットがからまり、ロープ状につながっている。脇道を見逃し、ひたすらこのネットロープに誘導される形で、杉林中や灌木帯の尾根を忠実に歩く。数回の起伏の繰り返し後、一段高いピークに小倉富士の金属製プレートを確認する。



林道分岐から東谷に入る

下山は、府県境を少し歩き、途中から急勾配の広い谷筋を下りる。ここでも、ネットロープを見つけ、標高差50mほどはロープワークに利用する。地図に無い林道に下り立ち、小倉集落に出る。

一元来、「ふるさとの富士」は、標高の高低に関係なく、円錐形の美しい姿から地元住民が憧れと敬愛の念で名付ける。地質は岩盤で急峻な山が多い。登山に適した山かどうかは、現地に出かけてみないとわからない!



湯舟山(小風呂)・小倉富士付近略図

▲コースタイム▼

尾根歩きを終えて、下山後、最寄りの駅に向かう道すがら、道の駅「農匠の郷やくの」の一角、夜久野温泉「ほっこり館」で汗を流すのも一興である。展望大浴場から望む山並の前山がぐっと目前に迫る。この美しい姿の山が「小倉富士」だとわかって、地元の人には馴染が薄いとみえて、山名を尋ねても「知らない」と答えが返ってきた。(平成19年7月22日歩く)

上夜久野駅(30分) 玄武岩公園(1時間) 林道東谷終点(45分) 湯舟山(2時間20分) 小倉富士(1時間) 小倉集落(20分) 道の駅「農匠の郷やくの」・夜久野温泉「ほっこり館」(15分) 上夜久野駅

△地形図V2万5千直見・矢名瀬(問い合わせ先)

福知山市役所

☎0773(22)6111

夜久野町観光協会 郷やくのふる里公社 ☎0773(38)9800

イバラ道を行く

烏ノ崎屋山から龍門岳へ

中級コース (★★★)

磯部 純

龍門岳へは、これまで平成6年と平成12年(辰年)の二回登っているが、いずれも昔羽三山からの縦走で、東から登ったことはない。前回登った時はどこまで歩いて自然林に出会うことのない杉林の連続で、いささかウザリしたことを覚えていたので、そんな尾根を歩くのでは龍門岳へ参加するのを止めようかと思っただが、今回登ることになった「烏ノ崎屋山」という変わった名前の山に魅せられて、2ヶ月連続して西上さんの例会へ参加することにした。

春の天気は猫の目のように変わりや



烏ノ崎山・龍門岳付近略図

へ入り、峠を越してくだると左の斜面に社が二つ祀られている谷へ下りた。ここが幻想的な名前の「恋の谷」と呼ばれている。「恋の谷」は盆地のような地形になっていて、峠越えをしなくては来れないので、「越の谷」から転訛して「恋の谷」になったのではないかと、故仲西政一郎氏が言っていたと聞いているが、いつも見ている風景

と何ら変わらない谷であるものの、「恋の谷」のほうが夢があつてよい響きに思える。

ここから谷に沿って幅3メートル程度の道を北西に登る。廃屋を過ぎると、前方の谷間に送電鉄塔が見えるが、その先、道は細くなり右手の谷へと入っていく。どうやらこの道は林業道らしく、滑らないようにとコンクリート打ちされている。谷のどん詰まりまで登ると道は左へ曲がり、その先の送電線が曲がった所にある鉄塔で休憩となる。わずか20分程度の登りだったが、汗が吹きだしてきて雨の心配も無くなり、皆も雨具を外していた。道はさらに上までのびていて、谷と合った所から道と分かれて谷脇に登る。左は伐採斜面で、足元には花の咲いたフキノトウが顔を見せている。そんなフキノトウを普通なら採らないのだが、物好きな何人かは大事そうに摘んでいた。

植林斜面のフェンスの下から右手の尾根へ登り、フェンスに沿って登る。斜面は急で、一步一步踏みしめて登ら

ないし滑りそうな斜面だった。登る道跡の右手のやぶは、ほとんどが背丈程のイバラで、それをつかんで登ることはできない。ユックリと足を運び、時折息つきに辺りを見渡すと、アチコチにまだ芽を出していないタラの木。山行がもう1ヶ月遅かったらと、何か損をしたような気にさえる。斜面の道脇には何本かのダンコウバイが花を開き、足元にはタチツボスミレの花が点々と続いている。

急坂をフウフウ言つて30分も登ると烏ノ崎屋山に着く。杉林に囲まれた展望の無い山頂だ。広場には梵字が刻まれた石塔が立っていると聞いていたが、あまりのしんどさに、まずは三角点と先と写真を撮りに行くが、それを見ているうちに、いつの間にか石塔は頭から消え去ってしまった。どんなものかも見ていない。最近は何かに気をとられると、すぐそれまでのことを忘れてしまう。困ったものである。

三角点は広場の西端の方に立っている。標高569・3メートル、点名は南の麓



烏ノ崎屋山 (古ぼけた山名板)

だが、この日は雨がパラツいているうえ、霧に隠され何も見えない。そのうちに登山口の千本橋へ着く。9時55分の到着だった。

人員を点呼して、10時に出発する。天気予報は曇りだったが、少しの雨が気になり、ほとんどの人が雨具に身を包んでいる。薄暗い杉木立の林道を西

の集落の名からとった「柳」である。標石は北向きで、北から西へ20度振って居る。烏ノ崎屋山という名前は、古くは烏宿山（からすのとやま）と書いたと言われているが、神武天皇東征の八咫鳥伝説がこの山にあるので、これから付けられたとも言われている。一方、山名からみると、昔はこの山に烏が多かったのかも知れない。

山頂から北西へくだる。杉の林の急斜面で、列の後を歩くほど踏跡が削られて滑りやすい。鞍部へくだってからは薄い道跡の尾根歩き。あまり人が歩いていないのか、整備されておらずに倒木が道跡の至る所で塞いでいる。それを跨いだり潜ったり、廻り込んだりの歩きは障害物競争をしているようである。足への負担は予想以上に大きい。そのうえ、道跡の両側には一面とってよいほどイバラが生い茂っている。これを事前に聞いていたら、もっと厚い手袋を持ってきたのに、軍手では何の役にも立たない。気がつくと、手首から何ヶ所も血が流れだしていた。左手高

くに黒色に霞む龍門岳の姿を見ながら尾根を歩き、小さなピークを三つ越えたと送電線鉄塔。鉄塔下の広場で昼食となった。食べている間中ずうっと、喧しいほどにヤマガラの鳴声が響き渡っていた。

30分の昼食で出発となる。西上氏の例会の昼食時間は他の人の例会と違って、食べた後飲んだりすることを楽しんで、ほとんどアルコールを飲むことにはない。それを知っていたので、いつも昼食時に嗜んでいるアレは、この後キツイ登りがあることもあり止めにし、長兄にいただいたウイスキーをほんの少々嘗めただけで握り飯にかぶりつく。ただ、昼食時にカップ麺を食べるつもりで多量の湯を担いだのに、カップ麺を忘れてきたのだけは、大誤算だった。

12時45分に出発する。歩き出して10分も登ると、4等三角点のある標高673・3mのピークへ着く。この時、参加者の中で、この山の名前が中龍門

岳かどうかでモメていたが、帰ってから調べると、4等三角点は点名「中龍門」。従って、この山が中龍門と呼ばれるピークと言ってもよいだろう。この先、道跡はこれまでよりシッカリしてきて、イバラや倒木も少なくなってくる。左前方の龍門岳の姿が大きくなってきて、尾根から谷頭をトラバースして、北西から南へ方向を変えた尾根へると陽が顔を出し、北方には黒々と音羽三山が見えている。ここから龍門岳山頂までは、標高差300m、残り1・5km程だったが、急登につぐ急登が続く。林の間から左上方高くに龍門岳の頂が見えているが、なかなか近づいてこない。こちらはフウフウ言っている登りだったが、私より年長の2人や女の方はボヤクこともなく、黙々とリーダーの後について登っている。最後のサブが「今日はユックリ歩いてくれているのを聞くと、ますます落ち込んでしまえそう。やっこのことで急坂を這い上がると、三津峠からの道と柳へ

くだる道分岐へ登り着いた。龍門岳山頂まで登りはわずかで、あと200mの距離だった。

龍門岳山頂は、昔、松永弾正ゆかりの城塞があったというだけに平坦な山頂で、南端の広場には古びた社が建っている。岳の明神と呼ばれる高皇産靈神を祀る祠であるが、中を覗いてみたが何も入っていない。

祠の前の広場にはきれいな三角点が埋められている。標高904・3mで、点名も「龍門岳」。標石は地表から5m程出ているだけだが、真新しく彫られた字体は細字で、1等の字は左から右書き。シッカリと磁石の南を向いている。

この山頂で15分の休憩をとり、集合写真を撮った後、西南の山口神社への道を下る。以前にハッキリと見えていた南の田尻へくだる地形図の破線路は草に覆われ定かでない。今回山口神社へくだる道は、地形図の西谷へくだる破線路の一つ南の尾根道で、地形図には載っていない。西南へくだり、下

の尾根にのるとすぐ、左の急斜面へ向かってくだり、急勾配の細い尾根にのっている。道脇にはアチコチにエビネが芽吹いていた。くだるに従い次第に尾根が狭くなり勾配も急になってくるが、尾根が谷の合流点に落ち込んでしまう前に左手の谷へくだると、そこに道標が立っている。ここから谷に沿って上流へとのびている道跡を登ると、山頂から南の田尻へくだる破線の道に出ると言う。

谷沿いをくだり堰堤を越え、左岸から右岸へ渡ると、水は左下に流れ落ちる。奥ノ滝と呼ばれている滝で、道からは見えにくい。下へ降りて見るとかなり落差のある滝らしい。斜面に切られたしっかりした道をくだって行くと、次第に道幅が広くなり、平坦な杉林へくだる。林のなかを行くと、谷を右岸に渡る右手上に平安時代に築かれたという龍門寺跡がある。この辺りで、珍しくも白いショウジョウバカマの花を見た。その下流には龍門滝があり、この滝は1688年に芭蕉が「酒呑み

に語らんかかる流の花」「龍門の滝花や上戸の土産にせん」と吟じたことと知られる滝で、龍門岳からくだってきた人は必ずといってよいほどこの滝を眺めて帰るという。その先、石垣に咲き初めているピンクのショウジョウバカマの蕾を見ながらくだると、バスが待っていた。

着替えを済ませ、15時55分の出発。帰りは来た時のルートではなく、談山神社から桜井へと抜けた。車中、それまで我慢していたアルコールを大久保の長兄と分かち飲んでいる間に、榎原神宮前駅へ着く。京都組の10人は、16時55分発の急行で帰った。

(平成18年3月17日歩く)

△コースタイム▽

千本橋(15分)恋の谷(1時間)烏ノ崎屋山(1時間15分)中龍門(1時間15分)龍門岳(1時間)龍門滝(20分)山口神社

△地形図▽2万5千〃古市場・新子

静寂に包まれた霊山と歴史の道

霊仙ヶ岳と法貴谷

一般コース(★★)

柴田 昭彦

霊仙と聞いて、すぐに思い浮かべる有名な山は、鈴鹿山脈の最北端に位置する霊仙山(滋賀県多賀町)であり、ガイド記事も多い。

これに対して、霊仙ヶ岳(京都府亀岡市)のガイドは、『京滋百山 三角点を行く 上』『京都丹波の山(上)』『京都府の三角点峰』の三冊ぐらいで、インターネットでも数件しか見当たらず、ほとんど紹介されていない。

霊仙ヶ岳の東嶽には、「法貴谷ハイキングコース」があり、光秀ゆかりの「明智戻り岩」で知られている。今回、霊仙ヶ岳に登ったあと、法貴谷ハイキ

ングコースを往復する、静寂に包まれた道を紹介しよう。

JR京都駅から亀岡・園部方面行きの列車に乗りして、亀岡駅で降りる。改札を出て、右(西)へ行くと、京阪京都交通のバス乗り場がある。1番乗り場で、60系統、穴太寺線、11時18分発の京都学園大学行きのバスに乗る。乗車10分で終点に着く。接続している神地行きの亀岡市ふるさとバス西別院線に乗り換える(11時33分発)。5分乗車して法貴口バス停で降りる。乗り継ぎのできる適当な時間帯のバスは他にはない。学園大学から登山口まで40分ぐらい歩くつもりなら、亀岡駅前発、学園大学行きのバス便(1時間に3便ぐらい)を利用することもできる。

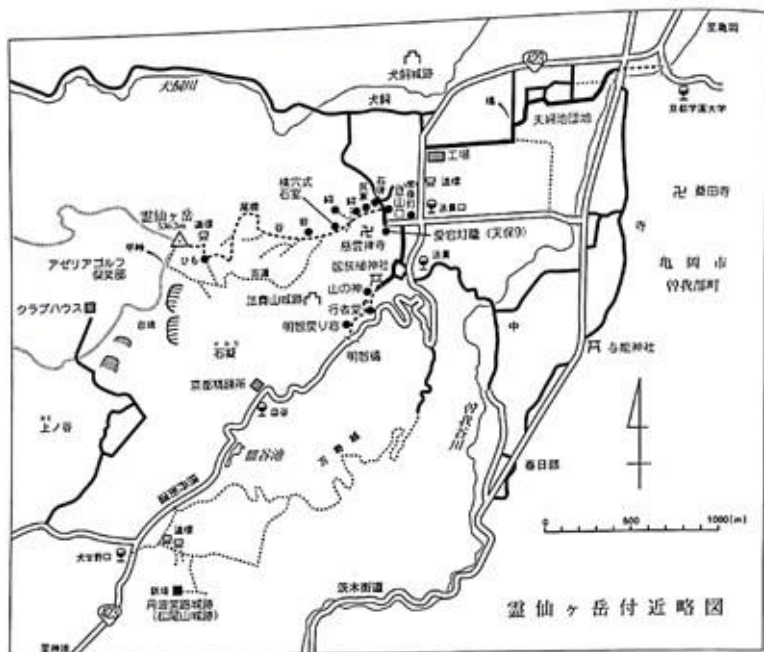
バス停からは西に霊仙ヶ岳が大きく見えている。横断歩道を渡ってすぐ右手の民家に常夜灯がある。道が右(北)に折れる地点で、左に愛宕灯籠が見える。まっすぐ進むと慈雲禅寺である。禅寺から戻り、灯籠を背にして北に進む。地名と同じ法貴姓の家が目につく。

方位標石と3等三角点(霊仙ヶ岳山頂)



右手の登山口の道標に従い、左に入る。最後の民家を過ぎて、草深い道に入る。民家から30分地点で右を見ると奥に祠と灯籠がある。

草深い道はすぐに、しっかりした道になる。静寂に包まれた道で、あたりは薄暗い。右の竹林付近一帯は小円墳が密集する法貴古墳群で、51基が確認



霊仙ヶ岳付近略図



横穴式石室(法貴古墳群)

弱の岩が10分間隔で二つ続く地点があり、右手の奥に目をこらすと、杉・檜林のなかに低木が見える。二つ目の岩の横の踏跡を20分ほどたどると、天井石のある横穴式石室が見つかる。

登山道は、蜘蛛の巣が多い箇所がある。石室への入口地点から100分ぐらい歩くと、最初の分岐点である。ピンクと黄色のテープが右を案内している。左は平峰に通じていた古道で、木橋を渡れば前方左寄りに、深く掘れた道が続いている。利用が途絶えて久しい。倒木も多く、平峰の手前では踏跡が不明瞭になっていて迷

やすい。

赤松滋「京都西山」(昭文社、2002年以前の旧版)の地図と小冊子のガイド、赤松滋・足立義郎「北摂・京都西山」(2003年以降の新版)の地図では、この廃道寸前の古道を登山コースとして紹介している。

平峠への古道は、2万分の1地形図「法貴」(明治42年測図)および2万5千分の1地形図「法貴」(大正11年測図)昭和43年改測)に記載されていたが、2万5千分の1地形図「法貴」(昭和54年第2回改測)以降は消されてしまい、かわりに、古道の西隣の谷に道が記入されて現在に至っている。

最初の分岐点でテープに従って右に進む。両側に石室跡がある。石が多くて歩きにくい道が続く。右側に苔のある岩壁が見えると、ほどなく、二つ目の分岐点に着く。ここで左をとると沢を渡って、現在の地形図にある破線の道に入るが、谷筋の踏跡は消えてしまふ。この分岐もテープに従い、右をと

谷沿いの道は傾斜を増し、谷が右側に現れてくると、三つ目の分岐点に着く。左の道はすぐに急登となり、行き止まりになるので、この分岐もテープに従い、右をとる。

道は右に曲がり、尾根道に出る。やがて、四つ目の分岐点に着く。右は明瞭な山道だが、やがて落石が多く危険な場所になってしまふ。ここはテープに従い、左側の道に入る。無理につくったトラバース道のようで、狭くて足下も悪いので注意が必要だ。尾根に出ると、途中で境界標石が現れる。

ひも(下りで道に迷わないための目印)が張ってある場所を経て、「平峠、山頂へ」という古い道標の地点に出る。ここから山頂へはいったんくだつてから登る。右手が開けてくると、三角点標石と方位標石のある山頂に着く。

展望の開ける東北側には、牛松山とその背後の愛宕山、左に千年山連峰(北端は三郎ヶ岳)が見える。手前には、左に丁塚山から朝日山、右に竜ヶ尾山がのびている。北側と南側に通行禁止

の看板があり、ゴルフ場造成中に設置されたままになっている。荒地であった西側緩斜面に造成されて、1989年11月6日に開場した「にのうみゴルフ倶楽部かめおかコース」は、1998年に経営交代で「京都アゼリアゴルフ倶楽部」となり、2002年には「アゼリアゴルフ倶楽部」となった。

南側の看板の背後から右寄りに進むとゴルフ場に出てしまふ。左寄りに斜面をくだつて行くと、平峠に続く谷間に出る。しかし、平峠そのものは、ゴルフ場の造成で消滅している。谷間の旧道は廃道で、不明瞭であり、地形図でルートの読める人にしかすすめられない。

ここは、山頂から元の道を引き返すのが無難であろう。登山口の道標までくだつたら、少しだけ寄り道して行こう。左(北)に出てすぐ左側に、亀岡ライオンズクラブが2003年10月に設置した石碑が立っている。その略図には片道約1時間とある。内容は次の通りである。霊仙は、仙人の住む雲山



(北村龍象『丹波誌』巻により)



明智戻り岩の説明板(京都府観光連盟)

でもあった。

「霊仙ヶ岳案内 石群」といふるされた岩山のある高峰。霊仙は、急峻な山容に、祖霊か、はたまた仙人のすまうところかと、想像した先人の名付けし山名か。山腹には大小数多の古墳が点在している。」

「石群」とは、霊仙ヶ岳山頂の南方に見られる露岩(花崗岩)が群出してゐる地帯をいう。かつて、山中各所に採掘所があったが、現在では廃鉱となっている。赤松滋「京都西山」や横田和雄「京都府の三角点峰」では、「石群」と表記して、その場所を平峠の南西側、岩崖の取り巻く頂上台地としている。

一方、2万分の1地形図「法貴」(明治42年測図)を見ると、平峠の南東500m付近の山麓部の露岩地帯に「石凝」と記載され、頂上台地は荒地地となっている。その後の地形図では「石凝」の地名は消えてしまふ。

明治・大正期の教育者、北村龍象が、丹波一円の調査結果をまとめた『丹波誌』(大正13年自序)の巻二(南桑

田郡 上巻)には、明治初めの「石凝」の絵と、その解説がある。「石群」と「石郡」は誤字なのだろう。

石碑から南へ戻り、灯籠の所からバス停への道を半ばで右に折れる。南に進み、突き当たりを右折して、法貴谷道(狹丹街道)に入る。昭和31年建設の砂防堰堤を過ぎると、右に國狭極神社(八王子社)がある。左隣にある石の祠は山の神で、以前奥にあった石山で働く職人が安全のために詣っていたという。

法貴谷は滝や巨岩怪石が連続し、断崖をなしている。崖や危険な山道を表す地形語である「ホウキ」地名(歩危も同じ)にふさわしい。やがて堰堤が行く手を遮る。右側に門柱があり、上に巨岩がそそり立っている。巨岩の上部の岩窟には石像(後行者と前鬼後鬼)を祀った祠(行者堂)が収まっている。この巨岩が天狗岩であらう。駒栗石の場所は、郷土史家、永光尚氏でも未確認のことだ。巨岩から上には行けないので、20分



法華岩（享徳三年銘の題目が刻まれている）
（説明板は上へ30%の屏風岩に対するもの）

ほど手前で捲き道をたどる。道は祠の背後に続いていく。再び谷に出る。傍らに「道敷界」と刻んだ石標があり、その横に小さな地藏磨崖仏を刻んだ岩がある。谷には巨岩が続く。道は倒木で荒れているが、そこを越えると、右側に傾斜した巨岩が現れる。

この巨岩の前には「明智の戻り岩

（一名屏風岩）」と題した説明板が立てかけてある。しかし、この傾斜した巨岩の中央下部には、「南無妙法蓮華経南無法主日蓮大聖人」と浅く刻まれた、享徳三年（1454）銘の題目があることから、「法華岩」と呼ばれている（浜田謙次「亀岡市の題目磨崖仏」、「史迹と美術」664号、平成8年5月）。

法華岩から30%ほど進むと、山道に大きく迫りだした、屏風を立てたような巨岩がある。これが「屏風岩」である。明智光秀が丹波攻略（天正五十七年、1577）に際して、この岩の立地を利用した敵軍（宍路城主、長沢家綱の軍勢）によって道を塞がれて攻め切れず、兵を返したことを「明智戻り」といい、この岩を「明智戻り岩」と呼ぶ（丹波宍路城発掘調査報告「昭和53年、133頁。『新修亀岡市史 資料編第四巻』平成8年、762頁）。従って、法華岩の傍らにある説明板は、この屏風岩を解説したものであった。

屏風岩の右側には「南無妙法蓮華経 日蓮大菩薩」と刻んだ、文化二年

（1805）銘の題目があるために、この部分が「法華岩」なのだろうと誤解する人がいるので注意。

現地の説明板二枚には、明智戻りを本能寺の変の前日とする俗説が載せられているが、郷土資料では裏付けがとれない内容である。

屏風岩から少し進むと国道に出る。そこに架かるのが明智橋である。我々もここで引き返すことにしよう。法貴口バス停では17時15分まで待つことになるので、国道を北に歩き、工場の北側から夫婦池団地を経て、曾我谷川の北堤を通り、学園大学バス停まで歩く。（平成19年10月7日・13日・28日歩く）

▲コースタイム▼
法貴口バス停（1時間15分）雲仙ヶ岳（1時間）登山口（25分）明智橋（1時間）学園大学バス停
△地形図▽2万5千法貴

せせらび

題字・小林玻璃三

9月16日、青空フリーバスを初体験。JRで中津川まで行った。馬籠宿で五平餅やそばの昼食をとった後、馬籠峠を越えて妻籠宿まで約9kmを歩く。峠から長野側にくる折、雨が降り出したが、妻籠に着く頃には止んでいた。

新築の金団目当ての女性？人は、店で早速土産を買い込んでいた。

- ・秋雨に濡れし唇 釣舟の紅
- つややかに われを引き留む
- ・仙翁は紅鮭の色 手折られず
- 旅ゆくひとのよろこびとなる
- ・雨に立つ楳の古樹も木曾五木
- 風格増せる よわい三首

- ・門毎に花植えてあり 宿場町
- ひとときわ映えし 鬼灯の朱
- ・畦道に蓼内傘を咲き連らね

妻籠の秋は、今さかりなり

10月6日、今度は近鉄特急で京都を訪れた。銀閣寺北から大文字火床を経て三角点まで往復した。

山頂も良かったが、想像していた通り、火床からの展望はまさに任せだった。家内が銀閣も見たが、下山後立ち寄り、美しい庭を堪能してきた。これもひとえに美を生み出し、伝え守り続けてこられた方々のお陰である。砂の造形や苔庭を、今もどのように保守してみえるのか、興味深い思いを胸に、古

都を後にした。
（松阪市 森木伸人）

11月中旬、京都の五山送り火の大文字山（466m）へ家内を同行して登った。地下鉄蹴上駅から「天の岩戸」や内宮・外宮のある日向大神宮の参詣をすませ、「七福思案処」や大文字四つ辻を経由し、京都一周トレイル東山コースを利用して登った。考えてみると、これが三回目の登頂になった。

一回目は古く昭和51年8月のことであり、幼い子供達を連れ一家4人で、銀閣寺横から「大」の字、即ち火床を経由して登り、山頂の三角点を確認して後、池の地蔵へくっかっている。

二回目は平成11年7月であり、単独で山科から頂上へ登ったが、下りは今回同様、京都一周トレイルをたどり、彼寛僧都で有名な橋門の滝経由で龍巖寺へくっかっていた。この時の目的は、原子力モニターとしていろいろな場所、例えば大文字山の山頂や火床で放射線を測定すること

にあった。そのため頂上から火床へも往復したが、標高差136mの上り下りにはかなり辛い思いをしたと記憶する。

今回は四つ辻から頂上の間で下山してくる幼稚園児の団体とすれ違ったが、引率の先生によれば、山科から登り、火床へ往復してきたと言っており、ほう！とそのすこさきびつくりし、感嘆したのだった。

一回目の時、頂上は狭い感じで失望したことしか記憶していないが、二回目は南西部に展望が開けていて好感をもったようである。そして今回は西方から南東にかけて大きく展望が開けていてすばらしく、登った甲斐があったといえる。しかし、高齢者の私にとって、標高差406m（途中の上りを含めれば累積で500m以上）の上りは厳しく、かなりの努力を要したことを付記しておきたい。

（枚方市 東谷 宏）

12月初頭、まだ秋が残っていた。地図上で、事前に無銘・3

等・2等の山をなぞってから、四日市の郊外、近鉄川島駅に降り立った。

取り付いた鹿化川は、岸辺のモミジとツワブキが真っ盛り。そして有名な千本桜は、すでに枯木立の風情。延々と続く桜並木を上流に向かって歩く。信号の先で川は分岐し、左股をとる。別所谷からは、矢印が要所に立ち、茶畑を急登。第一目標の山は、その頂にあった。大門山という。無銘、しかし無名ではなかった。仮設の櫓に登れば、西と北の眺望が期待でき、標高は91・2メートルの立札がその脇に。

北西の乱飛(鹿化川右股)に下山。なおも千本桜がここまで続き、驚き入る。川端を渡る。乱飛西の外れから北に転じ、一気に駆け上がる。尾根道を東へ。里沙門さんや母子観音像が建つ第二目標の山、一生吹山である。その一隅に三角点の標石があり、保護石も完備。「三等三角点」と記す白杭には、「智積村」とある。点名の意か。標高109・6メートル、全山真紅に染まっている。

地形図2万5千1四日市西部に、二点ある2等三角点(一点は本誌96号に所載)の一つは、桜村という点名で標高130・2メートル。確かめたくて本日やってきました。その第三目標を指し、尾根をひたすら西へ。やがて県道753号に出る。地図を読めば、等高線130メートルのループ内に点の標石はあるはずなのに、なぜか発見できず不明。里山は消えて煙と化したか。時間も無く断念。智積養水は素通りして、近鉄桜井駅へと向かった。(伊賀市 高田栄久)

「心やすまる富士見山行」
年末12月の3日間は「夢見山行」が過ぎました。働く主婦にとって1年に数回の「泊まり登山」を満喫でき、満足度200%を味わいました。念願であった御坂山塊の縦登が実現できたのです。

富士山を愛でながらのぜいたくな登山は、心も体も安心して山に預けられるすばらしい体験でした。

文化洞トンネルを通り毛無山から十二ヶ岳へは、鎖・ロープ・はしご・吊り橋が楽しめ、山行はスリル満点で、アルペンムードあふれるものです。

十二ヶ岳からの西湖と富士山の展望は「鋭峰」の名に恥じないものでした。
金山を過ぎ、三角錐の節刀ヶ岳の頂上前の展望は、先に登ったギザギザの十二ヶ岳の上に富士山が望め、王岳、鬼ヶ岳、黒岳と「絵巻物の世界」です。
王岳は、民宿の人の話では昭和41年の山梨県直撃の台風で中腹の土石流が麓の集落を西湖に押し流したとか。犠牲者の慰霊碑が民宿村に静けさをただよわせていました。

翌朝の三方分山からの展望は、「百聞は一見にしかず」で、富士山の全景が眼前に迫り、「改めて富士山に登らせていただく」との気持ちになれるほどの圧巻でした。精進峠への尾根道では、メギ・コトリトラマズの赤い実に再会を約束して下山することでした。

企画してくださったリーダーと仲間感謝いっぱいです。
(神戸市 前田喜久子)

12月15日、新ハイ会員の中澤さんと鈴鹿の雲母峰(888・4メートル)に登りました。西高東低の冬型の気圧配置で早朝は快晴。御在所・鎌ヶ岳は一面真っ白、冬の華で装われていました。こういう時の山メシは蒸込みうどんに限ります。
コースは往きは雲母橋からの独標尾根道と名付けられた、植林から二次林へと向かう雲母の代表コース。折しも尾根上の急登を登る頃、翼状の雪がチラチラ、冷い風も吹き上げてきます。西側に鎌ヶ岳が見えてきます。は吹きさらさら。アセビなど灌木の茂る本峰は幸い風が無い。早速、ダウンの防寒着、ネックウォーマー、ウールの帽子で身を包み、コンロを取り出す。うどんの後は雑炊。中澤さんは先頃売り出されたおでんの缶詰を温める。2人だけの忘年会。
下りは第二峰から南に廻り込

んだ小林新道をとる。急な尾根斜面をくだり、鈴鹿特有のやせ尾根を赤テープを頼りに東海自然歩道へとくだって行く。2人で「アッチ」「コッチ」と叫びながら下りてきました。
自分で計画し、問題をクリアする喜びを味わった山行でした。(津市 森 美香子)

能勢の釈迦ヶ嶽・512メートルから小和田山三等倉垣②611・7メートルを経て七面山四等豆拍511・5メートルを馬蹄形に歩いた時だった。もう時効が成立しているのので告白する。
山行中、走獣避けネットにオスシカが角を絡め逃げられないのを見ることがある。人が近付くとことさら暴れます。飢えと渴えと極度の恐怖で目は充血し、口角に白い泡を吹いていることもある。

近付くと、こちらが獣飛ばされた角で突かれる可能性もあるので大抵はその場を立ち去る。人は農作物や植林をシカの害から守るためネットを張る。

この日のコース中のどこだったか、シカが植林帯と自然林の間に張った朽ちたネットに引っ掛かっていた。
角の分れ方から5歳だの小型だったので助けられると思った。近付くと可哀相に目を歪め必死に前後左右に暴れまわると。ネットをナイフで切ると、運よく入っているはずの針金が入っていない。右角のネットが切れると、不思議なことにはシカは助けられるとわかったのだろうか。静かになった。今度は同行者が左を切り裂いたら、シカは一目散に逃げていった。

シカに良いことをしたのか人に悪いことをしたのか?
(向日市 湯浅康夫)

富山県中央南部に赤祖父山・祖父岳・夫婦山がある。私は孫から見れば祖父であり、酒を呑めば赤祖父になる。赤祖父が夫婦山に登って何が悪いと、この三山に登ってきた。
赤祖父山道から急坂を落ち葉に滑りながら登ると、鯨の背の

ような大きな主稜線に飛び出す。稜線は見事な純ブナ林。扇山を越え、葉を落とした明るいブナ林を行くと赤祖父山頂。
三角点も無く展望も無い。木札の山名板が枝にぶら下がる静かな所だ。主稜線から分かれて200メートルほど行くと、船の舳先のようになった展望峰に出て一気に展望が開いた。東には真っ白な立山連峰、南には高清水山が大きく見える。この稜線は高清水山を越え、猿山、大笠山、三方岩岳など数々の峰を越えて白山北縦走路につながり、北へは大寺山、八乙女山を越えて砺波平野に没している。まさに長大な山脈なのだ。白山は独立峰か連峰なのかと議論のなされるゆえんである。

展望峰に立って眺めていると、ここを歩いて白山まで繋げるのが来年の課題かな、とも思えてくるのだ。(熊谷市 山形 明)

山行短歌
10月24日 南紀黒嶽
乙女の寝顔と対峙するように

荒くれ者の実る顔を見せ
10月29日 紀東雨山
雲を串いて露岩の尾根を飛ば
その瞬間は皇帝の振る舞いで
11月3日 越前銀杏峰
ロープにすがり登れば友が笑む
紅葉前線移りゆく尾根で
11月7日 南紀半作嶺
やがて秋冬に変わる岩峰のそは
電燈咲くは化粧をする乙女
11月14日 丹沢塔ノ岳
大倉尾根の長い道い道のり
あこがれを呼ぶ御塔へのぼれ
11月14日 丹沢丹沢山
一等三角点と富士山の眺め
わがものにして涙さへ浮かぶ
11月14日 丹沢姫ヶ岳
丹沢主脈に大空より星が群れ
生き継ぐ勇氣あたえるものよ
11月15日 丹沢短歌
カラマツ林の黄葉散り急がずに
そのまま僕が通り過ぎるまで
11月15日 丹沢有焼山
シラカバの頂にいとしさは霧り
立ち去りかねつ北丹沢の秋
11月29日 伯耆三徳山
どこまでも岩稜つづく道行けば
御堂にであう天上の世界

御堂にであう天上の世界

SHCサービスチェーン



どこへ行こうか
新ハイキングクラブ(SHC)
サービスチェーン

サービスチェーンには右のような
看板が掲げてあります。

新ハイキングクラブに協力してくださる宿やバス・タクシー
会社です。自然を大切に、ハイカーを仲間として歓迎して
くれます。時間と体力と気持ちに余裕を持てば、安全な山行
につながります。ぜひご利用ください。

ほとんどのチェーンがホームページをもっていて、新ハイの
ホームページからたどれば大体の様子を簡単に見ることがで
きます。
ご利用の際はそれぞれの宿のホームページの予約欄か、電話
または往復はがきで必ず予約してください。予約のときに、
料金を確認してください。

利用するときは、新ハイキングクラブの会員証を持参してく
ださい。

妖精の森 コテージララウル
1泊2食付き6,300円
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
<http://www5.et.kline.jp/masugi/>

花の百名山 秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

(吹田市 木村太郎)
10月6日、三度目の挑戦で神
岡の六谷山へ行き、岐阜の1等
20山が終わった。
7日は赤谷山へ行き、鶴の北
西面を間近に見た。
13日、例会で妙法山・野谷荘
司山・三方岩岳に行く。まずま
ずの紅葉と展望があった。
14日は三方崩山へ。曇りだっ
たが展望と紅葉もまずまずで、
山葡萄が美味しかった。
21日は野谷荘司山へ下から歩
いて行くが、山頂付近はわずかに
冠雪。白山もアルプスも真っ
白。紅葉も先週よりよく絶品の
風景だった。
28日は来週の下見で滝波山に
行く。下から歩いて5時間、帰
りは3時間半かかった。紅葉は
盛りで快晴。残雪期では見られ
ない三角点に触ってきたが、思っ
たよりやぶがきつかった。
11月3日、例会で珍名の「ゴ
ンニャク」に行った。紅葉がき
れいだった。
4日、再び滝波山へ例会本番

で行く。林道を車で入り、3時
間短縮できた。
10日は冠山に行くが、山頂全
部は見られなかった。谷の紅葉
はきれいだった。若丸山へも尾
根伝いで行けそうに挑戦しよう。
千回沢山へは東の尾根から道を
切り開かないと行けそうにない
が、挑戦したい。
11日は鳥帽子山に行くもやぶ
がきつく、雨も降ってきたので
900円で撤退した。別ルート
で挑戦したい。
18日は岐阜市の舟伏山と岐阜
市最高点の百ヶヶ峰へ行った。
冬型天気で小雨が降っていたが、
けっこう見晴らし良かった。
23日は高島氏の上谷山例会に
参加。途中で引き返した。
24日は行きにくい奥美濃の山
洞の天井に川浦谷から行った。
尾根には鉄塔巡視路があって、
工事用道路まで繋がっていたが
とてもきつい登りだった。
(海津市 山田明男)

野洲町の国道8号線大森原の
南に光善寺川があり、左岸林道
を進むとゲートの先で二俣にな
る。左の岩倉林道を行くと右に
森業校の広場と東屋がある。こ
の林道は出来たばかりで、山腹
を東へ城山の下まで続く。
鏡山(385m)は古代から
の名山で、万葉のロマンを今も
かきたてている。伝承によると、
渡来した新羅の王子アミノヒボ
コが、新羅から持ってきた八つ
の宝物のうちから、鏡を山中に
埋めたこと由来する。鏡山か
ら西にのびる尾根は、立石山
(282m)から岩倉城、古城
山、桜本池、桜本坊、251、
そして城山(286m)と続く。
私はこの山城が気に入って、ル
ートを変えて楽しんでる。
森業校前から左の林道に登る
と広場があり、左下の谷から
「ややうみ坂」の谷道と尾根道
がある。尾根道は送電線の巡視
路で、途中で右左に分かれるが、
同じ尾根に登り鏡山へと続く。
谷道は尾根を越えてのとの干軒
コースとなり、希望ヶ丘の野外
活動センターへと続く。この谷
道は荒川谷の源流でササユリ・

ノハナシヨウブほか、湿原に咲
く花々が期待できる。
森業校から少し登ると左に広
場と東屋があり、伊勢道の登り
口がある。尾根の一番低い所を
越え、希望ヶ丘から菩提寺へと
抜ける古道だ。さらに林道を進
むと、左に岩倉城に登る表参道
がある。急な階段を登ると鉄塔
があり、その上に大きな石燈塔
が立っている。右のやぶを登り
つめると岩倉城跡の広場があり、
その左下に年中濡れないといわ
れる桜本池が深い樹林のなかに
静かに光っている。この山城は
ほとんど知られていない。
特にややうみ坂が気に入って
いる。鏡山に登り、鏡山新道を
奥鳴谷広場にくだって源流から
キャンプ場を下りる。のとの干
軒コースやジャイアントコース
から伊勢道ルート、また鏡山新
道を青年の城の駐車場に下りる
ルートなどもある。
なお、希望ヶ丘文化公園では、
「希望ヶ丘を歩こうマップ」が
発行されている。
(近江八幡市 岩野 明)

提切バス 湯沢湖 日本百名山 湯沢湖
の湯。提切バスは一人様より湯沢湖
温泉まで承ります。羽田発着安楽空
おも手配します。井田用船します。
清里イーハトーヴ
ユースホステル
〒099-1440
秋田県清里町向陽282
電話 015222-1513 9995

白岳登山、知床連山縦走、知床岬ネイ
チヤウワッチングポイント
知床五湖、カムイワッカに一番近い宿
知床岩尾別ユースホステル
(知床国立公園内)
〒099-1433
北海道知床郡標津町岩尾別
電話 015222-1412 2311

百名山 八甲田山の登山、自然観察基地
手づくりパン、シチューが人気
旅のわが家
山小屋 八甲田山荘
オープンフェー前
〒030-0111
青森市荒川字水次1-61
電話 0177-2811512

秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

大雪山 黒部ロープウェイへ徒歩5分
9008年グループ別
8名以上で1名無料(6月、10月のみ)
5月連休および6月の休業
大雪山 黒部ロープウェイ
〒076-1170
北海道十勝郡上川町黒部
電話 01658-1513 418

東北の二バスツ山・石巻、ウベサ
ツケ山の登山、朝・昼用温泉施設
新しいうちわい温泉
温泉ペンション 森のふくろ
〒060-1403 北海道厚岸郡
上士幌町森のふくろ温泉
電話 01564-4103
<http://www.onnetai/mikuro>

東北の百名山の登山、自然観察
園立公園 八幡平温泉
雲上の大観天岩園
八幡平グリーンホテル
〒018-1514
秋田県鹿角市八幡平大観天岩園
電話 0186-1312111
F 0186-1312111
<http://www.fachinara-gn.com>

秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

秋田朝ヶ岳 乳頭山へ
夏は登山、ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田沢湖 湯沢湖 湯沢温泉
〒010-0141
秋田県秋田市長田町新田
電話 010-0141-2201
<http://www.komaken.com>

山行例会の計画・報告

- ① この号では、3・4月度の計画概要と昨年11・12月に実施した例会の報告・コースタイム・参加者のお名前を掲載しています。
- ② 山行計画に参加ご希望の方は、必ず往復はがきに記入し、申込み宛へ例会当日の一週間前までにご投函ください。
- ③ 当会の山行例会に参加の際は、費用欄の交通・宿泊代等の実費のほか、本部の「山行運営費」400円「傷害保険・救援対策費」100円の合計500円を、集合時に係へお支払いください。
- ④ 配布した「ハイキング手帳」をお持ちの方は、必ず携行ください。
- ⑤ 貸切バス使用や宿泊を伴う山行に申し込まれた方には、キャンセル料をいただくことがあります。
- ⑥ 定員制での申し込み状況、空人数は、ホームページで確認できますので、検索してみてください。

〈新ハイキング関西ホームページ〉

URL:<http://www5f.biglobe.ne.jp/~hanatabi/shinhai>

〔「新ハイキング関西」「ハイキング関西」でも検索できます〕

●新ハイキングのホームページ <http://shinhai.net> にもリンクしています。

当クラブの山行例会は、旅行社が企画するツアーの登山ではありません。係(◎リーダー、○サブリーダー)は、皆手弁当で、かかる費用も同じ負担を支払って催行しています。決してツアー専門のプロガイドではありませんので、その旨ご承知ください。

また、弁当や装備品なども各自でご用意のうえご参加ください。

歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著

私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

歩き遍路の独り言



- | | |
|---------------------|---------------|
| 第1回 おへんろを知る歩行の苦悩旅 | (第1～23番) |
| 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 | (第24～36番) |
| 第3回 猛暑を体験し、克服した努力の旅 | (第37～40番) |
| 第4回 紅葉を楽しみ、歩行を見直す旅 | (第41～59番) |
| 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 | (第60～83番) |
| 第6回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 | (第84～88番と高野山) |

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。四国遍路を発心されるよう念願しています。

●本誌の振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキング関西

〒610-0121 城陽市寺田大野10-10 Tel/Fax 0774-53-2754

山行計画
(3・4月)

新ハイキングクラブ誌

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円を支払ってください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申し込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支払っていただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- ・入院保険金 日額 5000円
- ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解放時まで。事故があった場合は解放までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にいたします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないためです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。お断りが無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。

④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。

(初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
(一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
(中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
(やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りがやぶ滑ぎの連続など、急なコース(7時間以上)
(健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)の当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準により各自で判断してください(係から連絡はしません)。雨降り山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

| 4月 | | 3月 | |
|-----------|--------------------|-------|--------------------|
| 行 | 先 | 行 | 先 |
| 5(出) | 紀泉・雲山峰・旭石山 | 1(出) | 京都西山・大叢山・ポンポン山 |
| 4(出) | 南山城・海住山寺・三上山 | 2(出) | 鈴鹿・雨乞岳 |
| 28(出) | 湖東・万葉の森・太郎坊山 | 2(出) | 南勢・牛草山・温坊山 |
| 27(出) | 湖南アルプス・太神山 | 6(出) | 備前・操山 |
| 26(出) | 京都北山・静原西保・天ヶ岳 | 8(出) | 奥美濃・湧谷山 |
| 20(出) | 京都北山・北松尾山・保津川旧船曳路 | 8(出) | 伊賀・サイクリング・月ヶ瀬梅林 |
| 20(出) | 三重・高鉢山 | 9(出) | 鈴鹿・万野・大見晴 |
| 16(出) | 室生・サイクリング・吉光山・曹園高原 | 9(出) | 南勢・七洞岳 |
| 15(出) | 鈴鹿・御池岳 | 11(出) | 京都北山・中尾根・愛宕山 |
| 13(出) | 北摂・七七頭ヶ岳 | 11(出) | 神奈川・大野山・矢倉岳 |
| 13(出) | 鈴鹿・雲仙山西南尾根 | 13(出) | 室生・坂本谷・平倉峰 |
| 6(出) | 北摂丹波・赤十郎ヶ嶽 | 16(出) | 湖北・七七頭ヶ岳 |
| 6(出) | 京都西山・北松尾山・保津川旧船曳路 | 15(出) | 鈴鹿・御池岳奥の平 |
| 10(出) | 三重・高鉢山 | 20(出) | 比良・蓬萊山・小女郎ヶ池・権現山 |
| 10(出) | 室生・サイクリング・吉光山・曹園高原 | 20(出) | 京都北山・猿尾根・魚谷山 |
| 12(出) | 鈴鹿・御池岳 | 20(出) | 京都北山・静原西保・天ヶ岳 |
| 13(出) | 室生・岳の洞・三多気の桜 | 26(出) | 湖南アルプス・太神山 |
| 13(出) | 北摂・湯谷ヶ岳・鴻応山 | 26(出) | 京都北山・北松尾山・保津川旧船曳路 |
| 15(出) | 兵庫丹波・向山連山 | 26(出) | 三重・高鉢山 |
| 17(出) | 美濃・伊吹北尾根 | 19(出) | 室生・サイクリング・吉光山・曹園高原 |
| 19(出) | 湖北・音波山 | 19(出) | 鈴鹿・御池岳 |
| 19(出) | 参詣道奥駈道・百員岳・吉野・五番関 | 19(出) | 北摂・七七頭ヶ岳 |
| 20(出) | 比良・岩阿沙利山・見張山 | 19(出) | 鈴鹿・御池岳 |
| 20(出) | 鈴鹿・ミズナシ・太尾 | 20(出) | 北摂・湯谷ヶ岳・鴻応山 |
| 23(出) | 若狭・小栗 | 20(出) | 兵庫丹波・向山連山 |
| 26(出) | 丹波・権現山・霧山 | 20(出) | 美濃・伊吹北尾根 |
| 26(出) | 美濃・舟伏山 | 20(出) | 湖北・音波山 |
| 28(出) | 京都北山・天ヶ森・天ヶ岳 | 20(出) | 参詣道奥駈道・百員岳・吉野・五番関 |
| 29(出) | 丹後・鳥ヶ岳・鬼ヶ城 | 20(出) | 比良・岩阿沙利山・見張山 |
| 3(出)〜5(出) | 台高・池木屋山・馬ノ鞍峰(テント泊) | 20(出) | 鈴鹿・ミズナシ・太尾 |

*リマーカー山行

| | | | |
|-----------|--------------------|----|-----|
| 3(出)〜5(出) | 台高・池木屋山・馬ノ鞍峰(テント泊) | 40 | 村田 |
| 29(出) | 丹後・鳥ヶ岳・鬼ヶ城 | 20 | 寺井 |
| 28(出) | 京都北山・天ヶ森・天ヶ岳 | 24 | 鷺見 |
| 26(出) | 美濃・舟伏山 | * | 阪上 |
| 26(出) | 丹波・権現山・霧山 | * | 金谷 |
| 23(出) | 若狭・小栗 | 22 | 岩野 |
| 20(出) | 鈴鹿・ミズナシ・太尾 | * | 秦 |
| 20(出) | 比良・岩阿沙利山・見張山 | * | 村田 |
| 19(出) | 参詣道奥駈道・百員岳・吉野・五番関 | 20 | 高島 |
| 19(出) | 湖北・音波山 | 24 | 鷺見 |
| 19(出) | 美濃・伊吹北尾根 | 40 | 木村 |
| 17(出) | 兵庫丹波・向山連山 | 40 | 仲谷 |
| 15(出) | 北摂・湯谷ヶ岳・鴻応山 | 24 | 森脇 |
| 13(出) | 室生・岳の洞・三多気の桜 | 26 | 山口 |
| 13(出) | 鈴鹿・御池岳 | 40 | 村田 |
| 10(出) | 三重・高鉢山 | * | 西上 |
| 10(出) | 京都北山・北松尾山・保津川旧船曳路 | 26 | 田中明 |
| 6(出) | 北摂丹波・赤十郎ヶ嶽 | 40 | 岩野 |
| 6(出) | 京都西山・北松尾山・保津川旧船曳路 | * | 塚元 |
| 6(出) | 室生・サイクリング・吉光山・曹園高原 | 26 | 山田 |
| 5(出)〜6(出) | 南紀・子ノ泊山・高峰山 | 26 | 西上 |
| 4(出) | 南山城・海住山寺・三上山 | 26 | 高島 |
| 5(出) | 紀泉・雲山峰・旭石山 | 26 | 西上 |

週末ハイク79
京都西山
大善山からボンボン山
(一般向き)

3月1日(日) 日帰り
集合 阪急バス境谷センター前
バス停9時30分(JR向日町駅9・07発「洛西バスターミナル」行き乗車)

コース 境谷センター前→大善山
登山口→大善山→小塩山
→大原野森林公園案内所
→ボンボン山→善峰寺
(解散16時30分)

費用 交通費各自
地図 昭文社「北摂・京都西山」

係 ◎狩野東彦
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

早春の西山を歩き、名残の福寿草を見に立ち寄ります。雨天中止

鈴鹿を歩く281
残雪の雨乞岳(健脚向き)
3月2日(日) 日帰り **マイカー**

集合 大河原「かもしか荘」広
場8時30分
コース かもしか荘(車) 清水平
谷広場→清水の頭→南雨
乞岳→雨乞岳→シャクナ
ゲ根根→林道場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・霊仙・伊吹」

係 ◎岩野明 ○山田景三
○後藤康幸
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

毎年恒例の残雪の雨乞岳です(62号78ページ参照)
小雨(雪) 決行

南勢・牛草山から湯坊山(初級向き)
(一般向き)
3月2日(日) 日帰り **貸切バス**

集合 近鉄大和八木駅8時00分
コース 八木駅(バス) 鍛冶屋ト
ンネル登山口→牛草山→
展望台→湯坊山→寺前堂
(バス) 天理駅(解散18
時30分) *歩行5時間

費用 約3000円(バス代)
地形図 2万5千1五ヶ所浦・臨

出(5万I伊勢)
◎村田智俊 ○安倉正勝
○長比裕美
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

*定員22名(会員に限る)
志摩半島の中央、五ヶ所浦湾・
太平洋の大海原を見下ろす。滝を
見て登り、豊かな森を歩く。
小雨決行

ファミリアハイク117
備前・操山(初級向き)
3月6日(日) 日帰り **18きっぷ**

集合 JR岡山駅一階中央改札
口前10時45分
コース 岡山駅前(路面電車) 東
山→三蔵神社跡→操山→
明神寺城跡→恩徳寺→旗
振台古墳→奥市公園→東
山(路面電車) 岡山駅前
(解散16時頃)

費用 約3000円(岡山駅から)
地形図 2万5千1岡山南部
係 ◎木村太郎
申込み 〒56510854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで

自然休養林として整備された岡
山市民憩いの山。山内の史跡古墳
群など文化財の宝庫。岡山市街や
瀬戸内の眺めよし。雨天中止

自然観察山行245
スノーハイキング
奥美濃・湧谷山(中級向き)

3月8日(日) 日帰り **貸切バス**
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 遊らんど
坂内スキー場→丁字山→
湧谷山→丁字山→スキー
場(バス) 大垣駅(解散
約4000円(大垣駅か
らバス代))

費用 約4000円(大垣駅か
らバス代)
地形図 2万5千1美濃広瀬
係 ◎鷺見守康
申込み 〒50410828
各務原市藤原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで

*定員20名(申込状況に
より減員あり)
残雪の日本海型フナ林を歩きま
す。スノーシューまたはカンジキ
必須です(本誌49ページ参照)。
小雨(雪) 決行

サイクリングと登山⑦
伊賀・月ヶ瀬梅林散策
(一般向き)

3月8日(日) 日帰り
集合 近鉄桔梗が丘駅9時30分
コース 桔梗が丘駅(サイクリン
グ)→真原公園→鶴山→
広瀬橋→五月橋→月ヶ瀬
橋→広瀬商店街(駐輪場)
梅林散策道入口→梅林散
策道→月ヶ瀬尾山→ロマ
ントピア月ヶ瀬(昼食)

費用 交通費各自(自転車レン
タル希望の方300円)
地図 昭文社「都市地図」伊賀・
名張市

係 ◎山口敏明
申込み 〒51810755
名張市緑が丘144
山口敏明まで

月ヶ瀬梅林までサイクリングを
楽しみ(往復約35分)、梅林散策
道約3.5kmを散策します。自転車の

貸し出しは申し込み順に3名まで。
昼食時、自転車道路交通法等の勉
強会や自転車保険の紹介を予定。
雨天中止

近江の山シリーズ⑧
鈴鹿・万野から大見晴
(一般向き)

3月9日(日) 日帰り **貸切バス**
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりは7時20分
コース 京都駅(バス) 大君ヶ畑
登山口→林道→万野→大
見晴→万野→林道→登山
口(バス) 京都駅(解散
18時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「御在所・霊仙・
伊吹」

係 ◎森脇貞義
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*定員24名
万野から大見晴に登ります。大
見晴から御池岳が大きく見える。
アイゼンを用意してください。
雨天中止(雪決行)

展望の山42
南勢・七河岳(一般向き)

3月9日(日) 日帰り **マイカー**
集合 JR桑名駅西口6時40分
コース 桑名駅(車) なんじゃも
んじや広場→七河岳→
(往路) 一広場(車) 桑
名駅(解散)

費用 約3000円(車代)
地形図 2万5千1伊勢左原・臨
出

係 ◎山田明男
申込み 〒50310535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで

*定員10名程度
3月も三重の1等三角点に登る。
ファミリーハイクの山です。
雨天中止

火曜ハイク41
愛宕山シリーズ17
中尾根から愛宕山(一般向き)

3月11日(日) 日帰り
集合 JR保津駅9時10分
コース 保津駅→中尾根→水尾
分れ→社務所→大杉谷→
清滝(解散15時30分)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎仲谷利司 ○沖 伸

申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ツツジ尾根の隣の中尾根を水尾
分れに登ります。少し急な所もあ
りますが歩きやすい道。帰路は旧
の大杉谷からくだります。
雨天中止

富士見山行④
神奈川・大野山と矢倉岳
(一般向き)

3月11日(日) 13日(日) 2泊3日
集合 11日 JR国府津駅17
時10分

コース 11日 国府津駅(電車)
山北駅→旅館(泊)
12日 宿→大野山登山
口→大野山→合戦駅(電
車) 山北駅(入浴・車庫)
松田駅(電車) 小田急開
成駅(バス) 大雄山駅
(バス) 矢倉沢ペンショ
ン(泊)

13日 宿→矢倉山→足

栃乃葉公園 1 地蔵堂 (バス) 関本 2 小田原駅 (電車) 京都駅 (解放2時間) 費用 約3000円 (青春18きっぷ・宿泊代)

地図 昭文社「丹次」「箱根」

係 田中 明

申込み HPからメールで受付
http://hana04.hp.infoseek.co.jp

最終回の富士山行は、東側からの眺めを存分に楽しみましょう。雨天顺延(最大一週間以内まで)

室生・坂本谷から平倉峰 (中級向き)

3月13日(休) 日帰り 貸切バス

集合 近鉄福原神宮前駅中央口 8時05分

コース 福原神宮前駅(バス)比 丘尼橋ー坂本谷分岐ー三 峰山ー平倉峰ー富連山ー 坂本谷ー比丘尼橋(バス) 福原神宮前駅(解放18時 頃)

費用 約2900円(バス代)

地形図 2万5千 菅野

係 西上利和 〇川川和佳子

申込み 〒61010121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで *定員26名(会費に際る)

三重県側の坂本谷から稜線に取り付き、三峰山から少しスリリングな黄連尾根を歩きます。雨天中止

湖北の山 七頭ヶ岳(初級向き)

3月15日(出) 日帰り

集合 JR木之本駅9時30分

コース 木之本駅(電車)上丹生ー 七頭ヶ岳(普並)解放

費用 交通費各自

地形図 2万5千 木之本

申込み 高島伸浩

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

残雪の湖北の山を楽しもう。*マイカー参加可。雨天決行

鈴鹿を歩く282 残雪の御池岳奥の平(健脚向き)

3月16日(日) 日帰り マイカー

集合 御池林道小又谷分岐広場 8時30分

広場 小又谷林道ノノタノ坂 小倉岳 奥の平ーポナンブチー南峰ー十字尾根ー御池林道ー広場 (解放)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 岩野 明 〇山田景三

申込み 後藤康幸

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

毎年恒例の残雪の御池岳山行です(24号4ページ参照)。小雨(雪) 決行

比良を歩く64 蓬萊山から小女郎ヶ池・権現山 (中級向き)

3月20日(日) 日帰り

集合 JR志賀駅9時00分

コース 志賀駅(バス)びわ湖レイク(ロープウェイ) 打見山ー蓬萊山ー小女郎ヶ池ーホッケ山ー水分神社分社ー権現山ースゴバンー雲仙山(カットする場合あり)ー妙道会教団

費用 交通費各自

地形図 2万5千 八日市

申込み 村田智俊

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 村田智俊まで

舟岡山の万葉歌碑から十三仏の岩戸山に登り、尾根道を歩く。太郎坊山の巨岩からは眺望が抜群。雨天中止

前・栗原(バス)和遷駅 (解放16時50分頃) *歩行6時間

費用 約2600円(京都から)

地図 昭文社「比良山系」(2万5千 比良山)

係 桑 康夫

申込み 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

最新の121人乗りロープウェイを利用しての雪の稜線歩き。積雪状況により途中から引き返すこともあり。雨天中止

京都北山歩き128 猿尾根から魚谷山(二般向き)

3月20日(日) 日帰り

集合 京都地下鉄北大路駅タクシ ーのりば8時00分

コース 北大路駅(タクシー)祖父谷林道車止ー猿峰ーまほら谷ー魚谷峠ー魚谷山ー柳ヶ峰ー尾根道ー渡谷峠ー二ノ瀬ユリー散電二ノ瀬駅(電車) 出町柳駅 (解放17時頃)

費用 約2500円(タクシー・電車代)

地図 昭文社「京都北山」

係 村田智俊 〇安倉正勝

申込み 〒61010121

城隍市寺田大群10の10 村田智俊まで

マンサクの花を見ながら、芽吹き きの尾根をたどる。雨天中止

北山ちよつと歩き97 静原西保から天ヶ岳(二般向き)

3月26日(日) 日帰り

集合 京阪出町柳駅8時45分発 静原城山行きバスに乗車

コース 出町柳駅(バス)北大路 駅(バス)静原城山ー西 保林道終点天ヶ岳ーシャクナゲ尾根ー小出石(バス) 国際会館前(解放17 時頃)

費用 交通費各自

地図 昭文社「京都北山」

係 桑谷 昭 〇磯部 純

申込み 〒61010121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

京都北山でも親しまれている山の一つ、天ヶ岳をめぐる谷と尾根を歩きます。雨天中止

平日ふれあいハイク67 湖南アルプス・太神山 (二般向き)

3月27日(日) 日帰り

集合 JR石山駅バスのりば8 時15分

コース 石山駅(バス)アルプス 登山口ー迎不動 太神山ー失智岳ー御仏河原ーアルプス登山口(バス)石 山駅(解放16時45分頃)

費用 約1500円(京都駅か ら)

地形図 2万5千 瀬田・朝宮

申込み 寺井恒夫

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

早春の湖南アルプスを歩きます。雨天中止

金曜里山ハイキング3 湖東・万葉の森から太郎坊山 (二般向き)

3月28日(日) 日帰り

集合 近江鉄道市辺駅8時30分

コース 市辺駅ー万葉の森ー十三 仏参道口ー十三仏ー岩戸

山ー箕作山尾根ー瓦屋寺 山ー太郎坊山 太郎坊宮 ー太郎坊駅 (解放15時)

費用 交通費各自

地形図 2万5千 八日市

申込み 村田智俊

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 村田智俊まで

舟岡山の万葉歌碑から十三仏の岩戸山に登り、尾根道を歩く。太郎坊山の巨岩からは眺望が抜群。雨天中止

金曜里山ハイキング4 南山城・海住山寺から三上山 (二般向き)

4月4日(日) 日帰り

集合 JR加茂駅9時15分

コース 加茂駅ー海住山寺ー林道 一三上山 森林公園ー神 意寺ー柳倉駅(解放16時 頃)

費用 交通費各自

地形図 2万5千 田辺

申込み 村田智俊

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 村田智俊まで

自然林に包まれた山裾をめぐる、

展望の良い三上山へ登る。雨天中止

週末ハイク80 紀泉・雲山峰から爐石山 (二般向き)

4月5日(日) 日帰り

集合 JR山中淡路駅9時40分

コース 山中淡路第一パノラマ 台ー四ノ谷山ー雲山峰ー 青少年の森ー井関峠ー大 福山ー爐石山ー東ニュー タウンー六十谷駅(解放 17時頃)

費用 交通費各自

地形図 2万5千 岩出・淡輪

申込み 狩野東彦

〒61010121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

桜並木の山中淡路から関西空港・ 紀ノ川の眺めを楽しみつつ、六十 谷駅まで紀泉高原を縦走します。雨天中止

展望の山43 南紀・子泊山と高峯山 (二般向き)

4月5日(日) 1泊2日
集合 (5日) JR桑名駅西口
マイカー
6時40分

コース (5日) 桑名駅(車) 浅里登山口→子ノ泊山(往路)→登山口(車) 尾鷲民密「イワナの里」(泊)
(6日) 宿→高峯山(往路)→宿(車) 桑名駅(解放)

費用 約15000円(車代・宿泊代)
地形図 2万5千→大里・尾鷲
申込み ◎山田明男
〒503-0535

千文の山・子ノ泊山と一等三角点高峯山へ行きます。雨天決行

地図図 地形図
申込み
〒503-0535

4月6日(日) 日帰り
集合 地下鉄千里中央駅前バス
のりば⑨9時10分
コース 千里中央駅(バス) 鶴尾

地図図 地形図
申込み
〒503-0535

4月6日(日) 日帰り
集合 河内線甲津倉登り口広場
8時00分
コース 広場(車) あけん原→行者の森→笹峠→近江展望台→南堂→雲仙山→経塚山→見晴台→落合→あけん原(解放)

費用 交通費各自・自転車レンタル300円
地図 昭文社「御在所・雲仙・高原」(旧版)
申込み ◎山口敏明
〒610-0755

下山口(富嶽高原)に置き車して登山口までサイクリングを楽しみ、古光山から富嶽高原まで緩走します。*自転車貸し出しはハガキ到着順の3名まで。マイカー相乗り希望はその旨記載ください。雨天中止

4月12日(日) 日帰り
集合 近鉄桂橋が丘駅南出口9時30分
コース 桂橋が丘駅(車) 富嶽高原(サイクリング・太郎路(御成道場)) ぶきあげ(高尾) (野輪)→南峰→

サイクリング&登山⑧
室生・古光山から富嶽高原(やや健脚向き)

4月13日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば7時20分
コース 京都駅(バス) コケルミ谷登山口→真ノ谷分岐→御池池→鈴ヶ池→鞍掛峠

4月13日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅8時10分
コース 橿原駅(バス) 神木上村→コスマ林道→小須勝峠→岳の洞(杉原)→三多気の桜(花見・バス) 橿原駅(解放17時30分)

寺→勝尾寺(園地)→北摂堂園→高山→明ヶ田尾山→高山→高山城址(バス) 阪急池田駅
費用 約15000円(大阪から)

地形図 2万5千→広根
申込み ◎塚元一彦 ◎中村 登
〒536-0008

大坂市城東区園田4の14の9の301 塚元一彦まで
新ハイキング関西支部と合同
地形図を止しく読んで、山の楽しさを倍加させましょう。シルバード型コンパスを持参ください。初心者歓迎。雨天中止

4月6日(日) 日帰り
集合 河内線甲津倉登り口広場
8時00分
コース 広場(車) あけん原→行者の森→笹峠→近江展望台→南堂→雲仙山→経塚山→見晴台→落合→あけん原(解放)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

4月6日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば7時40分
コース 京都駅(バス) 西光寺→吹越峠→弥十郎ヶ嶽→吊尾根→丈山乗越→農文登→滝坊温泉出合橋(バス) 京都駅(解放18時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「北摂・京都西山」(2万5千→福住)
申込み ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎奥比裕美
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名

4月15日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば8時00分
コース 京都駅(バス) 湯谷谷口→湯谷ヶ岳→豊能キャンパ場→府境尾根→鴻巣山→牧(バス) 京都駅(解放17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「北摂・京都西山」
申込み ◎仲倉利司 ◎沖 伸
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員40名

あまり歩かれぬ府境尾根を利用し、湯谷ヶ岳と鴻巣山の二山に登ります。一部やお酒を強いられませんが、すばらしい山容の鴻巣

4月10日(日) 日帰り
集合 阪急上桂駅8時30分
コース 上桂駅→若寺前→松尾山→嵐山→鳥居→北松尾山→松尾谷林道終点→保津峡トロッコ駅→旧船場路→嵐箕館→渡月橋(解放17時)

4月10日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅8時10分
コース 橿原駅(バス) 神木上村→コスマ林道→小須勝峠→岳の洞(杉原)→三多気の桜(花見・バス) 橿原駅(解放17時30分)

◎岩野 明 ◎山田景三
◎後藤康幸
申込み
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の花の雲仙山西南尾根を歩く。今年の花はどうでしょう。雨天中止

北摂丹波・弥十郎ヶ嶽
(中級向き)

4月6日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば7時40分
コース 京都駅(バス) 西光寺→吹越峠→弥十郎ヶ嶽→吊尾根→丈山乗越→農文登→滝坊温泉出合橋(バス) 京都駅(解放18時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「北摂・京都西山」(2万5千→福住)
申込み ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎奥比裕美
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名

4月10日(日) 日帰り
集合 阪急上桂駅8時30分
コース 上桂駅→若寺前→松尾山→嵐山→鳥居→北松尾山→松尾谷林道終点→保津峡トロッコ駅→旧船場路→嵐箕館→渡月橋(解放17時)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都西山」
申込み ◎田中 明
HPからメールで受付
http://hana04.jp/ infoseek.co.jp/

対岸の桜並木をトロッコ列車がのどかに走るのを眺めながら、険路の岩場歩きも楽しみます。雨天中止

4月15日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば8時00分
コース 京都駅(バス) 湯谷谷口→湯谷ヶ岳→豊能キャンパ場→府境尾根→鴻巣山→牧(バス) 京都駅(解放17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「北摂・京都西山」
申込み ◎仲倉利司 ◎沖 伸
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員40名

あまり歩かれぬ府境尾根を利用し、湯谷ヶ岳と鴻巣山の二山に登ります。一部やお酒を強いられませんが、すばらしい山容の鴻巣

いう。マツタケと狩猟期の秋から2月中旬までは入山禁止の山。この頃の登山がベスト。小雨決行

北松尾山から保津川旧船場路
(中級向き)

4月10日(日) 日帰り
集合 阪急上桂駅8時30分
コース 上桂駅→若寺前→松尾山→嵐山→鳥居→北松尾山→松尾谷林道終点→保津峡トロッコ駅→旧船場路→嵐箕館→渡月橋(解放17時)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都西山」
申込み ◎田中 明
HPからメールで受付
http://hana04.jp/ infoseek.co.jp/

対岸の桜並木をトロッコ列車がのどかに走るのを眺めながら、険路の岩場歩きも楽しみます。雨天中止

4月10日(日) 日帰り
集合 阪急上桂駅8時30分
コース 上桂駅→若寺前→松尾山→嵐山→鳥居→北松尾山→松尾谷林道終点→保津峡トロッコ駅→旧船場路→嵐箕館→渡月橋(解放17時)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都西山」
申込み ◎田中 明
HPからメールで受付
http://hana04.jp/ infoseek.co.jp/

対岸の桜並木をトロッコ列車がのどかに走るのを眺めながら、険路の岩場歩きも楽しみます。雨天中止

4月15日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば8時00分
コース 京都駅(バス) 湯谷谷口→湯谷ヶ岳→豊能キャンパ場→府境尾根→鴻巣山→牧(バス) 京都駅(解放17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「北摂・京都西山」
申込み ◎仲倉利司 ◎沖 伸
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員40名

あまり歩かれぬ府境尾根を利用し、湯谷ヶ岳と鴻巣山の二山に登ります。一部やお酒を強いられませんが、すばらしい山容の鴻巣

4月10日(日) 日帰り
集合 阪急上桂駅8時30分
コース 上桂駅→若寺前→松尾山→嵐山→鳥居→北松尾山→松尾谷林道終点→保津峡トロッコ駅→旧船場路→嵐箕館→渡月橋(解放17時)

4月10日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅8時10分
コース 橿原駅(バス) 神木上村→コスマ林道→小須勝峠→岳の洞(杉原)→三多気の桜(花見・バス) 橿原駅(解放17時30分)

山が見られます。雨天中止

4月17日(日) 日帰り **貸切バス**

集合 JR新大塚駅一階正面口

コース 新大塚駅(バス)水分け

費用 約4000円(バス代)

吹田市桃山台1の2のB

ヒカゲツツジ開く向山から谷文

自然観察山行246

4月19日(日) 日帰り **貸切バス**

集合 JR大塚駅9時00分

城陽市寺田大群10の10

4月20日(日) 日帰り **マイカー**

コース 神崎橋(重)茶屋川林道

費用 約3000円(バス代)

4月26日(日) 日帰り **貸切バス**

4月28日(日) 日帰り

大塚駅(バス)国見峠... 費用 約4000円(大塚駅からバス代)...

丹波の山歩き... 費用 約3500円(大塚駅から)...

平日ふれあいハイイク68... 費用 約1000円(バス代)...

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
石楠花がちょうど見頃となつて
いたらしいのですが、雨大中止

丹後・鳥ヶ岳から鬼ヶ城
(一般向き)

4月29日(日) 日帰り 貸切バス
集合 J.R京都駅八条口団体バ
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス)印内一小
枝峠―鳥ヶ岳―観音寺分
岐―鬼ヶ城―分岐―観音
寺(バス)京都駅(解散
18時頃) *船路入浴あり
費用 約30000円(バス代)
地形図 2万5千 福知山東部・
河守

係 ◎村田智俊 ○安倉正勝
◎奥比格美
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名

見えた。
(参加者) 栗橋崇吉 栗橋君子
仲谷行司 萩野暢子 野末あや子
金森節子 松村雅子 村田はる江
中川節美 村井寿和 佐古田文子
呉比叡子 小池一郎 久馬麻登珂
竹内正子 上田粉子 首藤君子
富田陽子 ◎森脇貞義(計19名)

能登ヶ峰(鈴鹿を歩く273)
11月4日(日) 晴れ
(集合) 結河坊前橋広場8・30―
林道登山口9・00―能登ヶ峰10・
15―鹿の楽園11・00―P696路
11・20(昼食)―P758路―ウ
リハダカエテの森12・45―ウグイ
川林道13・45―広場14・50(解散)
秋晴れの鹿の楽園では、大バノ
ラマの中に鹿三頭を確認。ササ原
にはリンドウとセンブリが咲き、
周辺の山にも紅葉が始まり、落ち
葉の積層歩きは最高。一気に下り
たウグイ川ではヤマメを手摘みす
る人もいて楽しい山行となった。
(参加者) 森村 守 友田美保子
多賀周二 多賀久子 南 智恵子
金谷 昭 光川佛史 光川一美子
稲垣勝義 服部 堯 若本彩子
永谷鉄治 村田紀生 竹田善英
栗本敏夫 白木良弘 白木やす子

テント泊山行
台高・池木屋山から馬ノ森峰
(健脚向き)

5月3日(日) 5日(祝) 2泊3日
集合 (3日) 近鉄大和上市駅
10時30分

コース (3日) 大和上市駅(タ
クシ) 北股川林道―北
股川源流散策(泊)
(4日) 北股川源流―千
里峰―池木屋山―ホウキ
ガ峰―テント場(泊)
(5日) テント場―赤次
平峰―馬ノ森峰―カクシ
平明神出合(タクシ)
大和上市駅(解散18時頃)
費用 約60000円(タクシ)
地形図 昭文社「大台ヶ原」
係 ◎村田智俊 ○奥比格美
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

北股川源流を散策し、奥深い台
高の尾根道をテント泊で歩く。
雨天決行

神野孝允 一芝義雄 一芝美知子
石原君子 櫻田勝利 石田真由美
炭田明美 多田 徳 網木美恵子
稲津謙治 小林 修 大西節郎
武村千鶴 寺井博子 ○谷 守
◎山田崇三 ◎野野 明(計39名)

山梨・毛無山と長者ヶ岳
(富士見山行①)
11月6日(火) 8日(祝) 2泊3日
(6日) くもり(集合) J.R車
中(電車) 富士宮駅(バス) 宿16・
30(泊)
(7日) 晴れ 宿6・00(送迎)
根場バス停6・30―端足峠7・40
(朝食) 8・05―雨ヶ岳9・30―
高テッキ10・10―ニセビク11・
05―毛無山12・25(昼食) 13・35
―ベンチ14・50―滝見台15・20―
有料駐車場16・00(送迎) 宿16・
20(泊)
(8日) くもり 宿7・45(送迎)
田貫湖登山口8・00―休憩舎登降地
8・40―休憩村分岐8・55―長者
ヶ岳10・00―笠野分岐10・35―天
子ヶ岳11・00(昼食) 11・30―林
道12・35―白山権現13・00(送迎)
宿13・10(入浴) 14・20(バス)
富士宮駅16・00(車内解散)
西側至近距離からの富士山が堪

山行報告
(11・12月号)
新ハイキングクラブ関西

美濃・ゴンニヤクと滝波山
(展望の山38)

11月3日(日) 4日(日) 1泊2日
(3日) 晴れ(集合) J.R西岐
阜駅(岐阜羽羽) 飯取川温泉8・
15(車) 大和町・飯取川林道車止
9・00―ねま谷林道終点10・00―
尾根10・40―ゴンニヤク11・05―
林道終点12・00―山ノ神12・15
(昼食) 12・45―車止13・30(車)
かおれ溪谷登降由温泉15・00(車)
宿(泊)
(4日) 晴れ 宿6・50(車) 海
溝ノ谷林道車止7・30―奥の権現
7・45―尾根ビク10・00―滝波
山三角点10・45(昼食) 11・20―
奥の権現13・10―車止13・25(車)
飯取川温泉14・00(車) 西岐阜駅
17・15(解散)

佐藤文枝 三井敏一 山形 明
◎山田明男
(3日)のち山田妙子 伊藤恵美子
小林一世 馬場様子 横山かず子
(計11名)

越前・飯降山と銀杏峰
11月3日(日) 4日(日) 1泊2日
(3日) 晴れ(集合) J.R京都
駅7・20(バス) 福井インター
10・10(バス) 大野市飯降登山口
10・45(バス) 御堂10・53(昼食)
11・30―休憩12・33―飯降山13・
08―成山分岐14・27―成山14・
45―成山分岐15・14―飯降登山口
15・28(バス) 宝蔵寺いこいの森
(森林散策センター) 16・30(泊)
(4日) 晴れ 森林散策センター
6・55(バス) 小栗登登山口7・
10―11000路ブナの木7・58―
銀杏峰9・00―33―前山10・11―
20―仁王の松10・48―林道名松新
道口11・20(バス) 大野市あった
かランド12・00(浴・食) 13・20
(バス) 京都駅16・56(解散)

飯降山からは白山 明日登る銀
杏峰が間近に望めた。銀杏峰の小
栗谷からのコースはきつかったが、
頂上は360度の大展望。北アル
プスの山々が鳥のごとく浮かんで

能で、すばらしい山歩きだった。
(参加者) 上山正二 大西節郎
堀田輝子 堀江房磨 ◎田中 明
(計5名)

南紀・半作嶽
(ファミリーハイク112)
11月7日(火) 晴れ
(集合) J.R新大阪駅8・00(バ
ス) 林道北登山口11・55(12・00
―半作峠12・25(昼食) 13・10―
半作峠13・55(14・05) 半作峠14・
50(15) 林道北登山口15・10(15
―富里温泉乙女の湯15・35(入浴)
16・45(バス) 大阪駅前20・00
(バス) 新大阪駅20・15(解散)
リンドウの尾根、直下の岩場を
登り、乙女の寝顔と呼ぶ狭い山頂
に立った。秋晴れて、三ツ森山・
法師山など大塔山系を楽しんだ。
(参加者) 奥田則夫 野末あや子
木村 豊 堅田 弘 村田はる江
小山 輝 岩村孝子 伊東ナナ子
加藤幸子 須藤浩子 大岡加代子
加藤浩一 大谷登子 大須賀 實
村上嘉子 岩城豊子 金藤千恵子
志水明美 長沢佑美 中澤やす子
田中三恵子 都築由美子
◎松井明忠 ◎妹尾一正
◎木村太郎 (計25名)

美濃・鍾ヶ先
(自然観察山行239)
11月10日(日) 晴れ時々くもり
(集合) J.R大垣駅9・00(バス)
中瀬バス停9・55(10・00) 登山
口10・15―鍾ヶ先11・45(昼食)
12・30―分岐13・15(14) 関窓等
14・15(15) 寺本バス停14・30
40(バス) 池田温泉15・15(16) 池
16・15(バス) 大垣駅16・40(解
散)

鍾ヶ先はちょうど木々が紅葉に
映える季節。シロモジやクロモジ
などクスノキ科の黄葉が中心とな
り、自然林の登山道は明るかった。
(参加者) 石井照雄 緒方由子
川島勝美 佐々木三子代
栗橋崇吉 栗橋君子 徳田暢子
萩野暢子 堀田輝子 武藤由美子
山内玄次 山形 明 若林文夫
三井敏一 ○島居信吾
◎鷺見守康 (計16名)

湖北・腰ヶ岳と余呉湖・豊後湖
湖畔(サイクリング&登山③)
11月10日(日) くもりのち晴れ
(集合) J.R余呉駅9・20(サイ
クリング・余呉湖畔周回) 腰ヶ岳
登山口9・50―腰ヶ岳10・30(45
―大岩山11・45―余呉湖側下山口

峠10・40↑登山口11・25↑宿(浴
倉)13・30↑富士駅15・40(解散
2日目)は十二ヶ所付近のキレッ
ト、傾、ロープ、梯子などの置物
を積み、最終日は三分山から
子抱富士の大展望が堪能できた。
(参加者)大西新助 片岡志賀子
上山正一 小松志信 船本裕巳子
堀田輝子 前田喜久子
宮崎由美子 ○瀬江房麿
◎田中 明 (計10名)

養生・俱留尊山とダム湖畔

(サイクリング&登山④)
12月8日 晴れ
(集合)近鉄桔梗が丘駅9・30
(サイクリング)比奈知ダム10・
10↑中太郎11・30 倉倉 12・
00↑池の平公園12・35↑俱留尊山
登山口12・45↑ 亀山峠13・35
(駐輪)二本ポン13・50↑俱留
尊山14・15↑30↑二本ポン↑
亀山峠15・00(サイクリング)お
かめ池15・20↑おかめ湯温泉15・
40(入浴)16・20↑太郎路↓香落
深(喜遊ダム) 桔梗が丘駅18・
00(解散)
紅葉が終わった比奈知ダム湖畔
を走り、中太郎から亀山峠までは
坂道と登山道の階段を自転車を担

いで苦闘した。亀山峠の稜線から
見下ろすスキの草原は、太陽光
線が照り銀色にキラメク絶景。し
んどかったことを忘れさせてくれ
た。曾根高原から香雪渓を経て薄
暗くなった喜遊ダム湖畔をサイ
クリングで楽しんだ。
(参加者)徳辺茂子 船本裕巳子
寺井博子 池田 茂 南 智恵子
吉田輝子 山田昭三 ◎山口敏明
(計8名)

湖北・マキノ田原城址

(近江の山シリーズ⑥) 彦山山行
12月9日 雨のち晴れ
(集合)JR京都駅8・30(バス)
マキノ森西(大塚神社)10・05↑
田原城址登山口10・23↑田原城址
10・46(昼食)10・55↑10・10↑登
山口13・31(バス)京都駅15・50
(解散)
田原城址からは、琵琶湖、鈴鹿
の山々が目前に広がっていた。ホ
タン鍋で1年の山行を楽しみ語り、
城址を見学して下山した。
(参加者)村井芳和 野末あや子
川田洋子 呉比呂美 伊東ナナ子
金森節子 中川節子 阪上義次
宮野哲郎 宮野敏子 狩野東彦
栗橋崇吉 栗橋君子 仲谷礼司

高松野治 長沢佑美 船越みよ子
金谷 昭 藤部 純 山高多恵子
夏山登子 岩本彰子 武部美美子
有兼登子 小林 桂 加納由紀子
三井敏一 山形 明 水見真砂子
岡崎知子 小栗大直 船本裕巳子
上田裕子 ○磯野重治
◎森脇貞義 (計35名)

淡路・汐境山

12月9日 晴れ
(集合)JR明石駅8・30↑明石
港9・00(フェリー)岩屋9・35
↑汐境山11・00(昼食)12・00↑
開羅山分岐12・30↑岩屋13・30
(急降)明石港14・00↑明石駅
14・15(解散)
冬晴れの1日、潮の香り漂う淡
路島の山行だった。地の利を生か
した八木氏の解説で古の道に思い
をさせ、岩屋の町歩きに郷愁
をそそられ、ゆったりと時の流れ
を楽しんだ。(前日記)
(参加者)石田登一 前田喜久子
前川 一 馬籠忠男 池田美恵子
首藤育子 西 茂子 村田はる江
多賀久子 堀原香織 小谷和子
三輪直文 ○八木西郎
◎福岡 章 ◎岡田 昇(計15名)

高見山、高見山北尾根
12月10日 雨、11日 晴
前夜発日帰り ◎田中賢治
・雨天のため中止しました。
養生・古光山から曾根高原
12月13日 晴 ◎西上利和
・雨天のため中止しました。

美濃・金華山

(自然観察山行24)
12月15日 出 ぐもりの中雨
(集合)JR岐阜駅9・40↑10・
02(バス)岩戸公園10・20↑30↑
七曲分岐11・00↑金華山12・00
(昼食)13・15↑瞑想の小道1岐
泉公園14・20↑15・20↑公園の湖
15・30(入浴)16・10(バス)岐
阜駅16・30(解散)
岐阜市民ハイカーと観光客に混
じり、照葉樹の原生林を観察しな
がらゆっくり歩いた。下山後は岐
阜市街の居酒屋で忘年会を開いた。
(参加者)川島敬美 萩野美紀恵
栗橋崇吉 佐々木三三代
杉本 高 徳田輝子 武藤由美子
堀田輝子 山形 明 ○島居信吾
◎鷺見守康 (計11名)

伊勢路⑤

④矢ノ川から横枝の渡し場路
◎志古かど万歳峠越
(紀伊山地の参詣道を歩く16)
12月15日(伊)16日(伊)1泊2日
(15日)晴れ(集合)近鉄上本
町駅8・00↑05(バス)志古林道
生倉地12・00↑林道登り口12・30
↑一瀬上人名尊碑・桜地蔵13・40
↑林道登り口13・50↑万歳越合流
00(昼食)13・50↑小雲取越合流
14・20↑25↑松畑系林道14・35↑
休耕地15・00↑10↑清川15・30↑
45(バス)高田グリーンランド雲
取温泉16・50(泊)
(16日)晴れ 宿8・00(バス)
桑の木滝口8・15↑桑の木滝8・
30↑40↑桑の木滝口8・50↑9・
25(バス)熊野連玉大社9・50↑
11・30(バス)板間御道登り口
10・20↑夕陽の丘公園12・00↑10
↑根枝集落13・00↑30(バス)志
古ウォータージェットののりば14・
10(昼食)15・00(バス)大阪駅
西口17・50(解散)

西山・丸茅山

(鈴鹿を歩く276) 彦山山行
12月16日 ぐもり時々雪
(集合)蔵王ダム広場8・00(車)
専用ロッジ8・20(車)平土峠10・
00↑西山10・00↑平土峠10・40
(車)専用ロッジ10・50(昼食)11・
年(車)14・40(解散)
朝からみぞれまじりの雪で専用
ロッジに直行。希望者だけ雪のな
か、西山に登る。急登1時間から山
頂。深いガスで雪原のなかに三角
点を確認して下りる。昼前から昼
食忘年会。新ハイ関西の現状と山
行運営費の説明を、鈴鹿の山サ
ミット開催。食べて歌って皆んな

選の桑の木滝を見物し、連玉大社

に参拝した。飯屋の手前まで県道
をバスで行き、夕陽の丘公園に登
り、車道と交差する古道を歩いた
が、途中から県道を離れてバスに
会えず帰郷の里へくだった。
(参加者)川田洋子 村田はる江
岡崎知子 多賀久子 野末あや子
宮野哲郎 宮野敏子 伊東ナナ子
白鳥忠子 片山克博 片山京代子
高橋裕治 宮崎へ子
河原美代子 ○呉比呂美
◎安倉正勝 ◎村田智俊(計7名)

大いに楽しんだ。

(参加者)白木良弘 白木やす子
金谷 昭 藤部 純 南 智恵子
山田明男 山田敏子 光川二美子
小松志信 一芝義雄 一芝美知子
武村千鶴 岩本彰子 奥野太郎
永谷鉄治 萩野暢子 佐古田文字
木下朝子 小林 修 石田真由美
藤田勝利 栗本敏夫 網本美恵子
谷田明夫 仲谷礼司 友田美保子
谷 守 大西哲郎 北村つねみ
稲津謙治 磯部 純 ○後藤康幸
◎山田三三 ◎石野 明(計37名)

深東・三上山から田中山

12月18日 ぐもり
(集合)JR野洲駅9・20(バス)
山出前9・30↑打越10・10↑
20↑地の懐10・35↑三上山10・45
↑55↑花輪公園11・40(昼食)12・
30↑びわ湖12・40↑妙光寺山分岐
13・10↑妙光寺山腰庫仏13・40↑
50↑田中山14・40↑45↑相模原山
14・50↑野洲中学校15・10↑福林
寺跡跡庫仏15・20↑30↑野洲駅16・
00(解散)
話題の「謎の城」を見て三上山
へ。山頂は人で埋まる。花輪公園
への下りはさすがにきつかった。

広い公園で昼食後、縦走路に戻り、

途中進路を変えて妙光寺山へ。磨
崖仏を見てから田中山と相模原山
へ。後方に三上山の勇姿が眺めら
れ、感嘆の声が上がった。最後にも
う一つの磨崖仏も見えた。
(参加者)堀江房麿 木村 聡
大林 進 山本重司 松村輝子
須藤浩子 飯田二郎 宮路へ子
栗橋君子 森本幹雄 片岡志賀子
栗 良方 松尾麗子 野末あや子
木下朝子 夏山春子 野里マツ代
武村千鶴 岩本彰子 武部美美子
森 理代 萩野暢子 久馬麻登可
狩野東彦 細野欽也 南 智恵子
後藤純子 川上久堅 小寺三木夫
山根弘美 渡部和美 佐々木幸子
妹尾一正 長沢佑美 河本美千子
塚本忠次 中尾博子 森実登美子
堀内昭智 角江朝子 川上香代子
吉野栄子 栗橋崇吉 小川富士雄
舟岡 武 栗岡克子 小川富十雄
谷 守 長尾一合 今村あやの
小松志信 石原君子 加納由紀子
中川輝子 和田直樹 宮崎由美子
中川光郎 竹田善明 中原真理子
栗田幸子 岩野 明 ○中川節子
◎岸谷礼司 (計65名)

保津峡から北松尾山・烏ヶ岳
(北山ちよっと歩き91)

12月19日(例) 晴れ
(集合) JR保津峡駅9・30〜40
登山口トロッコ敷道保津峡駅10・
02―林道終点広場10・50〜57―北
松尾山11・15―烏ヶ岳12・17(昼
食)12・57―嵐山城跡13・15―松
尾山13・55―飯堂嵐山駅14・25
(解散)

トロッコ保津峡駅より急登を乗
り越すと、落葉した雑木林の日溜
りハイクとなった。烏ヶ岳を過ぎ、
嵐山城跡付近からは京都市内の眺
望を楽しむ。遊月橋公園での忘年
会は大いに盛り上がった。

(参加者) 飯田二郎 仲谷行司
大林 進 今泉 勲 金森節子
木下朝子 宮西和子 松上美代子
岩本彩子 小栗大直 光川二美子
山科邦彦 井上麗美 井上由紀晴
崎山悦子 宮崎紀正 佐々木彩子
加藤浩二 前田初雄 原 りとえ
和田直樹 志水明美 友田英保子
後藤穂子 松木中雄 高木中夫
渡部和美 岡田里子 萩野暢子
大東 哲 森 康夫 秦 美代子
本間 隆 本間繁子 中嶋日出男
塚本忠次 大谷登子 山盛加奈子
仲山節子 小山昭美 梶 恵美子

岩村登子 森 和久 清 紀嘉
林 弘毅 岩城豊子 石原君子
呉山繁三 村井寿和 渡辺草月
多田 健 ◎山谷 守
◎磯部 純 ◎釜谷 昭(計34名)

北摂・五月山
(ファミリーハイカー14)

12月20日(例) 晴れ
(集合) 阪急池田駅10・10〜15
五月山公園入口10・30〜35―五月
台11・00〜10―五月展望台11・
40(昼食)12・25―千代山12・40
―50―六個山林道入口13・25〜30
―六個山13・45〜55―桜谷道分岐
14・30〜40―真面スパ―ガーデン
15・10(忘年会)18・00―阪急箕
面駅18・10(解散)

大文字コース自然とのふれあい
コースをたどり、日の丸展望台の
建つ千代山に登る。車道をつなぎ
尾根伝いの道を骨折りもなく六個
山に登った。雑木林のすき間から
大阪湾の眺めが見通せた。

(参加者) 岡崎知子 道平まわみ
木内穂文 村上芳子 伊東チナ子
本間昭恵 村上陽子 中澤チナ子
山下恒三 木下朝子 村岡雄志郎
加藤浩一 川上久堅 田中三恵子
長沢佑美 山根弘美 今村あやの

岩城豊子 兼田幸子 佐々木幸子
成川みさお ◎妹尾一正
◎木村太郎 (計23名)

湖北・二の谷山(菅山行)

12月22日(例) 23日(例) 1泊2日
<22日> (集合) 朽木支庁13・
25 水坂峠13・55―二の谷山15・
15―桜峠16・10―くつき温泉17・
00(忘年会・泊)
(23日) 各自帰路へ
分水嶺の二の谷山を水坂峠から
桜峠まで雨のなかを歩いた。早く
入ろうとくつき温泉に向かい、忘
年会で盛り上がり、心ゆくまでの
美酒に夜中まで語り合った。

(参加者) 須藤浩子 武藤由美子
萩野暢子 山形 明 船本裕巳子
宮西和子 岩本彩子 南 智恵子
木下朝子 白木良弘 白木やす子
谷 守 神野孝允 石原君子
狩野東彦 岡近正男 杉野茂樹
◎高島伸浩 (計18名)

年末にロングコースを歩く
北河内・津田駅から枚岡公園
12月30日(例) 晴れ
(集合) JR津田駅8・10〜15―
源氏の滝8・35〜45―白飯池9・
05―交野山9・20〜25―いきまの

ふれあいの里駐車場9・40―傍示
野外センター10・00〜05―八つ橋
10・30―くろんど池10・45〜50―
展望台11・00―鉄塔11・10―鉄
塔11・35〜40―林道終点展望台11・
55(昼食)12・25―八丁志12・50
―55―北田原集落13・10―田原台
戎公園13・30〜40―水路道―常尾
池14・00―室池14・35〜45―権現
川コース―権現の滝15・30〜45―
御机神社16・00―四家蔵神社16・
15―四家蔵駅16・30〜40(解散)

くろんど池まではほろ予想タイム
で行けたが、府県境尾根の巡視路
は時間がかかり、田原台の戎公園
で30分遅れ、室池では50分遅れと
なり、生駒山越は断念して権現川
コースを四家蔵駅へくだった。

(参加者) 高橋健司 阪上義次
長沢佑美 岩城豊子 平田美次
三井祐一 有藤 登 西谷真美子
傍田治美 傍田昌子 川戸せつ
狩野東彦 加藤浩一 前田初雄
妹尾義行 堀内留智 小尾末吉
多田 徳 渡部和美 大平 漸
岡崎知子 滝尾健治 辻田詞子
米谷建治 林 信男 伊谷礼司
◎秦 康夫 ◎高比掬美
◎村田智俊 (計29名)

11・12月の参加 延864名

新ハイキングクラブ関西入会案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心にしたハイキン
グの集いです。山の知識を深め、
健康な身体をつくり、自然のなか
を歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に57年
間余、好評のうちに活動していま
す。関西は平成3年秋発足で17年
目に入りますが、すでに数千名の
会員で活動しています。

会員は当会のイベントに優先し
て参加できます。多くの仲間達と
ハイキングを楽しみませんか。
会員には「新ハイキング関西の
山」を毎月お届けします。
係(リーダー)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊もすべてワリカンで
す。会員が例会に参加される時は、
山行運営費として400円を支出
していただきます。

四季の自然に触れながらの山歩
きから、ウォーキングまで、若々
しい心と健康をいつまでも持続す
るのほすばらしいことです。これ

から始めてみたい人、すでにベテ
ランの人もみなさんご入会いた
けます。
入会金 500円(ワッペン共
年会費 3300円(送料共)
入会のお申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用
ください。第何号からの送本かを忘
れずにご記入ください。
なお、定期購読を希望される
方も会員になっていただきますと、
振替用紙にお手元が届きます。

お友達住所・氏名をハガキで
紹介くだされば、「新ハイキング
関西の山」最新号を見本誌として
無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集
係は2ヶ月に1回程度山
行例会を計画・実施していただき
ます。
無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいと思います。経験のある
方、やってみたいと思われる方は、
新ハイキング関西までご連絡
ください。「リーダー必携」をご
参考にお送りします。

2000年1・2月新巻号より
本誌の定価を560円(税込)に
改定しました。年間購読料(大巻)は
3300円になっています。
*今号分より、振替での手数料金
(手数料用紙・窓口120円)
もみなさまのご負担となります。

新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5330番から5344
番まで(敬称略)。
【愛知】 佐治 登
【福井】 岡近正男
【滋賀】 我部正路 谷内智恵美
増田義人
【京都】 西村敬夫 松浦 巖
和田敏子 石田里美
萩野忠男 橋本 彰
【大阪】 堀 和夫 南 庄一郎
加藤弘子 加藤すすゑ
(15名)

訂正とお詫び・忘れの書き直し
○97号(晩秋)
*103ページ上段8・13・22行目
「北松尾山」→「北松尾山」(95ペー
ジ下の二重表も同じ)
○98号(新春)
*12ページ上段本文10行目「二億
五千万年」→「二億五千万年前」
*12ページ下段本文21行目「13ペー
ジ上段10行目「ミスレ」→「スマ
レ」
*21ページ付近略文中「因幡國料
誌」→「因幡國行誌」
*29ページ中段18行目「舞合野」
→「舞合野(もったの)」

*61ページ中段1行目「(内容)」
のルビ「ないぐう」→「ないぐう」
同ト段6行目「お迎えされた」→
「お迎えした」
*62ページ中段7行目「播川」→
「播川」
*63ページ付近略文中「松坂」→
「松坂」(2ヶ所)、また「至南勢
町」→「至南伊勢町」
*72ページ中段17行目「国家倉
蔵の地」は「国家倉蔵の地」
*83ページ一段7行目「チクゲサ
シ」→「チクゲサシ」
*107ページ下段23行目「雲霧本線」
→「紀勢本線」
*110ページ下段6〜7行目「ア
ン・アルナサウス」→「アン・アル
ナサウス」 (編集室)

お知らせ
2000年1・2月新巻号より
本誌の定価を560円(税込)に
改定しました。年間購読料(大巻)は
3300円になっています。
*今号分より、振替での手数料金
(手数料用紙・窓口120円)
もみなさまのご負担となります。